

山形県立博物館研究報告

第 14 号

BULLETIN

OF

THE YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

NO. 14

山 形 県 立 博 物 館

YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

Kajo Machi, Yamagata City, Japan

山形県立博物館研究報告

第 14 号

BULLETIN

OF

THE YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

NO. 14

山 形 県 立 博 物 館

YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

Kajo Machi, Yamagata City, Japan

March, 1993

序

このたび、『山形県立博物館研究報告』第14号を発刊いたしました。

多岐にわたる館活動の大きな柱である「展示」を支えているのが「調査研究」ですが、このことはとかく看過されがちです。山形県を代表する文化機関の一つとして、「山形学」に焦点をおいた基礎研究は、とりわけ、たいせつに考えなければならないと思います。

自然系では、「琵琶沼湿原の植物群落に関する報告」(竹村健一)、「山形県大蔵村の鮮新統野口層から産出したヒゲ鯨類の尾椎化石」(長澤一雄)、「山形県の蛾類分布資料(VIII)」(木俣繁)、人文系では、「青芋の生活文化史」(菊地和博)、「山形水野藩剣術師範役田嶋岩尾と門弟について」(川瀬同)を収録しております。郷土山形について理解を深める一助になれば幸いです。各位のご指導、ご叱正をお願い申し上げます。

平成5年3月

山形県立博物館

館長 古沢平太郎

目 次

○序	館 長	
○琵琶沼湿原の植物群落に関する報告	竹村健一	1
○山形県大蔵村の鮮新統野口層から産出したヒゲ鯨類の尾椎化石	長澤一雄	15
○山形県の蛾類分布資料(VIII)	木俣 繁	23
○青芋の生活文化史	菊地和博	61
○山形水野藩剣術師範役田嶋岩尾とその門弟について	川瀬 同	1

(右開き)

琵琶沼湿原の植物群落に関する報告

竹村 健一*

1 はじめに

琵琶沼は山形市西方約17kmに位置し、「県民の森」(山辺町畑谷)の中にある県立博物館附属学習園内の周囲約1kmの小さな沼である。この沼は標高650mの低地にありながら高層湿原の植生が発達することから県の天然記念物に指定されている。ここの植物相などについては、結城ら(1990)¹⁾、竹村(1992)²⁾、渋江(1992)³⁾などの報告があるが、生態学的な知見はほとんどない⁴⁾。

また、近年、隣接する畑の方の縁からヨシの繁茂が見られ、天然記念物管理の視点から湿原植生の現状調査が急務と考えられていた⁵⁾。

しかし、琵琶沼全体の植生の調査を行うための条件がなかなか揃わなかったため、筆者は、とりあえず、琵琶沼の中のミズゴケ湿原を中心にその植生の解析(群落の把握と分布の様子の記事)を目的としてこの調査研究を行った。

なお、この研究を進めるにあたり、山形大学教養部教授齋藤員郎教授には、コンピューターを使った解析の方法や、群落の類型について多大な指導助言をいただいた。記して感謝の意を表したい。

* 山形県立博物館学芸員

2 調査方法

(1) 調査日 平成4年8月5日～6日
11日～12日

平成4年10月29日

(2) 調査地・調査方法

琵琶沼の湿原は二つに分けられる(図1参照)。それぞれ長径の方向にラインを張り、それに沿って1m²の方形調査区(スタンド)を連続して設定し、出現する全種の優占度を Braun-Blanquet 法で記録した(線状調査)。

調査区数は、湿原A(ライン1)では140、湿原B(ライン2)では100である。

こうして得られた優占度を用いて、構成種間の分布相関(共存指数)および群落類似度を求め、クラスター分析(群平均連結法)によって、分布行動が類似する生態種群と構成種が類似する方形区群の抽出をおこなった。方法は、齋藤(1988)⁶⁾にならない、次のような式を用いた。

2 種間の共存指数について

$$C = 2 S_j / (S_a + S_b)$$

C: 共存指数

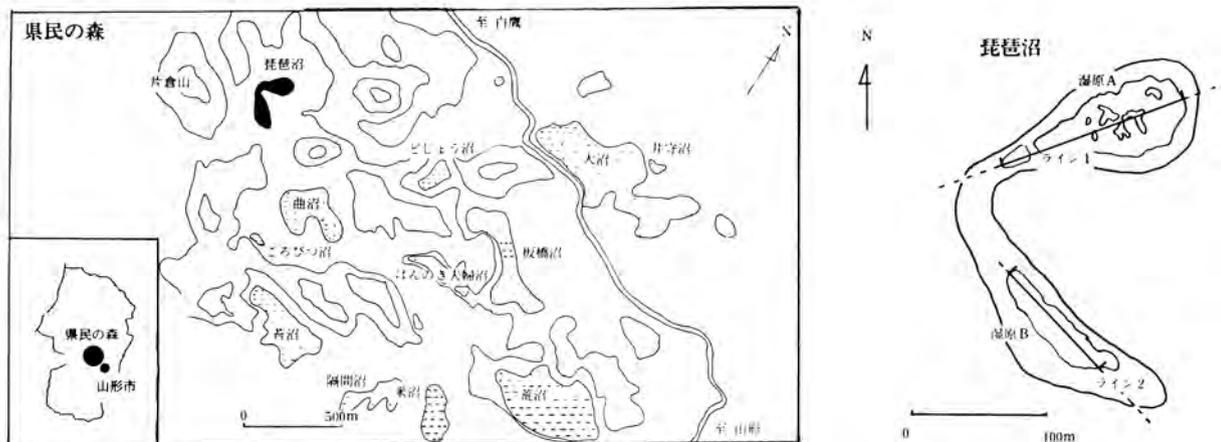


図1 調査地概略

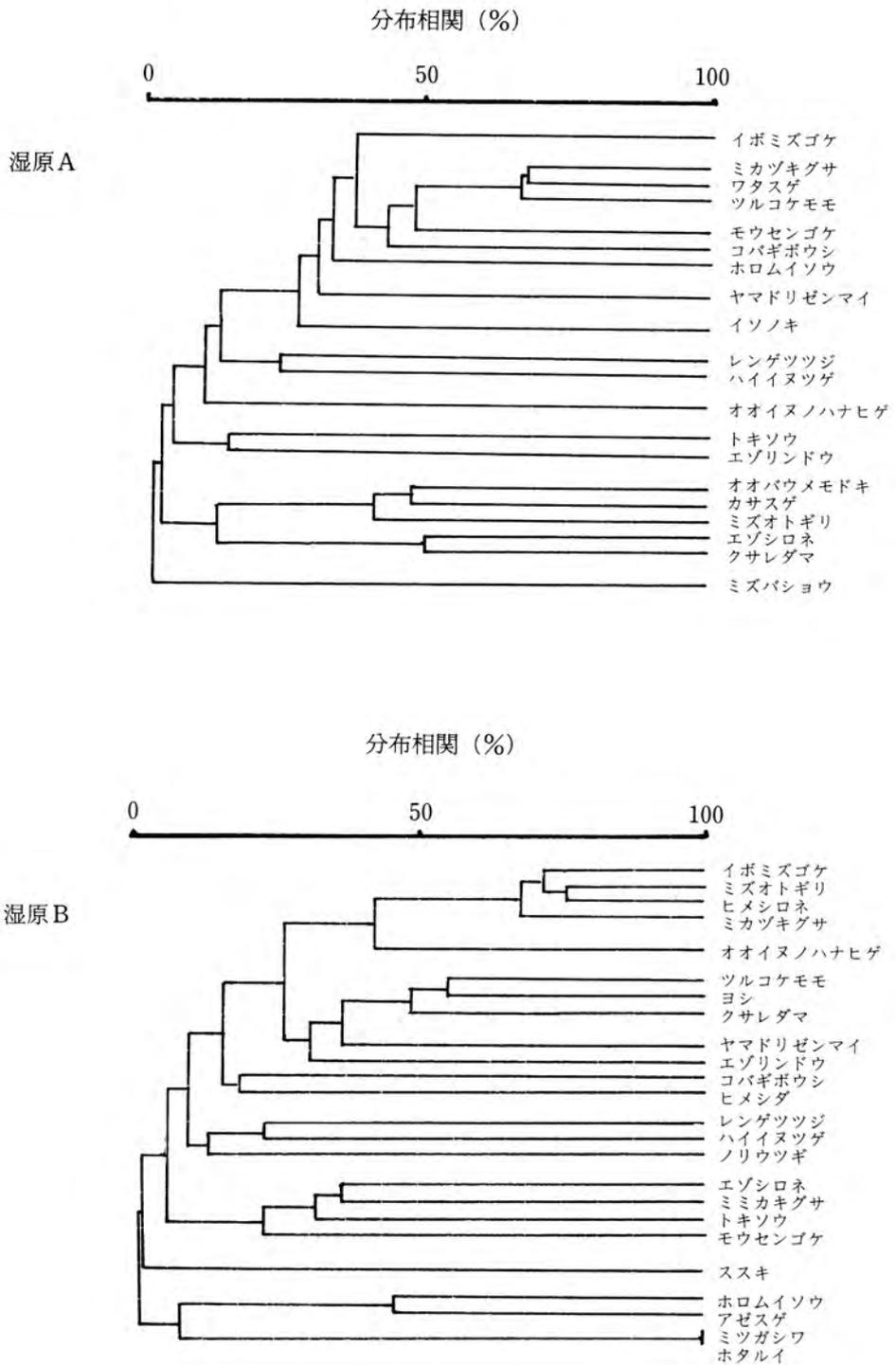


図2 分布相関による種群構成

Sa, Sb:それぞれA, Bが出現する調査区数

Sj:両者が共存する調査区数

群落類似度について

$$C = 2 C_j / (C_a + C_b)$$

C:類似度指数

Ca: Aスタンドにおける優占度の合計

Cb: Bスタンドにおける優占度の合計

Cj:両スタンドに共通する各種の優占度の
小さい方の値の合計

なお、野外で測定した優占度は van der
Maarel⁹⁾に従って、次のような値に変換して使用
した。

Braun-Blanquet 法	変換値
5	9
4	8
3	7
2	5
1	3
+	1

今回の調査は湿原部分の陸上植物を中心として
おり、水生植物については測定していない。した
がって池塘などに当たった方形調査区は、分析か
ら除外した。

また、湿原の地形の状況を把握するために、そ
れぞれのラインに沿って、微地形断面図を作り、
群落の分布との関係について考察した。

3 結 果

種の分布相関についてクラスター分析した結果
を図2に、また、群落類似度による方形区のクラ
スター分析の結果を図3に示す。

さらに、これらの種群、方形区群を基にしてま
とめた種組成を表1、2に示した。

(1) 群落型について

湿原A

a ミカヅキグサー-ホロムイソウ-イボミズゴケ群

落

小凹地に多くみられ、ミカヅキグサ、ホロム
イソウ、モウセンゴケなどが目立つ。

b イソノキーツルコケモモ-イボミズゴケ群落

イソノキの優占度が高く、ワタスゲ、ツルコ
ケモモ、ミカヅキグサなどが見られる。

c ワタスゲ-ツルコケモモ-イボミズゴケ群落

ツルコケモモの優占度が高く、他にワタスゲ、
コバギボウシ、ミカヅキグサが目立つ。イソノ
キーツルコケモモ-イボミズゴケ群落と同じよ
うに小凸地に多い群落である。

d ワタスゲ-イボミズゴケ群落

ミカヅキグサ、ツルコケモモが少々見られる
ほかは、ワタスゲが優占している群落である。

e ヤマドリゼンマイ群落

ミカヅキグサ、ツルコケモモ、ワタスゲの他
にヤマドリゼンマイ、レンゲツツジが優占する
群落で、湿原の周辺部や池塘の縁によく見られ
る。

f オオバウメモドキ群落

湿原の縁に見える低木林の群落で、ほかにハ
イイヌツゲ、ヤマドリゼンマイがみられる。ま
た、カサスゲ、ミズオトギリなど、ほかの立地
にみられなかった種類が出現してくる。

湿原B

g オオイヌノハナヒゲ群落

オオイヌノハナヒゲとミカヅキグサが優占す
る。イボミズゴケはほとんどない。基質は、泥
炭が分解して泥土状をなしている。

h ミカヅキグサー-ヒメシロネ-イボミズゴケ群落

イボミズゴケ、ミカヅキグサが優占する点で
は、湿原A中央部の群落と似ているが、大きな
違いは、ミズオトギリ、ヒメシロネ、クサレダ
マなどの低層湿原の植生を構成する種⁷⁾が多
く出現していることである。

e ヤマドリゼンマイ群落

湿原Aのヤマドリゼンマイ群落と同じように、周辺部に見られる群落であるが、ノリウツギ、ヨシなどが部分的に生育している。湿原Aより乾燥している。

i ミカヅキグサーヒメシロネ群落

イボミズゴケを欠く。そのほかの種構成では前述のミカヅキグサーヒメシロネーイボミズゴケ群落とほとんど同じである。

j オオイヌノハナヒゲミカヅキグサーイボミズゴケ群落

イボミズゴケは部分的に残っているが、ほかに泥土上にミカヅキグサやミズオトギリ、ヒメシロネ、オオイヌノハナヒゲが多くみられる。

特に、ミカヅキグサが優占している。

k ミカヅキグサーミミカキグサ群落

基質は粒粉状の泥土である。ミカヅキグサが多いがミミカキグサ、トキソウなど過湿地に出現する種が見られる。

(2) 微地形との関係

(1)の群落型と主な植物の優占度の変化を図4に示す。

この図から、湿原Aにおいては、凹地ではミカヅキグサが、凸地ではツルコケモモ、ワタスゲ、イソノキなどが多くなることがわかる。また、ヤマドリゼンマイは、周辺部などで多く、植物と微地形の関係が深いことがわかる。

湿原Bでは、地形がほぼ平らであるので、群落の変化及び優占度の変化と微地形との関係は考えにくい。したがって、ライン2に沿った植生の変化は他の要因と考えられる。

4 考 察

琵琶沼の西側一帯に、高冷地野菜生産団地を造成する計画が昭和47年から計画されていた。周辺林の伐採はもとより、琵琶沼の水をその用水とし

て利用する計画だったという。そこで、県立博物館が自然学習園として、琵琶沼周辺を買い上げてその自然を保護してきたという経過がある。

ところが、買い上げる直前まで、園芸用にするためのミズゴケの採取が行われ、その量もかなりに及んだという。

湿原Bの状態は、そのような、人為的圧迫のもとに作り出されたものである。従って、ミカヅキグサーヒメシロネーイボミズゴケ群落やヤマドリゼンマイ群落等は、ミズゴケ採取から免れた原植生の残存と考えることが出来る。ミズゴケが採取されたために泥炭がむき出しになったり、湿原の高さが低くなって、ミズオトギリ、クサレダマ、ヒメシロネ、エゾシロネ等の低層湿原の植物が多くなってきたと予想される。

このように、人為的作用によって変化した湿原であるが、昭和51年の買い上げ以降、ほとんど人の影響を排除して保護されてきた。湿原Bの植生が、原植生と予想されるミズゴケ湿原に回復の方向で変化しているか否かは、今回の調査では断定できない。これからの調査の課題である。

一方、湿原Aは、幸いにして人為的な影響を受けなかったために、高層湿原的な群落の様相がはっきりしている。

ミカヅキグサーホロムイソウーイボミズゴケ群落は、ミカヅキグサやホロムイソウが特徴となる高層湿原の小凹地の群落の型と考えられるし、イソノキツルコケモモーイボミズゴケ群落、ワタスゲツルコケモモーイボミズゴケ群落は同じく小凸地の群落の型と考えられる。

また、ワタスゲーイボミズゴケ群落も高層湿原の小凸地、小凹地の斜面などに見られるものであり、上記の4つの群落は、いわゆる高層湿原の再生複合体⁷⁾を形成しているものである。

その他、ヤマドリゼンマイ群落は、中間湿原の典型的な群落であり、オオバウメドキ群落は、

低層湿原の構成種であるシロネ類、クサレダマなどによって特徴づけられるが、これらの群落は湿原周縁複合体⁷⁾を形成している。

このように湿原Aは、オオイヌノハナヒゲ群落の発達を見ない、イボミズゴケ群を主体とする高層湿原群落の発達が著しい湿原である。

山形県の低地の湿原は開発などにより、どんどん減少している上に、その調査研究についての報告は橘ら(1978)⁸⁾によっていくつかされているものの決して多いとはいえない。琵琶沼の調査を進めると共に県内の低地湿原の調査研究の推進も大きな課題と言える。

5 摘 要

- 1) 琵琶沼の湿原の植生を解析するために、線状調査法を用いて、植物の優占度を調査した。その結果を使い、クラスター分析を行い、群落型を決定し、考察を加えた。

また、湿原上の地形の状況を把握するため微地形断面図を作り、群落の分布との関係について考察した。

- 2) 植生資料は、クラスター分析の結果、次のような群落にまとめることが出来た。

湿原A

ミカツキグサーホロムイソウーイボミズゴケ群落、イソノキーツルコケモモーイボミズゴケ群落、ワタスゲーツルコケモモーイボミズゴケ群落、ワタスゲーイボミズゴケ群落、ヤマドリゼンマイ群落、オオバウメモドキ群落

湿原B

オオイヌノハナヒゲ群落、ミカツキグサーヒメシロネーイボミズゴケ群落、ヤマドリゼンマイ群落、ミカツキグサーヒメシロネ群落、オオイヌノハナヒゲーミカツキグサーイボミズゴケ群落、ミカツキグサーミミカキグサ群落

- 3) 微地形との関係を見てみると、特に湿原Aにおいては、湿原面の凸凹に植物の分布が対応していることがわかった。湿原Bについては特に対応している様子はみられなかったが、これはミズゴケ採取という人為的な圧迫のためと考えられる。

- 4) 植物群落の検討から湿原Aは、高層湿原の各種複合体がみられ、自然植生のよく保存された湿原である。湿原Bでは、かつて、人為的な攪乱を受けた後の二次遷移の途中の植生がみられる。

6 引用文献・参考文献

- 1) 結城嘉美ら 1990：山形西部地域における貴重植物の分布，西部地域自然環境調査報告書，141-149，山形市
- 2) 竹村健一 1992：附属学習園・琵琶沼の植物，山形県立博物館研究報告第12号
- 3) 渋江千登勢 1992：山形県琵琶沼湿原における水性植物の生態について，山形大学教育学部卒業研究
- 4) 山形県 1978：環境庁委託 第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書，94-96
- 5) 石塚和雄ら 1990：山形西部地域の植生，西部地域自然環境調査報告書，119-122，山形市
- 6) 斎藤員郎・寒河江秀寿 1988：船形山西山腹の自然植生とその分布構造，山形大学紀要(自然科学)12，1，35-51
- 7) 斎藤員郎 1977：植物生態学講座1，石塚和雄編，群落の分布と構造，242-261，朝倉書店，東京
- 8) 橘ヒサ子，斎藤雄孝 1978：山形県低地湿原の植物生態学的研究 I 眺山湿原の植生，山形大学紀要(自然科学)9，3，409-431
- 9) Maarel, E. van der, 1979：Transformation

of cover-abundance values in phytosociology and its effects on community similarity. *Vegetatio*, 39, 97-114

- 伊藤浩司, 橘ヒサ子, 中山修一 1978: 柏原東湿原の植物生態学的研究(1), 吉岡邦二博士追悼植物生態論集, 1-22, 東北植物生態懇話会, 仙台
- 橘ヒサ子, 斎藤員郎, 中山修一 1978: 北海道胆振・十勝地方の低地湿原植生—とくに立地条件との関係について—, 吉岡邦二博士追悼植物生態論集, 1-22, 東北植物生態懇話会,

仙台

- 山形県理科教育センター編 1973: 山形県自然観察の手びき 生物編, 69-79
- Tachibana, H. and k. Saito 1972: *Bull. Yamagata Univ. (Nat. Sci)*, 8, 113-129
- Tachibana, H. and k. Saito 1972: *Bull. Yamagata Univ. (Nat. Sci)*, 8, 261-278
- 石塚和雄, 斎藤員郎, 橘ヒサ子 1975: 月山および葉山の植生, 山形県総合学術調査会
- Tachibana, H. 1976: *Bull. Yamagata Univ. (Nat. Sci)*, 9, 113-135



湿原 A



ホロムイソウ



湿原 B



トキソウ

優占度 5 4 3 2 1 +

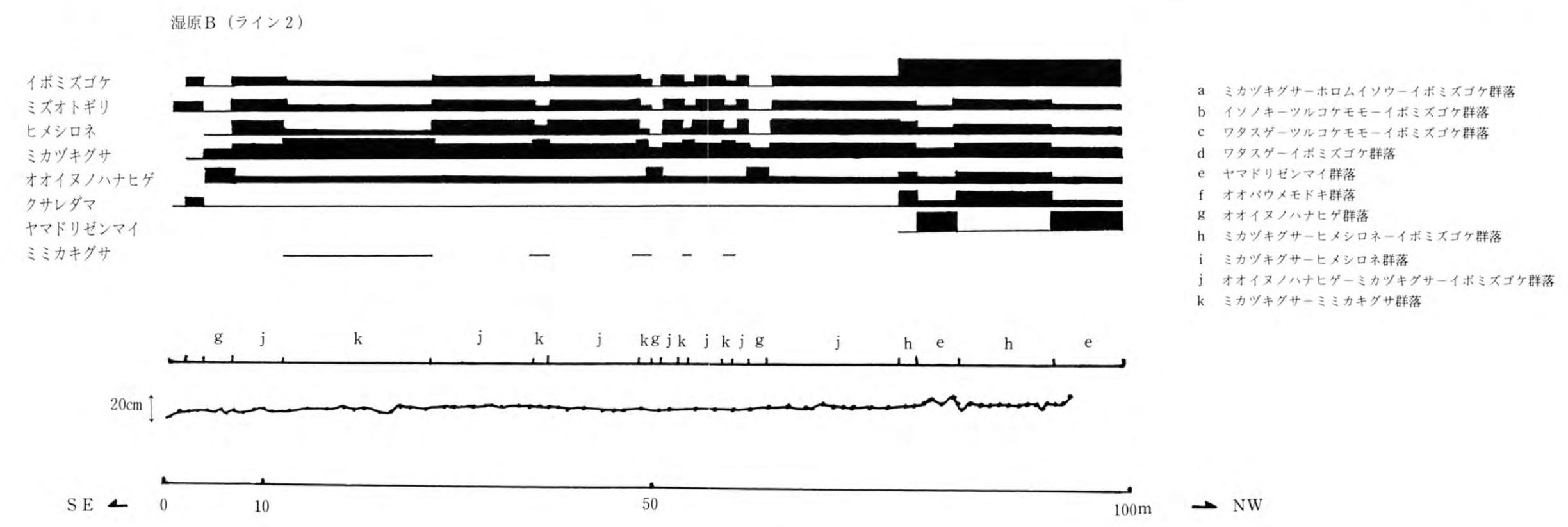
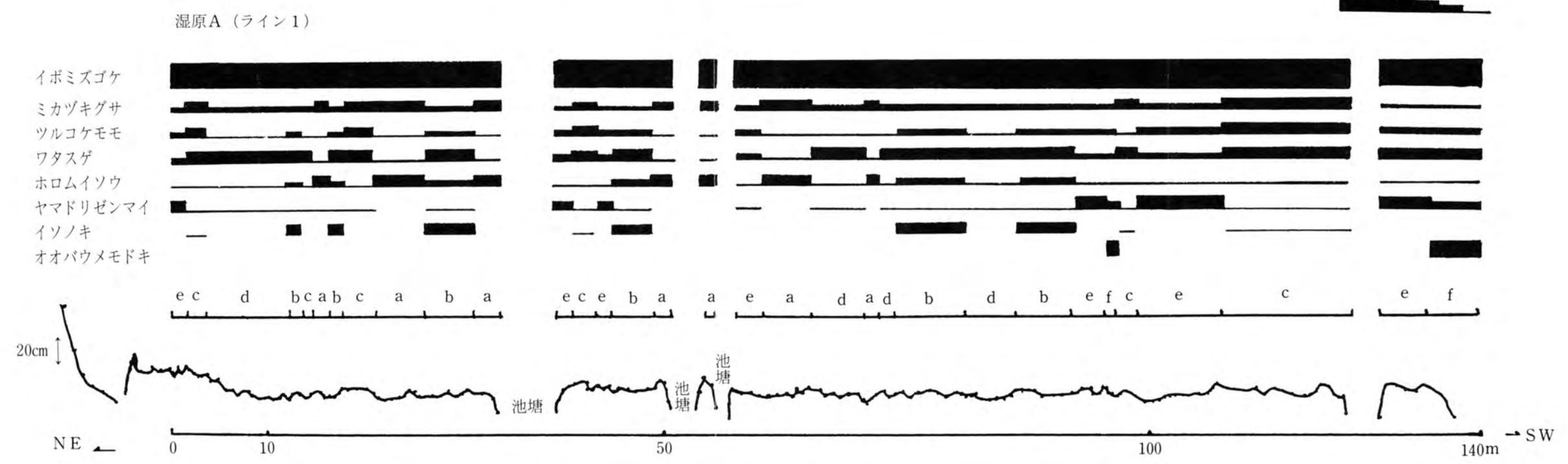


図4 ライン1, 2に沿う微地形の様子と主要植物の優占度の変化

山形県大蔵村の鮮新統野口層から産出したヒゲ鯨類の尾椎化石

長澤 一 雄*

A fossil caudal vertebra of baleen whale from the Pliocene Noguchi Formation, Okura-mura, Yamagata Prefecture, Northeast Japan

Kazuo Nagasawa

I はじめに

1992年6月に、山形県大蔵村豊牧の南方の赤松川の上流から、伊藤定雄(舟形町)によって、椎骨化石が1点、転石として採集された(図1)。化石は山形県立博物館に調査の依頼がなされ、本館へ搬入された。化石は部分的に母岩におおわれていたため、長澤がクリーニングを行うとともに、形態について検討を進めてきた。合わせて、伊藤定雄の案内によって、採集地周辺の地質調査を行ってきた。その結果、化石の部位は尾椎であり、ヒゲ鯨類のいずれかの種であることがわかった。またその産出層準は、下部鮮新統野口層の下部層準であると考えられた。

山形県の中新・鮮新統からは、これまでも断片骨ながら比較的多くの鯨類化石が産出してきたが、産出についての報告はほとんどなされておらず、産出層準等の記録についても不明瞭なものが少なくなかった。長澤(1992)は、これらの記録をまとめるとともに、山形県における鯨類化石の産出が、新庄盆地西側の鮮新統の野口層、中渡層などに集中する傾向を指摘した。

今回得られた化石は、やはり野口層のものであり、より詳しい層準についても推定することができた。また化石の保存は良好で、形態の検討が可

能であることから、山形県の鯨類化石の一資料として意義があると考え、報告する次第である。

II 化石の産出層準

採集状況：本化石は、大蔵村の赤松川上流にある里道山(標高671m)の北西の、赤松川右岸の崖錐から転石として採集された。赤松川の上流域は河道が狭く、深い峡谷地形をなしており、採集地周辺では、右岸が急崖となって地層が露出している。その崩落物は、河床にかけて崖錐を形成している。採集地付近では、崖錐が川の右岸で高さ約15mまでである。化石は上部の崖錐中から採集されたものであり、このことから化石の本来の産出層準は、その上方40~50mにわたって露出する地層のいずれかの層準であると推定される。

地質概説：新庄盆地南西部に位置する大蔵村の山地・丘陵は、新庄盆地西側における出羽丘陵東翼の延長の地質より構成される。すなわち、中新・鮮新統が南北構造をもって波曲をくり返し、概ね東側に順次連続的に堆積している。新庄盆地西部地域の層序を示す(図2)。

このうち化石産地周辺の主な海成層は、下位より上部中新統~下部鮮新統の古口層、下部鮮新統の野口層、中渡層であり、いずれも整合関係で岩相は漸移的に変わる。各層の主な岩相は、今田ほ

*山形県立博物館

か(1974)・小笠原ほか(1984)・大沢ほか(1986)・佐藤ほか(1986)などにまとめられている。それによると、古口層は主として暗灰色泥岩よりなり、凝灰岩～砂岩をはさみ、下部ではやや層理が発達するが、上部では塊状無層理である。野口層は主にシルト岩～砂岩からなり、凝灰岩をはさむ。中渡層は主として砂岩からなり、凝灰岩をはさむ。全体として上位ほど粗粒堆積物となり、より浅海堆積相を呈してくる。

化石の産出層：化石採集地の露頭の柱状図を示す(図3)。最下位は暗灰色塊状の泥岩～シルト岩からなり、ときに生痕化石を含む。風化面はサイコロ状に碎ける。これより上位は主として凝灰質細粒砂岩からなり、部分的に層理が発達するが、全体的には塊状無層理である。凝灰質細粒砂岩層の固結度は、暗灰色シルト岩層に比較して弱い。

表1 野口層下部産貝類化石

<i>Mizuhopecten yessoensis</i> (Jay)
<i>Thracia</i> cf. <i>kakumana</i> Yokoyama
<i>Conchocele bisecta</i> (Conrad)
<i>Lucinoma acutilineatum</i> (Conrad)
<i>Clinocardium</i> cf. <i>ciliatum</i> (Fabricius)
<i>Serripes groenlandicus</i> (Bruguïère)
<i>Macoma calcarea</i> (Gmelin)
<i>Macoma</i> sp.
<i>Megangulus</i> sp.
<i>Mya cuneiformis</i> (Böhm)
" <i>Natica</i> " sp.

鑑定：小笠原憲四郎

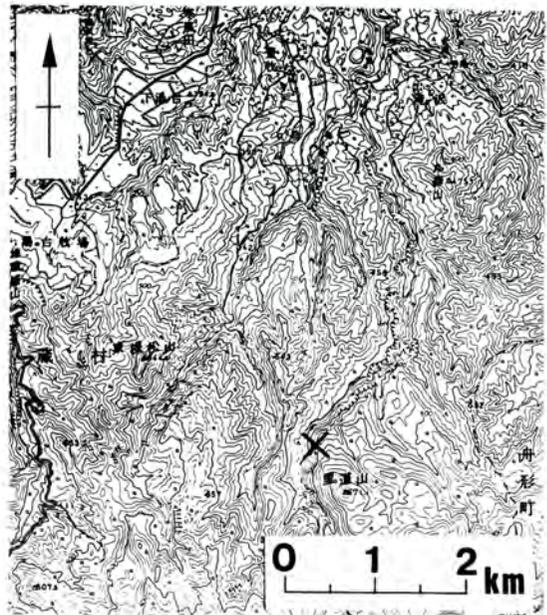


図1 化石の産地(×)
(国土地理院発行5万分の1地形図「月山」を使用)

地層は概ね N10°E, 20°E を示し、ほぼ南北走向で東へゆるく傾斜している。この砂岩層には、下部から厚さ数10cm程度の礫層をひんばんにはさんでくる。礫層は全体的に珪質であり、硬く固結している。礫径は細礫～中礫で垂円礫を主体とし、円磨度は上位の礫層ほど高い。礫種は花崗岩類・プロピライト・安山岩・珪質泥岩などである。

砂岩層や礫層には、貝類化石が多く含まれている。この露頭や周辺から採集した化石を表1に示す。これらは、小笠原ほか(1984)で報告された中渡・鮭川層の鮮新統貝類化石と共通する種が多く、古口層とは区別できる。またこれらの構成種は、小笠原・増田(1989)を参考にすると、比較的深い

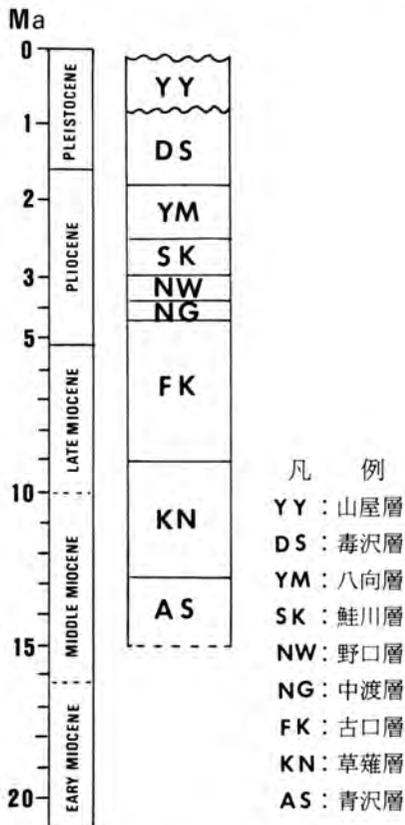


図2 新庄盆地西部地域の層序
(佐藤ほか, 1986による)

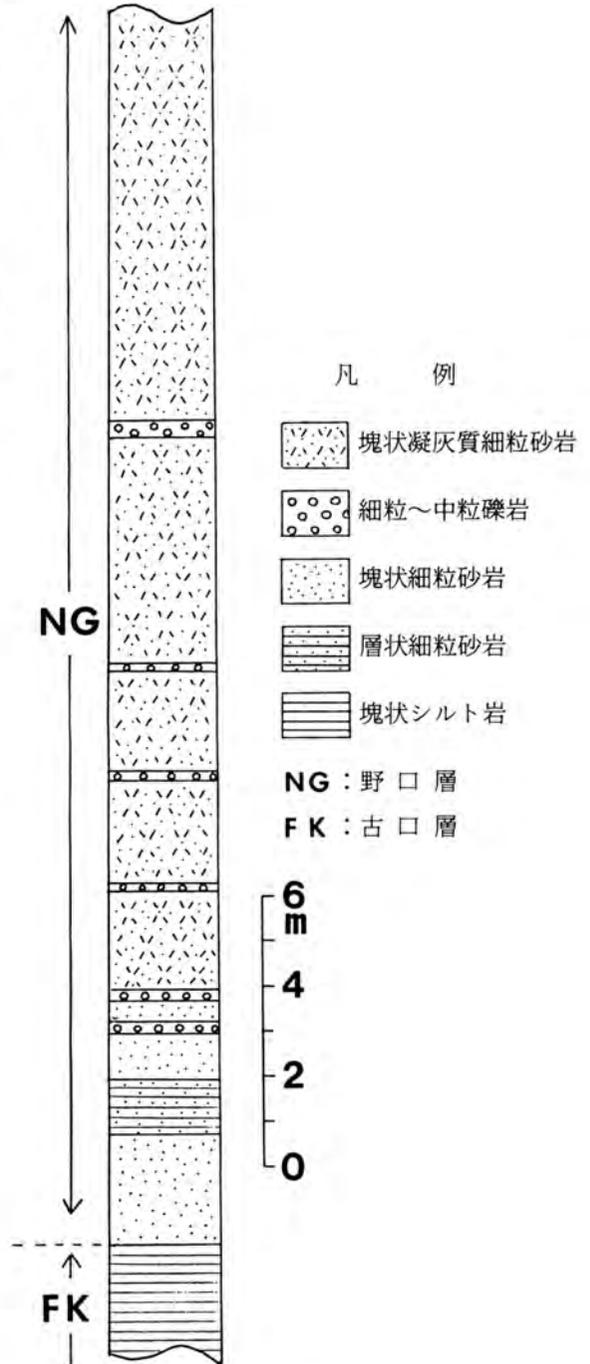


図3 露頭柱状図

(150m 以浅~200m 以浅)泥底質のものと浅海砂のものが混在している。これは、貝類や砂礫がタービダイト等で動かされてきたことによると考えられる。

露頭の岩相変化をみると、下位の暗灰色シルト岩層と、その上位の礫層をはさみながら発達する凝灰質細粒砂岩層とでは差異がある。今田ほか(1974)をもとにすると、この付近が古口層と野口層の境界と考えられる。

一方、本化石を部分的におおっていた母岩は、凝灰質細粒砂岩と、中礫サイズの珪質岩片であった。これは崖錐の上部の露頭に発達する野口層と同質のものであり、礫の特徴は同層に挟在される何層かの礫層のものと類似している。すなわち、化石は野口層における下部のいずれかの礫層付近の層準からもたらされたものと推定される。

野口層は、佐藤(1986)や佐藤ほか(1986)によると約4-4.5Maである。これに基づけば、野口層の下部層準は4.5Ma前後と考えられる。

III 標本の記載

Order Cetacea

Suborder Mysticeti

Fam., gen. et sp. indet.

図版 I

産地 山形県大蔵村豊牧の南方の赤松川上流、
里道山の西側の崖錐
産出年 1992年6月1日
採集者 伊藤定雄
層準 野口層下部
時代 前期鮮新世
部位 尾椎
所蔵 伊藤定雄(山形県舟形町堀内264)

標本は全体的に化石化が進んでおり、堅硬である。標本の欠損は、棘突起の先端部分と、尾側骨端から椎体にかけての一部にみられるが、形態の保存は良好である。外形から推察して、標本はほとんど変形を受けていないと思われる。

頭・尾側には骨端板があり、いずれもほぼ円形だが、頭側では横径が縦径より5mm長く、尾側では縦径が横径より4mm長い。これらの椎頭径は、椎体長に比べていずれも短い。骨端板の中央は

表2 標本の計測値

計測部位	計測値(mm)
椎体前後長	170
椎体頭側横径	165
" 縦径	160
椎体尾側横径	154
" 縦径	158
横突起間距離	186
椎弓根頭側横径	40
" 尾側横径	43
椎孔頭側横径	25
" 縦径	24
椎孔尾側横径	19
" 縦径	10
右横突起動脈溝径	上前後径 13
" " 上内外径	9
" " 下前後径	13
" " 下内外径	9
左横突起動脈溝径	上前後径 11
" " 上内外径	9
" " 下前後径	12
" " 下内外径	9
右血管結節動脈溝径	前後径 21
" " 内外径	13
左血管結節動脈溝径	前後径 21
" " 内外径	15

平板状だが、縁辺にかけて椎体側にゆるくわん曲している。骨端板と椎体は癒合しているが、縫合線は明瞭である。

椎体側面の中央部には、横突起がある。その発達が悪く、頭側にかけて頭側骨端から10mm前後はみだす程度隆起するが、尾側では消滅している。横突起のほぼ中央の椎体基部付近を、動脈溝が貫通して内部で直径5mm前後の細い孔を形成している。横突起内部の孔の方向は、腹側の前方から背側の後方へ斜上している。椎体側面の表面の動脈溝は、横突起上方では不明瞭だが、横突起下方では幅広く浅くくぼんで椎体腹側へ延長している。

腹側には頭尾側方向に2稜の血管結節があり、これ挟まれた腹側中央がくぼんでいる。血管結節は、横突起下方から延長している動脈溝によって貫かれ、前後径21mmの太い孔を形成している。右血管結節の頭側と尾側の端には不明瞭ながら、V字骨関節窩が認められる。

背側には椎弓と棘突起が残っている。椎孔は頭側でほぼ円形に開孔し、尾側で縦径が短かいだ円形状に開孔する。前関節突起は欠損しているが、左側の基部の断面が認められる。椎弓は椎体の大きさの割に発達が悪く、ここから上方に延びる棘突起は途中から欠損しているが、基部の大きさからみても、さほど高くは発達しないと思われる。

標本の計測値を示す(表2)。なお、椎骨の計測法と椎骨の形態用語の一部については、大石(1987)を参考にした。

IV 標本の検討

本標本の破損断面をみると、緻密質が薄く、内部で海绵質がよく発達している特徴と、椎骨の大きさから考えると鯨類である。また標本にはV字骨関節窩が認められることから尾椎であり、しかも横突起・椎弓・棘突起の発達が悪い特徴などから、中位の尾椎と考えられる。

本標本をまず現生齒鯨亜目 Odontoceti と比較する。大石(1987)によると、大きさが本標本に近いと思われるアカボウクジラ科 Ziphiidae のツチクジラ *Berardius bairdii*・アカボウクジラ *Ziphius cavirostris*、マイルカ科 Delphinidae のサカマタ *Orcinus orca*・コビレゴンドウ *Globicephala macrorhynchus* の各種は、横突起を貫通する動脈溝の方向や太さ、椎頭径と椎体長の関係などの点で、本標本と異なると考えられる。実際の標本との比較では、アカボウクジラ科のオオギハクジラ *Mesoplodon stejnegeri* (小千谷西高校所蔵)の前位尾椎は、動脈溝の位置が椎体後方にあるとともに、横突起の貫通方向が本標本と逆に、腹側後方から背側前方へ斜上している。そして中位尾椎では、動脈溝の位置が椎体中央に移っていくが、横突起はほとんど消滅しているため、椎体の内側を貫通している。また椎弓形態も異なる。マッコウクジラ科 Physeteridae のマッコウクジラ *Physeter macrocephalus* (いわき市石炭・化石館展示)でもまた、動脈溝の位置が前位尾椎で椎体後方にあり、中位尾椎にかけてそれが徐々に椎体中央に移っていくが、中位尾椎の動脈溝は、椎体の内側を貫通しており、そして孔径が太い。また椎弓形態も異なる。

次に現生ヒゲ鯨亜目 Mysticeti と比較する。大石(1987)によると、コククジラ科 Eschrichtiidae のコククジラ *Eschrichtius robustus* では、中位尾椎の動脈溝は横突起を太く貫通していると指摘しており(国立科博標本15940:孔径31~41mm)、本標本とは異なると考えられる。ナガスクジラ科 Balaenopteridae のザトウクジラ *Megaptera novaeangliae* の尾椎は、True (1904)の図版と比較すると、椎頭径に比べて椎体長が短かく、前後に扁平であることから異なると考えられる。実際の標本との比較では、セミクジラ科 Balaenidae のセミクジラ *Balaena glacialis*・ホッキョククジラ

Balaena mysticetus (太地町立くじらの博物館展示)は、腰椎・尾椎とも椎頭径に比べて椎体長が短かく、前後に扁平な特徴をもつことから異なる。

現生標本で最も類似しているのが、ナガスクジラ科のナガスクジラ属 *Balaenoptera* の各種である。ニタリクジラ *Balaenoptera edeni* (いわき市石炭・化石館所蔵)やコイワシクジラ *Balaenoptera acutorostrata* (岩手県立博物館所蔵)は、椎頭径と椎体長の関係、動脈溝の位置と方向、椎弓や棘突起形態など、本標本とよく類似している。ただし、これらの中位尾椎では、動脈溝が腹側の血管結節を中央から二分しており、孔を形成するのは後位尾椎である点は異なる。

化石標本との比較では、最も本標本と類似しているのが、岩手県の鮮新統から産出し、大石(1987)によってナガスクジラ科の尾椎として報告された標本(IPMM40076)である。この標本は、棘突起と血管結節を欠損しており、この部分の比較はできないが、全体的な形態はよく似ている。ただし、この標本の椎体長が頭側の椎頭径より短かく、前後にやや扁平である点と、頭側の椎頭径での比較で、本標本より120%程度大型である点が異なる。

化石標本との比較での課題は、鮮新世まで存在したヒゲ鯨類のケトテリウム科 *Cetotheriidae* の扱いについてである。国内での同科の産出の報告はいくつかなされているが(大石ほか, 1985; 大石, 1987; 吉田, 1988; 大塚・太田, 1988), 尾椎の産出はないようであり、本標本とケトテリウム科との比較を十分に行えない。ただし、ケトテリウム科とナガスクジラ科は、腰椎でみる限り(岩手県立博物館レプリカ展示), 椎頭径と椎体長の関係や棘突起形態など比較的類似しているようであり、尾椎でもその可能性が考えられる。実際、Kellogg (1968)で示された *Diorocetus hiatus* (USNM 16567)の第7尾椎を文献でみる限り、頭側の椎頭径での比較で本標本の75%程度とやや小さいもの

の、椎頭径と椎体長の関係、動脈溝の位置と方向、椎弓形態など本標本ともよく似ているようである。大石(1987)は前記の標本(IPMM40076)とケトテリウム科との区別を、主に大きさに基づいて行っているが、形態の比較が十分でないことや、ケトテリウム科とも類似する可能性が考えられることと、やはり尾椎1点の標本であることを考え合わせると、本標本において科レベルの分類についても現状では難しいと思われる。

以上を総合すると、本標本は現生ナガスクジラ科 *Balaenopteridae* のナガスクジラ属 *Balaenoptera* に最も類似すると考えられるが、ケトテリウム科 *Cetotheriidae* との区別が課題として残されているため、現状での分類は、ヒゲ鯨亜目 *Mysticeti* にとどめておくことにする。

最後に、本標本の体長について考えておく。まず本標本は、骨端が癒合していることから、成熟に達していると考えられる。そして、本標本の形態が前述したように現生ではナガスクジラ属の各種に類似しているが、成熟個体の大きさを比較するとコイワシクジラに最も近い。このことから、コイワシクジラの計測例(Omura, 1957)を参考にすると、尾椎の大きさから推定される本標本の体長は、7 m前後と考えられる。

V ま と め

- 1) 本標本の産出層準は、下部鮮新統の野口層下部と考えられる。
- 2) 本標本は、鯨類の成熟個体の中位尾椎である。
- 3) 本標本の諸形態は、ヒゲ鯨亜目 *Mysticeti* のナガスクジラ科 *Balaenopteridae*, ナガスクジラ属 *Balaenoptera* に類似する。
- 4) ただし、本標本とケトテリウム科 *Cetotheriidae* との区別に課題が残るため、本標本の分類学上の位置は、ヒゲ鯨亜目 *Mysticeti* にとどめておく。
- 5) 尾椎から推定される体長は、7 m前後と考えら

れる。

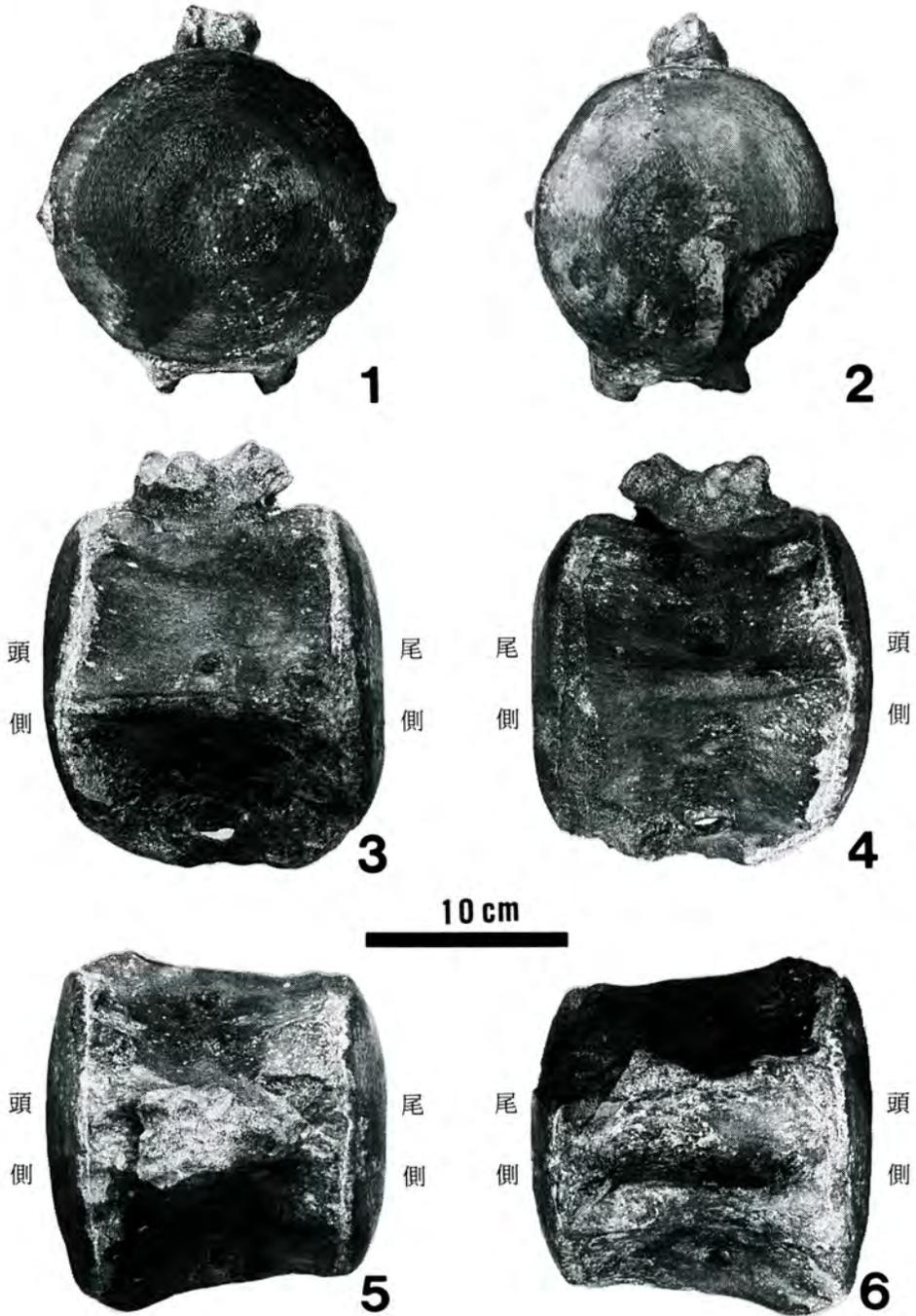
謝辞：化石の採集者である舟形町の伊藤定雄氏は、快く標本を検討する機会を与えて下さった。太地町立くじらの博物館では、展示資料をみせていただいた。小千谷西高校の堀川秀夫教諭、いわき市石炭・化石館の菜花智学芸課主任、岩手県立博物館の大石雅之主任専門学芸員の諸氏には、それぞれ所蔵標本をみせていただいた。筑波大学地球科学系の小笠原憲四郎教授には、貝類化石を鑑定していただいた。山形大学医学部の外崎昭教授には、椎骨の発生についてご教示いただいた。本館職員の鈴木弘二氏には、標本の写真撮影をしていただいた。

以上の方々に厚くお礼申し上げます。

文 献

- Kellogg, R., 1968: Fossil marine mammals from the Miocene Calvert Formation of Maryland and Virginia (Part 6) A hitherto unrecognized Calvert cetothere. *U. S. Nat. Mus. Bull.*, 247, 133-161.
- 今田 正・月山図幅調査グループ, 1974: 5万分の1地質図幅「月山」および同説明書, 38p., 山形県.
- 長澤一雄, 1992: 山形県の海生哺乳類化石. 山形応用地質, no.12, 9-24.
- 小笠原憲四郎・佐藤比呂志・大友淳一, 1984: 山形県新庄盆地西部の鮮新統貝類化石群集. 国立科博専報, no.17, 23-34, pls.1-2.
- ・増田孝一郎, 1989: 東北地方新第三系貝類化石の古水深指標とその適用. 地質学論集, no.32, 217-227.
- 大石雅之, 1987: 岩手県一関市および西盤井郡平泉町の鮮新統から産出した鯨類・鰭脚類化石. 岩手県博研報, no.5, 85-98, pls.1-4.
- ・小野慶一・川上雄司・佐藤二郎・野刈家宏・長谷川善和, 1985: 岩手県胆沢郡前沢町生母から産出した鮮新世ひげ鯨類化石と骨質歯鳥類化石(Parts I-VI). 岩手県博研報, no.3, 143-157, pls.1-5.
- Omura, H., 1957: Osteological study of the little picked whale from the coast of Japan. *Sci. Rep. Whales Res. Inst.*, no.12, 1-21, pls. 1-8.
- 大沢 稔・片平忠実・土谷信之, 1986: 清川地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, 61p.
- 大塚裕之・太田泰弘, 1988: 広島県庄原市地域の中新世備北層群産鯨類化石. 日本産海生哺乳類化石の研究 昭和62年度文部省科学研究補助金総合研究(A), 69-74.
- 佐藤比呂志, 1986: 東北地方中部地域(酒田-古川間)の新生代地質構造発達史(第1部). 東北大学地質古生物研報, no.88, 1-32.
- ・山路 敦・石井武政・田口一雄, 1986: 北村 信編「新生代東北本州弧地質資料集」第2巻, 島弧横断ルート no.21, 地質図・地質断面図および同説明書, 13p., 宝文堂, 仙台.
- True, W. F., 1904: The whalebone whales of the western North Atlantic. *Smiths. Contr.*, 33, 332p., pls.1-50.
- 吉田健一, 1988: 秩父盆地の鯨化石について. 日本産海生哺乳類化石の研究 昭和62年度文部省科学研究補助金 総合研究(A), 51-53.

図版 I (長澤一雄)



山形県大蔵村鮮新統産ヒゲ鯨亜目尾椎化石標本：Mysticeti, fam., gen., et sp. indet.

1 頭側観 2 尾側観 3 左側面観 4 右側面観 5 背側観 6 腹側観

山形県の蛾類分布資料 (VIII)

囑託 木 俣 繁

TORTRICIDAE ハマキガ科, COCHYLIDAE ホソハマキガ科,
LIMACODIDAE イラガ科

(追録) GEOMETRIDAE シャクガ科 (1)

1 はじめに

県内の蛾の分布資料として、今回はハマキガ科 TORTRICIDAE, ホソハマキガ科 COCHYLIDAE, 及びイラガ科 LIMACODIDAE の3科の蛾と、追録としてシャクガ科 GEOMETRIDAE のうちホシシャク亜科 Oenochrominae, アオシャク亜科 Geometrinae, ヒメシャク亜科 Sterrhinae 及びナミシャク亜科 Larentiinae の蛾を記載した。

この報告を纏めるにあたり、文献から引用した以外のハマキガ科及びホソハマキガ科の標本の殆どについて同定していただいた、日本蛾類学会の川辺湛氏に対して心から感謝申し上げる。また、標本を調べさせていただいた仙台市の山谷文仁氏及び南陽市の伊藤之巳氏、文献の引用をさせていただいた入間市の井上寛博士、東京の岸田泰則氏、横浜市の柳田慶浩氏、中島秀雄氏、浦和市の市川和夫氏、仙台市の渡辺義汎氏、山形県藤島町の布施寛氏及び山形市の横倉明氏に対して深く感謝の意を表す。

2 調査地域

調査地域として、所検標本や文献等に記された地域は次のとおりである。

山形市：沼ノ辺、西藏王高原、蔵王温泉、上宝沢、不動沢、村木沢、村木沢早坂林道、本沢、

門伝大平、山寺、奥山寺、面白山、高瀬戸沢、瀬ノ原山

米沢市：米沢市、築沢岡原、笹野山、大平温泉

鶴岡市：由良、高館山、金峯山、荒倉山

酒田市：酒田市、飛島

新庄市：柰蔵山

上山市：金瓶、経塚山、蔵王ライン

天童市：荒谷、田麦野、天童高原

東根市：関山、寒風山木葉沢、柳沢林道、柳沢小屋、ムクロ沢

尾花沢市：銀山温泉、御所山荘、山刀伐峠、鍋越峠

南陽市：漆山須刈田、中ノ沢、漆山中ノ沢口、矢ノ沢、漆山矢ノ沢口、荻小学校、吉野中学校

山辺町：荒沼

中山町：岩谷

西川町：間沢、志津、志津月山荘、志津荒沢橋、弓張平、大井沢中村

大江町：古寺鉱泉

最上町：花立峠

真室川町：川の内、及位

大蔵村：肘折温泉

小国町：小国町、市野々、小玉川、大滝

飯豊町：白川ダム

藤島町：藤島町
 朝日村：倉沢林道
 温海町：関川大道林道，越沢林道，越沢榎野台
 林道，温海岳，湯の瀬温泉
 遊佐町：吹浦
 鳥海山：河原宿，ソブ谷地
 蔵王連峰：ドッコ沼，観松平，坊平，御田神
 飯豊連峰：ヌクミ平
 吾妻連峰：新高湯

3 目 録

現在まで筆者が見ることの出来た文献等に記録されたものも、疑問のあるものを除き、すべての種類を引用するとともに、未発表の資料としては、筆者の採集したもの、山形県立博物館所蔵の標本、山谷文仁氏及び伊藤之巳氏の標本等筆者の見ることの出来た標本のすべてを記録することとした。

データの後ろ右肩に示した数字は、文献引用等を示したもので、本報告の最後に文献名をあげてあり、その文献の番号を示してある。また、データの後ろの()内の名前を書いてあるものは未発表の資料で、採集者の名前を記したものであり、(白畑)は白畑孝太郎氏、(山谷)は山谷文仁氏、(横倉)は横倉明氏、(伊藤)は伊藤之巳氏、(木俣)は筆者で、(博物館)とあるのは、山形県立博物館所蔵のものである。

TORTRICIDAE ハマキガ科

小蛾類の中では大きな科で、日本からは600種近い種類がこれに含まれている。県内からは現在までのところ171種類が見つかったが、調査がすすめば、200種を超える種類が見つかると思う。

Tortricinae ハマキガ亜科

1. *Pandemis corylana* (FABRICIUS)

ウスアミメトビハマキ(Fig.1)

山形市不動沢 3♂♂3♀♀, 19880902²¹⁾

西川町志津 2♂♂, 19870820³⁰⁾

大蔵村肘折温泉 1♀, 19860703 (木俣)

藤島町 19660627²³⁾

蔵王連峰ドッコ沼 2♀♀, 19880908 (木俣)

2. *Pandemis cinnamomeana* (TREITSCHKE)

アカトビハマキ(Fig.2)

山形市西蔵王高原 1♀, 19840711 (木俣)

// 不動沢 1♀, 19840714³²⁾; 1♀, 19880622 (木俣)

上山市蔵王ライン 3♀♀, 19840707 (木俣)

酒田市 1♀, 19610822 (白畑)

東根市柳沢小屋 1♀, 19860728³¹⁾

中山町岩谷 1♀, 19860915 (木俣)

西川町志津 3♂♂, 19870912³⁰⁾; 19880923³⁰⁾

鳥海山河原宿 19660800¹⁵⁾

蔵王連峰ドッコ沼 1♀, 19880908 (木俣)

3. *Pandemis chlorographa* (MEYRICK)

ウストビハマキ

山形市村木沢早坂林道 1♂, 19890614 (木俣); 1♀, 19890829 (木俣)

上山市金瓶²²⁾

// 蔵王ライン 1♂, 19840707 (木俣)

東根市寒風山木葉沢 2♀♀, 19850629³¹⁾

山辺町荒沼 1♂, 19880704 (木俣)

温海町温海岳 1♂, 19890825 (木俣)

4. *Pandemis heparana* (DENIS et SCHIFFER-MÜLLER)

トビハマキ(Fig.3)

上山市金瓶²²⁾

東根市柳沢小屋 2♀♀, 19860728³¹⁾

// 寒風山木葉沢 1♀, 19850629³¹⁾

尾花沢市御所山荘 1♂, 19870814³¹⁾

西川町志津 1♀, 19880723 (木俣)

温海町関川大道林道 1♂, 19910624 (木俣)

蔵王連峰観松平 1♂, 19870718 (木俣)

// ドッコ沼 4♂♂, 19880807 (木俣)

5. *Pandemis monticolana* YASUDA
ヤマトビハマキ
上山市蔵王ライン 1♀, 19840707 (木俣)
東根市寒風山木葉沢 1♀, 19850629³¹⁾
西川町志津 2♂♂, 19860622^{29,30)}
6. *Archips capsigeranus* HÜBNER
カタカケハマキ(Fig.4)
中山町岩谷 1♂, 19860628 (木俣):1♂,
19860915 (木俣)
温海町越沢榎野台林道 2♂♂, 19890628³⁴⁾
7. *Archips audax* RAZOWSKI
アトキハマキ(Fig.5)
東根市柳沢林道 1♂, 19870902³¹⁾
// 寒風山木葉沢 1♂, 19850629³¹⁾
南陽市漆山須刈田 1♂, 19890608 (伊藤):1♂,
19890614 (伊藤)
山辺町荒沼 2♂♂, 19880704 (木俣)
西川町志津 1♂, 19860726^{29,30)}
温海町温海岳 1♂, 19890825 (木俣)
8. *Archips ingentanus* (CHRISTOPH)
オオアトキハマキ
山形市上宝沢 1♂2♀♀, 19880821 (木俣)
// 村木沢^{22,33)}
// 本沢 1♂, 19890707 (木俣)
// 高瀬戸沢 1♂, 19840703 (木俣)
鶴岡市由良 1♂, 19890701 (木俣)
上山市金瓶²²⁾
東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾
// 柳沢小屋 1♂, 19860728³¹⁾
南陽市中ノ沢 1♂, 19880821 (伊藤)
中山町岩谷 2♂♂, 19860803 (木俣)
温海町越沢榎野台林道 3♂♂1♀, 19890626³⁴⁾
// 関川大道林道 1♂, 19910624 (木俣)
朝日村倉沢林道 1♂, 19910707 (木俣)
9. *Archips oporanus* (LINNAEUS)
マツアトキハマキ(Fig.6)
山形市高瀬戸沢 1♂, 19840804 (木俣)
// 村木沢^{22,33)}
// // 早坂林道 1♂1♀, 19890714(木俣):1♂,
19890803 (木俣)
// 不動沢 2♂♂, 19840714³²⁾
酒田市 1♂, 19610616(白畑):1♂, 19610727
(白畑):3♂♂, 19610711 (白畑)
上山市金瓶²²⁾
東根市柳沢林道 1♂, 19870902³¹⁾
南陽市荻小学校 1♂, 19880613 (伊藤)
// 吉野中学校 1♂1♀, 19880615(伊藤):
1♂, 19880622 (伊藤)
// 漆山須刈田 1♂, 19880702 (伊藤):1♂,
19890704 (伊藤)
山辺町荒沼 2♂♂, 19870827 (木俣):2♀♀,
19880704 (木俣)
中山町岩谷 1♂, 19860628 (木俣):1♂,
19860803 (木俣)
藤島町 19570531・19570617・19590707・
19690625²³⁾
温海町関川大道林道 2♂♂1♀, 19910624 (木俣)
遊佐町吹浦 1♀, 19840616 (木俣)
蔵王連峰坊平 2♂♂, 19800817 (木俣)
// 御田神 1♂, 19840730 (木俣)
10. *Archips breviplicanus* WALSINGHAM
ホソアトキハマキ(Fig.7)
上山市金瓶²²⁾
南陽市吉野中学校 1♂, 19880622 (伊藤)
藤島町 19560608・19570819・19590607²³⁾
飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 19820717 (木俣)
11. *Archips semistructus* (MEYRICK)
ウスアトキハマキ
上山市金瓶²²⁾
12. *Archips viola* FALKOWITSH
ムラサキカクモンハマキ(Fig.8)

- 山形市村木沢早坂林道 2♂♂1♀, 19890714(木俣)
 // 門伝大平 1♀, 19850708(木俣)
 尾花沢市銀山温泉 1♂, 19860712³¹⁾
 西川町志津荒沢橋 1♂, 19850715^{28,30)}
 朝日村倉沢林道 1♂1♀, 19910707³⁴⁾
 温海町関川大道林道 2♂♂, 19910624⁴⁴⁾
 蔵王連峰ドッコ沼 1♂, 19880807(木俣)
13. *Archips xylosteanus* (LINNAEUS)
 カクモンハマキ(Fig.9)
 山形市門伝大平 1♂, 19850708(木俣)
14. *Archips fuscocupreanus* WALSINGHAM
 ミダレカクモンハマキ
 酒田市 1♂, 19610629(白畑)
 尾花沢市銀山温泉 1♂, 19860712³¹⁾
15. *Archips nigricaudanus* (WALSINGHAM)
 シリグロハマキ(Fig.10)
 山形市西藏王高原 1♀, 19840630(木俣)
 // 不動沢 1♀, 19880712(木俣)
 上山市経塚山 1♂, 19900614(木俣)
 // 蔵王ライン 4♂♂, 19840707(木俣)
 東根市寒風山木葉沢 1♀, 19850629³¹⁾
 中山町岩谷 4♂♂, 19860628(木俣)
 大蔵村肘折温泉 1♂, 19860703(木俣)
16. *Hoshinoa longicellana* (WALSINGHAM)
 アトボシハマキ
 山形市村木沢早坂林道 1♂1♀, 19890714(木俣); 1♀, 19890803(木俣)
 // 蔵王高原 1♂, 19840731(木俣)
 酒田市 1♀, 19610818(白畑); 1♀, 19610826(白畑)
 朝日村倉沢林道 1♂2♀♀, 19910707(木俣)
 温海町関川大道林道 2♂♂1♀, 19910624(木俣)
17. *Hoshinoa adumbratana* (WALSINGHAM)
 オオフタスジハマキ
 山形市西藏王高原 1♂, 19840630(木俣)
 // 不動沢 2♂♂, 19880622(木俣)
 上山市金瓶²²⁾
 // 蔵王ライン 3♂♂, 19840707(木俣)
 東根市寒風山木葉沢 1♀, 19850629³¹⁾
 南陽市荻小学校 1♂, 19880613(伊藤)
 // 吉野中学校 1♂, 19880615(伊藤); 1♂, 19880622(伊藤)
18. *Ptycholomoides aeriferana* (HERRICH-SCHÄFFER)
 カラマツイトヒキハマキ(Fig.11)
 山形市西藏王高原 1♀, 19840711(木俣)
 // 上宝沢 1♀, 19880709(木俣)
 // 不動沢 2♀♀, 19840714³²⁾
 // 高瀬戸沢 1♀, 19840703(木俣)
 // 門伝大平 2♂♂, 19850708(木俣)
 上山市金瓶²²⁾
 南陽市荻小学校 1♂, 19880622(伊藤)
 山辺町荒沼 1♂1♀, 19880704(木俣)
 朝日村倉沢林道 1♂4♀♀, 19910707(木俣)
 温海町関川大道林道 1♂2♀♀, 19910624(木俣)
19. *Ptycholoma lecheana* (LINNAEUS)
 オオギンスジアカハマキ(Fig.12)
 山形市不動沢 1♂, 19880622(木俣)
 上山市金瓶²²⁾
 // 経塚山 1♂, 19900517(木俣)
 西川町弓張平 19880616³⁰⁾
20. *Ptycholoma imitator* (WALSINGHAM)
 アミメキイロハマキ(Fig.13)
 山形市西藏王高原 2♂♂, 19840711(木俣)
 // 不動沢 1♂, 19840714³²⁾
 // 村木沢^{22,33)}
 // // 早坂林道 1♂1♀, 19890714(木俣)
 上山市金瓶²²⁾

- // 蔵王ライン 1♂, 19840707 (木俣)
東根市柳沢小屋 11 exs., 19860728³¹⁾
南陽市漆山須刈田 1♂, 19880708 (伊藤)
山辺町荒沼 1♂, 19880704 (木俣)
西川町志津 1♂, 19750725^{17,28,30)}; 1♀,
19860726^{28,30)}
// 志津月山荘 2♂♂, 19850803^{21,30)}
蔵王連峰坊平 1♂, 19800817 (木俣)
// ドッコ沼³²⁾
21. *Clepsis jinboi* KAWABE タカネベニハマキ
飯豊連峰烏帽子岳 8♂♂, 19680801⁸⁾
22. *Clepsis rurinana* (LINNAEUS)
ウスモンハマキ
東根市寒風山木葉沢 1♀, 19850629³¹⁾
23. *Homona magnanima* DIAKONOFF
チャハマキ
酒田市 1♀, 19610609 (白畑); 1♂, 19610711
(白畑); 1♂, 19610721 (白畑); 1♂,
19610826 (白畑)
最上町花立峠 1♂, 19610716 (白畑)
24. *Homona issikii* YASUDA スギハマキ (Fig.14)
山形市本沢 1♂1♀, 19890707 (木俣)
酒田市 1♀, 19610800 (白畑)
天童市天童高原 1♀, 19910901 (木俣)
東根市柳沢林道 2♂♂, 19870902³¹⁾
南陽市漆山須刈田 1♂1♀, 19880702 (伊藤)
中山町岩谷 3♂♂1♀, 19860915 (木俣)
西川町志津 1♂, 19870912³⁰⁾
温海町越沢榎野台林道³⁴⁾
25. *Adoxophyes orana* (FISCHER VON RÖSLER-
STAMM) リングノコカクモンハマキ
山形市村木沢^{22,33)}
上市市金瓶²²⁾
南陽市荻小学校 1♂, 19880615 (伊藤)
// 中ノ沢 1♂, 19880821 (伊藤)
小国町市野々 1♀, 19920829 (木俣)
26. *Pseudeulia asinana* (HÜBNER)
オオハイジロハマキ
山形市村木沢^{22,33)}
西川町大井沢中村 1♀, 19870523 (木俣)
27. *Pseudeulia vermicularis* (MEYRICK)
ハイジロハマキ (Fig.15)
山形市不動沢 1♀, 19840604³²⁾
// 瀬ノ原山 1♀, 19840607 (木俣)
鶴岡市高館山³⁴⁾
南陽市矢ノ沢 2♂♂, 19880514 (伊藤); 1♀,
19880518 (伊藤)
// 漆山中ノ沢口 1♂, 19890615 (伊藤)
// 吉野中学校 1♂, 19920421 (伊藤); 1
♂, 19920429 (伊藤)
西川町志津 2♂♂, 19860622^{29,30)}
真室川町川の内 1♀, 19890624 (木俣)
28. *Homonopsis foederatana* (KENNEL)
ツツリモンハマキ
上市市蔵王ライン 1♀, 19840707 (木俣)
西川町志津 2♂♂, 19860622^{29,30)}
29. *Homonopsis illotana* (KENNEL)
ツヤスジハマキ
中山町岩谷 1♂, 19860628 (木俣)
30. *Argyrotaenia litatana* (CHRISTOPH)
フタモンコハマキ
東根市柳沢林道 1♂, 19870902³¹⁾
南陽市漆山須刈田 1♂, 19890614 (伊藤)
31. *Argyrotaenia lacernata* YASUDA
ウストビモンハマキ (Fig.16)
西川町志津 2♂♂, 19870820³⁰⁾
32. *Argyrotaenia angustilineata* (WALSINGHAM)
コホソスジハマキ
上市市金瓶²²⁾
33. *Gnorismoneura mesotoma* (YASUDA)
トビモンハマキ (Fig.17)
山形市不動沢 1♂, 19840714³²⁾

- 藤島町 19730815²³⁾ アカネハマキ (Fig.22)
34. *Terricula violetana* (KAWABE) 西川町志津 2♂♂, 19861010^{28,30)}
クシヒゲムラサキハマキ 蔵王連峰ドッコ沼 1♀, 19880908³²⁾
- 南陽市漆山須刈田 1♂, 19890708 (伊藤) 44. *Acleris aestuosa* YASUDA ホノホハマキ
小国町小玉川 1♂, 19890715 (伊藤) 西川町志津 2♂♂, 19861010^{29,30)}
35. *Kawabeia ignavana* (CHRISTOPH) 蔵王連峰ドッコ沼 1♀, 19880908 (木俣)
ウスオビハイロフユハマキ 45. *Acleris perfundana* KUZNETZOV
温海町越沢榎野台林道³⁴⁾ ナラコハマキ (Fig.23)
36. *Kawabeia razowskii* (KAWABE) 上山市蔵王ライン 1♂3♀, 19871116 (木俣)
ハイロフユハマキ (Fig.18) 46. *Acleris nigriradix* (FILIPJEV)
山形市沼ノ辺 1♂, 19830327¹⁹⁾ ネグロハマキ (Fig.24)
山形市村木沢^{22,33)} 鶴岡市金峯山 2♀♀, 19900421 (木俣)
上山市金瓶²²⁾ 南陽市矢ノ沢 1♀, 19880514 (伊藤); 1♀,
南陽市漆山矢ノ沢口 1♀, 19890415 (伊藤) 19880518 (伊藤)
37. *Spatalistis christophana* (WALSINGHAM) // 漆山矢ノ沢口 1♂, 19890415 (伊藤);
ギンボシトビハマキ (Fig.19) 1♂, 19890516 (伊藤)
山形市不動沢³²⁾ // 吉野中学校 1♂, 19920421 (伊藤)
- 大蔵村肘折温泉 1♂, 19860719 (木俣) 47. *Acleris lacordairana* (DUPONCHEL)
マエモンシロハマキ (Fig.25)
38. *Acleris issikii* OKU スジエグリハマキ 南陽市吉野中学校 1♂, 19881114 (伊藤)
山形市村木沢^{22,33)} // 漆山矢ノ沢口 1♀, 19890415 (伊藤)
- 上山市金瓶²²⁾ 48. *Acleris japonica* (WALSINGHAM)
蔵王連峰ドッコ沼³²⁾ ナカジロハマキ
39. *Acleris latifasciana* (HAWORTH) 藤島町 19570720²³⁾
ヤナギハマキ 49. *Acleris takeuchii* RAZOWSKI et YASUDA
上山市金瓶²²⁾ ヒメサザナミハマキ
西川町志津 19861010^{28,30)} 南陽市吉野中学校 1♀, 19920429 (伊藤)
40. *Acleris albiscapulana* (CHRISTOPH) ニセヤナギハマキ (Fig.20) 50. *Croesia dentata* RAZOWSKI
西川町志津 1♀, 19861010^{29,30)} 上セウンモンキハマキ
41. *Acleris exsucana* (KENNEL) 上山市金瓶²²⁾ 51. *Croesia leechi* (WALSINGHAM)
ウツギアミメハマキ (Fig.21) ギンヨスジハマキ (Fig.26)
- 西川町志津 1♂, 19861010^{28,30)} 尾花沢市銀山温泉 1♀, 19860712³¹⁾
42. *Acleris platynotana* (WALSINGHAM) 南陽市漆山須刈田 1♂, 19890704 (伊藤)
フタスジクリイロハマキ 中山町岩谷 5♂♂, 19860628 (木俣)
- 上山市金瓶²²⁾ 43. *Acleris phantastica* RAZOWSKI et YASUDA 52. *Croesia conchyloides* (WALSINGHAM)

ネウスハマキ (Fig.27)

- 山形市不動沢 1♀, 19880622 (木俣)
 // 村木沢早坂林道 1♀, 19890614 (木俣)
 上山市金瓶 1 ex., 19850625²²⁾
 南陽市漆山須刈田 1♂, 19890708 (伊藤)
 藤島町 19670620・19710616²³⁾

53. *Croesia fuscotogata* (WALSINGHAM)

モトキハマキ

上山市金瓶²²⁾54. *Croesia arcuata* YASUDA

チャモンギンハマキ (Fig.28)

- 東根市柳沢小屋 1♀, 19860728³¹⁾
 蔵王連峰ドッコ沼³²⁾

55. *Tortrix sinapina* (BUTLER)

ウスアミメキハマキ (Fig.29)

- 鶴岡市高館山 1♂, 19610615 (白畑)
 上山市金瓶²²⁾

中山町岩谷 2♂, 19860628 (木俣)

大蔵村肘折温泉 2♂♂, 19860719 (木俣)

Sparganothinae テングハマキガ亜科

56. *Sparganothis matsudai* YASUDA

カキノテングハマキ

藤島町 19570705・19680822・19740622²³⁾

Olethreutinae ヒメハマキガ亜科

57. *Cryptasasma marginifasciata* (WALSINGHAM)

へリオビヒメハマキ

上山市金瓶 1 ex., 19750917²²⁾

中山町岩谷 1♂, 19860915 (木俣)

58. *Bactra furfurana* (HAWORTH)

イグサヒメハマキ

上山市金瓶 1♂, 19830824²²⁾藤島町 19690828²³⁾59. *Ukamenia sapporensis* (MATSUMURA)

サッポロヒメハマキ

鶴岡市高館山 1♂, 19700822¹¹⁾60. *Eudemopsis pompholycias* (MEYRICK)

マエジロムラサキヒメハマキ (Fig.30)

上山市蔵王ライン 1♂, 19840707 (木俣)

// 経塚山 1♀, 19900614 (木俣)

61. *Eudemis profundana* (DENIS et SCHIFFER-MÜLLER)

ツママルモンヒメハマキ (Fig.31)

東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾

小国町小玉川 1 ex., 19890715 (伊藤)

山辺町荒沼 1♂, 19870827 (木俣)

62. *Phaecasiophora roseana* (WALSINGHAM)

ツマベニヒメハマキ

東根市柳沢小屋 1♀, 19860728³¹⁾

中山町岩谷 1♀, 19860628 (木俣)

西川町志津 1♂, 19750725^{17,28,30)}; 1♂, 19870729³⁰⁾63. *Neostatherotis nipponica* OKU

マユミヒメハマキ

中山町岩谷 1♀, 19860803 (木俣)

西川町志津 1♂, 19860728^{29,30)}; 1♂, 19870820³⁰⁾

蔵王連峰坊平 1♀, 19830702 (木俣)

64. *Statherotmantis shicotana* (KUZNETZOV)

コシロモンヒメハマキ

鶴岡市高館山 1♂, 19900503³⁴⁾東根市柳沢小屋 1♂, 19860728³¹⁾65. *Statherotmantis pictana* (KUZNETZOV)

キモンヒメハマキ (Fig.32)

山形市門伝大平 1♂, 19880608 (木俣)

上山市蔵王ライン 1 ex., 19840707 (木俣)

山辺町荒沼 1♀, 19870827 (木俣)

西川町志津 1♀, 19860726^{28,30)}温海町越沢榎野台林道 1♂, 19890626³⁴⁾66. *Aterpia flavipunctana* (CHRISTOPH)

キマダラムラサキヒメハマキ

山形市不動沢 1♀, 19880622 (木俣)

- 温海町関川大道林道 1♀, 19910624 (木俣)
67. *Saliciphaga acharis* (BUTLER)
 ヤナギサザナミヒメハマキ (Fig.33)
 山形市不動沢 2♂♂, 19840714³²⁾
 上山市金瓶²²⁾
 南陽市漆山須刈田 1♂, 19880702 (伊藤); 2♂
 ♂, 19890708 (伊藤)
68. *Hystrichosolus spathanum* WALSINGHAM
 コシロアシヒメハマキ
 上山市金瓶²²⁾
69. *Hedya auricristana* (WALSINGHAM)
 グミオオウスツマヒメハマキ
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19690818・19720801・19730718²³⁾
70. *Hedya inornata* (WALSINGHAM)
 オオサザナミヒメハマキ (Fig.34)
 山形市不動沢 1♂, 19840714³²⁾
 // 村木沢早坂林道 1♂, 19890714 (木俣)
 上山市金瓶²²⁾
 尾花沢市銀山温泉 2♂♂, 19860712³¹⁾
 南陽市漆山須刈田 1♀, 19890706 (伊藤)
 山辺町荒沼 1♂, 19880704 (木俣)
71. *Hedya dimidiana* (CLERCK)
 シロモンヒメハマキ
 山形市西蔵王高原 1♀, 19840614 (木俣)
 // 不動沢 2♂♂, 19840714³²⁾; 1♂,
 19880622 (木俣)
 // 本沢 1♀, 19890607³³⁾
 // 村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
 // 経塚山 1♂, 19900517 (木俣)
 東根市柳沢小屋 3♂♂, 19860728³¹⁾
 尾花沢市御所山荘 1♂, 19880613 (木俣)
 南陽市荻小学校 1♀, 19860616 (伊藤); 1♂,
 19880622 (伊藤)
- // 吉野中学校 1♂, 19880531 (伊藤)
 西川町志津月山荘 1♂, 19850803^{21,29,30)}
 藤島町 19570613・19590607²³⁾
72. *Hedya semiassana* (KENNEL)
 オオウスツマヒメハマキ (Fig.35)
 山形市不動沢 3♂♂, 19840714³²⁾
 // 高瀬戸沢 1♀, 19840703 (木俣)
 上山市蔵王ライン 1♂, 19840707 (木俣)
 東根市寒風山木葉沢 1♂, 19850629³¹⁾
 // 柳沢小屋 2♀♀, 19860728³¹⁾
73. *Hedya vicinana* (RAGONOT)
 シラフオオヒメハマキ (Fig.36)
 山形市不動沢 2♀♀, 19840714³²⁾
 // 村木沢早坂林道 1♀, 19890714 (木俣)
 // 高瀬戸沢 1♂, 19840703 (木俣)
 // 山寺 1♀, 19740707 (木俣)
 上山市蔵王ライン 1♂, 19840707 (木俣)
 東根市寒風山木葉沢 1♂, 19850629³¹⁾
 // 柳沢小屋 2♂♂, 19860728³¹⁾
 南陽市漆山須刈田 1♀, 19890621 (伊藤)
 西川町志津 2♀♀, 19860726^{28,30)}; 1♀,
 19860824³⁰⁾
 // // 月山荘 1♀, 19880723 (木俣)
 蔵王連峰観松平 5♂♂, 19870718 (木俣)
 // 御田神 1♂, 19840730 (木俣)
74. *Pseudohedya gradana* (CHRISTOPH)
 ナカオビナミスジキヒメハマキ
 尾花沢市銀山温泉 3♀♀, 19860712³¹⁾
75. *Pseudohedya retracta* FALKOVITSH
 オオナミスジキヒメハマキ (Fig.37)
 上山市金瓶²²⁾
 温海町関川大道林道 1♀, 19910624³⁴⁾
76. *Pseudohedya cincinna* FALKOVITSH
 ツマキオオヒメハマキ (Fig.38)
 東根市柳沢小屋 1♂, 19860728³¹⁾
 尾花沢市銀山温泉 1♀, 19860712³¹⁾

77. *Apotomis geminata* (WALSINGHAM)
グミツマジロヒメハマキ
酒田市 1♂, 19610711 (白畑)
上山市金瓶 1 ex., 19740905²²⁾; 1 ex.,
19740906²²⁾; 1 ex., 19770505²²⁾
78. *Apotomis betuletana* (HAWORTH)
ツマジロヒメハマキ
西川町志津月山荘 1♀, 19850803^{21,29,30)}
79. *Apotomis jucundana* KAWABE
ナカグロツマジロヒメハマキ (Fig.39)
西川町志津 1♂, 19860728^{29,30)}
蔵王連峰御田神 3♂♂, 19840730 (木俣)
80. *Apotomis basipunctana* (WALSINGHAM)
ネホシウスツマヒメハマキ
上山市金瓶²²⁾
81. *Olethreutes captiosana* (FALKOVITSH)
モンギンスジヒメハマキ (Fig.40)
山形市西藏王高原 1♂, 19840614 (木俣)
// 不動沢 1♂, 19880622 (木俣)
尾花沢市御所山荘³¹⁾
西川町弓張平 19880616³⁰⁾
蔵王連峰坊平 2♂♂, 19830702 (木俣)
82. *Olethreutes plumbosana* KAWABE
ニセギンボシモトキヒメハマキ (Fig.41)
尾花沢市銀山温泉 1♂, 19860712³¹⁾
温海町越沢檜野台林道 1♀, 19890626³⁴⁾
83. *Olethreutes siderana* (TREITSCHKE)
ギンボシモトキヒメハマキ (Fig.42)
山形市村木沢早坂林道 1♂, 19890614 (木俣)
東根市寒風山木葉沢 1♂, 19850629³¹⁾
尾花沢市銀山温泉 1♀, 19860712³¹⁾
南陽市吉野中学校 1♂, 19880622 (伊藤)
中山町岩谷 1♂, 19860628 (木俣)
84. *Olethreutes electana* (KENNEL)
ウツギヒメハマキ (Fig.43)
山形市不動沢 1♀, 19840714³²⁾
- // 高瀬戸沢 2♂♂, 19840703 (木俣)
// 本沢 1♀, 19890707³³⁾
85. *Olethreutes obovata* (WALSINGHAM)
クリオビキヒメハマキ
新庄市¹⁰⁾
上山市金瓶²²⁾
86. *Olethreutes hydrangeana* KUZNETZOV
ゴトウヅルヒメハマキ (Fig.44)
中山町岩谷 1♂, 19860803 (木俣)
87. *Olethreutes metallicana bicornutana* KUZNETZOV
ホソギンスジヒメハマキ
鳥海山 1♂, 19720806⁹⁾
88. *Olethreutes examinata* FALKOVITSH
オオツヤスジウンモンヒメハマキ (Fig.45)
山形市本沢 2♀♀, 19890727 (木俣)
小国町大滝 1♀, 19920810 (木俣)
89. *Olethreutes pryerana* (WALSINGHAM)
キスジオビヒメハマキ
山形市不動沢 1♀, 19880712 (木俣)
上山市金瓶²²⁾
尾花沢市銀山温泉 1♀, 19860712³¹⁾
西川町志津 1♀, 19860728^{29,30)}; 1♀, 19880923
(木俣)
90. *Olethreutes moderata* FALKOVITSH
ナツハゼヒメハマキ (Fig.46)
上山市金瓶²²⁾
// 蔵王ライン 1 ex., 19840707 (木俣)
大蔵村肘折温泉 2♂♂, 19860703 (木俣)
温海町関川大道林道 1♀, 19910624 (木俣)
91. *Olethreutes castaneana* (WALSINGHAM)
クリイロヒメハマキ (Fig.47)
山形市本沢 1♀, 19890707 (木俣)
92. *Olethreutes orthocosma* (MEYRICK)
コクリオビクロヒメハマキ
山形市不動沢 1♀, 19840714³²⁾
// 高瀬戸沢 1♀, 19840703 (木俣)

- // 本沢 1♀, 19890727 (木俣) クロマダラシムシガ
93. *Olethreutes morivora* (MATSUMURA) 藤島町 19710625²³⁾
 コクワヒメハマキ (Fig.48) 102. *Endothenia banausopis* (MEYRICK)
 山形市不動沢 1♂, 19840714³²⁾ ツマジロクロヒメハマキ
 藤島町 19660624²³⁾ 上山市金瓶²²⁾
 朝日村倉沢林道 1 ex., 19910707³⁴⁾ 東根市柳沢林道 2♀♀, 19870902³¹⁾
 温海町関川大道林道³⁴⁾ 103. *Endothenia remigera* FALKOVITSH
 94. *Olethreutes transversana* (CHRISTOPH) コクロヒメハマキ (Fig.51)
 オオクリモンヒメハマキ 藤島町 19760825²³⁾
 山形市高瀬戸沢 1♀, 19840804 (木俣) 温海町関川大道林道 1♀, 19910624 (木俣)
 中山町岩谷 1♀, 19860803 (木俣) 104. *Lobesia reliquana* (HÜBNER)
 95. *Olethreutes mori* (MATSUMURA) ホソバヒメハマキ
 クワヒメハマキ (Fig.49) 上山市金瓶 1 ex., 19740524²²⁾
 山形市上宝沢 1♂, 19880709 (木俣) 105. *Lobesia aeolopa* MEYRICK
 // 本沢 2♂♂1♀, 19890707 (木俣) ホソバチビヒメハマキ
 // 村木沢早坂林道 1♀, 19890714 (木俣) 蔵王連峰坊平 1♀, 19830702 (木俣)
 温海町越沢榎野台林道 1♂, 19890626 (木俣) 106. *Lobesia cocophaga* FALKOVITSH
 96. *Olethreutes doubledayana* (BARRET) スイカズラホソバヒメハマキ
 クローバヒメハマキ (Fig.50) 上山市金瓶²²⁾
 上山市金瓶²²⁾ 107. *Ancylis repandana* KENNEL
 山辺町荒沼 2♂♂, 19870827 (木俣) ナガカギバヒメハマキ
 藤島町 19760825²³⁾ 鳥海山河原宿 19660800¹⁵⁾
 蔵王連峰坊平 2♀♀, 19830702 (木俣)
 97. *Olethreutes aurofasciana* (HAWORTH) コケキオビヒメハマキ
 尾花沢市銀山温泉 1 ex., 19860712³¹⁾ 108. *Ancylis nemorana* KUZNETZOV
 98. *Olethreutes semicremata* (CHRISTOPH) カギバヒメハマキ
 ウワミズヒメハマキ 山形市蔵王温泉 1♀, 19830703 (木俣)
 西川町志津 1♂, 19870820 (木俣) 西川町志津 1♂, 19860622^{28,30)}; 2♀♀,
 19860726^{28,30)}
 99. *Celypha flavipalpata* (HERRICH-SCHÄFFER) コキシジオビヒメハマキ
 上山市金瓶 1 ex., 19850917²²⁾ 109. *Ancylis partitana* (CHRISTOPH)
 山辺町荒沼 1♀, 19870827 (木俣) カバカギバヒメハマキ (Fig.52)
 山形市門伝大平 1♂, 19880608 (木俣)
 // 不動沢 1♀, 19880622 (木俣)
 // 村木沢早坂林道 3♂♂, 19890614 (木俣)
 100. *Piniphila bifasciana* (HAWORTH) アカマツハナムシガ
 鶴岡市高館山³⁴⁾
 上山市金瓶²²⁾
 101. *Endothenia nigricostana* (HAWORTH) 上山市金瓶²²⁾
 南陽市吉野中学校 1♀, 19880608 (伊藤); 1

- ♂, 19880622 (伊藤)
 // 漆山須刈田 1♀, 19890608 (伊藤)
110. *Ancylis uncella* (DENIS et SCHIFFERMÜLLER)
 ウスベニカギバヒメハマキ
 蔵王連峰坊平 1♀, 19830702 (木俣)
111. *Ancylis myrtilana* (TREITSCHKE)
 ミヤマカギバヒメハマキ (Fig.53)
 南陽市漆山矢ノ沢 1♂, 19890531 (伊藤)
112. *Ancylis mandarinana* WALSINGHAM
 セモンカギバヒメハマキ (Fig.54)
 南陽市中ノ沢 1♀, 19880821 (伊藤)
113. *Ancylis selenana* (GUENÉE)
 フタバシヒメハマキ
 山形市村木沢^{22,33)}
114. *Enarmonia major* (WALSINGHAM)
 ギンボシキヒメハマキ
 藤島町 19670530・19670604²³⁾
115. *Enarmonia flammeata* KUZNETZOV
 コナミスジキヒメハマキ (Fig.55)
 山形市不動沢 1♀, 19880622 (木俣)
 大蔵村肘折温泉 2♂♂, 19860703 (木俣)
 蔵王連峰坊平 2♂♂, 19830702 (木俣)
116. *Semnostola magnifisa* (KUZNETZOV)
 ニセハギカギバヒメハマキ (Fig.56)
 朝日村倉沢林道 1♂, 19910707 (木俣)
117. *Rhopalovalva lascivana* (CHRISTOPH)
 サザナミキヒメハマキ
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19570705・19660702²³⁾
 蔵王連峰坊平 5♀♀, 19830702 (木俣)
118. *Rhopalovalva amabilis* OKU
 コナミスジヒメハマキ
 尾花沢市銀山温泉 1♂, 19860712³¹⁾
119. *Rhopalovalva pulchra* (BUTLER)
 キカギヒメハマキ
 上山市金瓶 1 ex., 19730803²²⁾; 1 ex.,
- 19740529²²⁾
120. *Eucoenogenes aestuosa* (MEYRICK)
 クリミドリシンクイガ (Fig.57)
 上山市金瓶²²⁾
 朝日村倉沢林道 1♀, 19910707³⁴⁾
121. *Eucoenogenes japonica* KAWABE
 モトゲヒメハマキ
 藤島町 19760721²³⁾
122. *Spilonota ocellana* (DENIS et SCHIFFERMÜLLER)
 リンゴシロヒメハマキ (Fig.58)
 上山市金瓶 1 ex., 19850628²²⁾; 1 ex.,
 19850715²²⁾
 東根市柳沢小屋 1♀, 19860728³¹⁾
 西川町志津月山荘 1♀, 19850803^{21,29,30)}
123. *Spilonota eremitana* MORIUTI
 カラマツヒメハマキ
 山形市門伝大平 1♀, 19850708 (木俣)
 // 不動沢 1♀, 19840714³²⁾
 上山市金瓶 1 ex., 19760806²²⁾
 尾花沢市銀山温泉 1♀, 19860712³¹⁾
124. *Spilonota albicana* (MOTSCHULSKY)
 シロヒメシンクイ
 山形市村木沢早坂林道 1 ex., 19890714 (木俣)
125. *Gibberifera simplana* (FISCHER VON RÖSLERSTAMM)
 ウスキシロヒメハマキ (Fig.59)
 南陽市漆山須刈田 1♂, 19890706 (伊藤); 1
 ♂, 19890708 (伊藤)
126. *Epinotia granitalis* (BUTLER)
 ヒノキカワモグリガ (Fig.60)
 山形市不動沢 1♂, 19840714³²⁾
 上山市金瓶²²⁾
 中山町岩谷 1♀, 19860803 (木俣)
 西川町志津 1♀, 19870820³⁰⁾
127. *Epinotia bicolor* (WALSINGHAM)
 ヒロオピヒメハマキ (Fig.61)
 山形市村木沢^{22,33)}

- // 高瀬戸沢 3♀♀, 19840804 (木俣) ドアイウンモンヒメハマキ
 酒田市 1♂, 19610826 (白畑) 上山市金瓶 1♀, 19740815²²⁾
 上山市金瓶 ²²⁾
 南陽市中ノ沢 1♂1♀, 19880821 (伊藤) マエグロスソモンヒメハマキ
 // 荻小学校 2♂♂1♀, 19870714 (伊藤) 上山市金瓶 1 ex., 19740530²²⁾
 // 吉野中学校 1♀, 19860724 (伊藤) 149. *Eucosma denigratana* (KENNEL)
 山辺町荒沼 1♂, 19870827 (木俣) オオコゲチャスソモンヒメハマキ
 西川町間沢 1♀, 19660814¹⁶⁾ 上山市金瓶 1 ex., 19740903²²⁾
 // 志津 1♂, 19750725^{17,28,30)} 150. *Eucosma yasudai* NASU
 藤島町 19560528・19570705・19660811・
 19740723・19740731・19740929・19750830・
 19760909²³⁾ コゲチャスソモンヒメハマキ
 温海町温海岳 4♂♂, 19890825 (木俣) 東根市柳沢林道 1♀, 19870902¹¹⁾
 144. *Epiblema inconspicua* (WALSINGHAM) 151. *Eucosma catharaspis* (MEYRICK)
ソトジロトガリヒメハマキ
上山市金瓶 ²²⁾
山辺町荒沼 1♀, 19870827 (木俣)
藤島町 19690828・19720903・19760829²³⁾
152. *Eucosma metzneriana* (TREITSCHKE)
トビモンシロヒメハマキ (Fig.71)
山形市不動沢 1♂, 19880622 (木俣); 2♀♀,
19880902 (木俣)
// 村木沢早坂林道 3♂♂, 19890614 (木俣)
上山市金瓶 ²²⁾
// 蔵王ライン 3♂♂, 19840707 (木俣)
東根市寒風山木葉沢 1♀, 19850629¹¹⁾
南陽市荻小学校 1♂, 19880615 (伊藤)
// 漆山須刈田 1♂, 19890614 (伊藤)
中山町岩谷 1♂, 19860628 (木俣)
大蔵村肘折温泉 2♀♀, 19860703 (木俣)
 145. *Epiblema pryera* (WALSINGHAM) 153. *Rhopobota ustomaculana* (CURTIS)
プライヤヒメハマキ (Fig.70)
山形市西藏王高原 1♀, 19840711 (木俣)
// 上宝沢 1♀, 19890730 (木俣)
上山市蔵王ライン 1♂, 19840707 (木俣)
東根市柳沢小屋 2♂♂, 19860728³¹⁾
尾花沢市御所山荘 ³¹⁾
南陽市中ノ沢 1♂, 19880821 (伊藤)
// 漆山須刈田 1♂, 19890608 (伊藤)
西川町志津 1♀, 19860726 (木俣)
// // 月山荘 1♂, 19850803^{21,29,30)}
温海町越沢槇野台林道 1♀, 19890626 (木俣)
蔵王連峰坊平 1♀, 19830702 (木俣)
 146. *Epiblema sugii* KAWABE スギヒメハマキ
 藤島町 19730706²³⁾
 147. *Epiblema kostjuki* KUZNETZOV クロネハイイロヒメハマキ
上山市金瓶 1 ex., 19830701²²⁾; 1 ex.,

- 19840704²²⁾; 1 ex., 19840901²²⁾
 西川町志津 1♀, 19880923 (木俣)
155. *Dichrorampha latiflavana* CARADJA
 キオビヘリホシヒメハマキ (Fig.73)
 山形市不動沢 1♂, 19880902 (木俣)
 上山市金瓶²²⁾
 天童市天童高原 1♀, 19910901 (木俣)
156. *Antichlidias holocnista* MEYRICK
 ツマキハイイロヒメハマキ (Fig.74)
 南陽市中ノ沢 1♂, 19880821 (伊藤)
157. *Phaecedophora fimbriata* WALSINGHAM
 アシプトヒメハマキ
 鶴岡市高館山 1♀, 19910818 (木俣)
158. *Cryptophlebia yasudai* KAWABE
 オオアシプトヒメハマキ (Fig.75)
 西川町志津 1♂, 19860824^{29,30)}
159. *Matsumuraeses falcana* (WALSINGHAM)
 ニセマメサヤヒメハマキ (Fig.76)
 上山市金瓶 1♂, 19830921²²⁾
 南陽市漆山矢ノ沢口 1♂, 19890415 (伊藤);
 1♂, 19890506 (伊藤)
 藤島町 19740518²³⁾
160. *Grapholita quadristriana* WALSINGHAM
 ヨツスジヒメシンクイ
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19670520・19710622²³⁾
161. *Grapholita scintillana* CHRISTOPH
 コスソキモンヒメハマキ
 上山市金瓶²²⁾
162. *Grapholita pavonana* WALSINGHAM
 ミドリバエヒメハマキ
 西川町志津月山荘 1♂, 19850803^{21,29,30)}
163. *Grapholita molesta* (BUSCK)
 ナシヒメシンクイ
 藤島町 19690818・19710621²³⁾
164. *Pammene orientana* KUZNETZOV
 シタジロシロモンヒメハマキ (Fig.77)
 山形市門伝大平 1♀, 19880608 (木俣)
165. *Pammene nemorosa* KUZNETZOV
 ネモロウサヒメハマキ
 南陽市漆山矢ノ沢口 1♀, 19890506 (伊藤)
 西川町志津 1♂, 19860622^{29,30)}
166. *Strophedra nitidana* (FABRICIUS)
 カシワギンオビヒメハマキ
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19690818²³⁾
167. *Leguminivora glycinivorella* (M.A. TSUMURA)
 マメノヒメシンクイ
 藤島町 19760827²³⁾
168. *Cydia japonensis* KAWABE
 シロアシヨツメモンヒメハマキ
 東根市柳沢小屋 1♀, 19860728³¹⁾
 尾花沢市銀山温泉 2♀♀, 19860712³¹⁾
 西川町志津荒沢橋 1♂, 19850715^{28,30)}
 大蔵村肘折温泉 1♀, 19860719 (木俣)
 朝日村倉沢林道 1♂1♀, 19910707 (木俣)
169. *Cydia kurokoi* (AMSEL)
 クリミガ (Fig.78)
 山形市不動沢 1♂1♀, 19880902³²⁾
 // 村木沢^{22,33)}
 // // 早坂林道 1♀, 19890829 (木俣)
 上山市金瓶²²⁾
 中山町岩谷 2♂♂, 19860915 (木俣)
170. *Cydia danilevskyi* (KUZNETZOV)
 ヨツメヒメハマキ
 上山市金瓶²²⁾
 山辺町荒沼 1♀, 19870827 (木俣)
171. *Cydia glandicolana* (DANILEVSKY)
 サンカクモンヒメハマキ (Fig.79)
 上山市金瓶 1 ex., 19850917²²⁾
 中山町岩谷 1♀, 19860915 (木俣)

温海町温海岳 2♂♂2♀♀, 19890825 (木俣)

COCHYLIDAE ホソハマキガ科

日本からは41種類が知られており、県内からはそのうち13種類が見つかるに過ぎない。幼虫のほとんどは、種子、花床、茎、根などに潜入する。

1. *Hysterosia vulneratana* (ZETTERSTEDT)
オオウンモンホソハマキ
尾花沢市銀山温泉 1♀, 19860712³¹⁾
2. *Hysterosia inopiana* (HAWORTH)
フタテンホソハマキ
藤島町 19650707²³⁾
3. *Hysterosia pistrinana* (ERSCHOFF)
セジロホソハマキ
上山市金瓶²²⁾
4. *Stenodes jaculana* (SNELLEN)
クサビホソハマキ (Fig.80)
上山市金瓶²²⁾
南陽市中ノ沢 1♀, 19880821 (伊藤)
5. *Phalonidia zygota* RAZOWSKI
ツマオビシロホソハマキ
上山市金瓶²²⁾
6. *Phalonidia vectisana* (HUMPHREYS et WESTWOOD)
コホソハマキ
上山市金瓶 1 ex., 19850912²²⁾
7. *Phalonidia minimana* (CARADJA)
ミニホソハマキ
上山市金瓶²²⁾
8. *Phtheochroides clandestina* RAZOWSKI
ヨモギオオホソハマキ (Fig.81)
上山市金瓶²²⁾
真室川町及位 1♂, 19610623 (白畑)
温海町越沢榎野台林道 1♀, 19890626 (木俣)
9. *Eugnosta dives* (BUTLER)
ギンモンホソハマキ

上山市金瓶 1♂, 19850708²²⁾

藤島町 19570715・19650712²³⁾

10. *Aethes cnicana* (WESTWOOD)
ニセエダオビホソハマキ (Fig.82)
上山市金瓶 1 ex., 19850917²²⁾
中山町岩谷 1♀, 19860915 (木俣)
11. *Eupoecilia angustana* (HÜBNER)
ツマオビキホソハマキ
東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾
12. *Cochylidia contumescens* (MEYRICK)
フトスジホソハマキ (Fig.83)
米沢市築沢岡原荘前 1♂, 19910731 (伊藤)
13. *Cochylidia heydeniana* (HERRICH-SCHÄFFER)
ハスジチビホソハマキ
上山市金瓶 1 ex., 19850717²²⁾

LIMACODIDAE イラガ科

小型から中型の蛾で日本からは27種が知られているが、県内からは現在までのところ15種類が見つかる。幼虫には毒針をもっているものが多く刺されると鋭い痛みを感じる。マユは固く卵型あるいは西洋梨型をしている。

1. *Kitanola uncula* (STAUDINGER)
マダライラガ (Fig.84)
西川町弓張平 19880606³⁰⁾
// 志津 1♂, 19750725^{17,28,30)}; 1♂1♀, 19860726^{28,30)}
// 志津月山荘 1♂, 19850803^{21,30)}
2. *Mediocampa speciosa* (INOUE)
クロマダライラガ (Fig.85)
山形市村木沢^{22,33)}
東根市柳沢小屋 1♀, 19860728³¹⁾
西川町間沢 1♂, 19750725¹⁶⁾
// 志津 1♂, 19860726^{28,30)}
// 志津月山荘 1♀, 19850803^{21,30)}
3. *Narosoideus flavidorsalis flavidorsalis*

- (STAUDINGER) ナシイラガ(Fig.86)
- 山形市面白山 1♂, 19750719¹⁸⁾
 // 奥山寺 2♂♂, 19730630¹⁸⁾
 // 村木沢^{22,33)}
 // 村木沢早坂林道 1♀, 19890803³³⁾
 // 本沢 2♂♂, 19890727³³⁾
 // 門伝大平 3♀♀, 19850708³³⁾
 // 不動沢 1♂, 19880712³²⁾
 米沢市築沢岡原 2♂♂1♀, 19910731 (伊藤)
 上山市金瓶²²⁾
 東根市関山 1♂, 19780615 (博物館)
 中山町岩谷 1♂, 19860628 (木俣); 3♂♂,
 19860803 (木俣)
 西川町間沢 1♂, 19750725¹⁶⁾; 1♂, 19750728¹⁶⁾
 // 志津 1♂, 19750725^{17,28,30)}; 1♂,
 19870729³⁰⁾
 // // 月山荘 1♂, 19880723³⁰⁾
 // // 荒沢橋 3♂♂, 19850715³⁰⁾
 大江町古寺鉱泉 7♂♂, 19850720 (木俣)
 小国町市野々 1♀, 19920729 (木俣)
 飯豊町白川ダム 1♂, 19850723 (横倉)
 温海町湯の瀬温泉³⁴⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 19680800²⁶⁾; 4♂♂,
 19820717 (木俣)
4. *Scopelodes contracta* WALKER
 ヒメクロイラガ
 上山市金瓶²²⁾
5. *Monema flavescens* WALKER イラガ(Fig.87)
 山形市奥山寺 1♀, 19770628 (博物館)
 // 上宝沢 1♂, 19890730 (木俣)
 // 村木沢^{22,33)}
 // 村木沢早坂林道 1♀, 19890714³³⁾
 酒田市 1♂, 19610707²⁶⁾
 上山市金瓶²²⁾
 中山町岩谷 1♂1♀, 19860803 (木俣)
 西川町間沢 2♂♂, 19750725¹⁶⁾
- // 志津 1♂, 19750725^{17,28,30)}
 小国町市野々 2♂♂, 19920729 (木俣)
 藤島町 19570602²³⁾
6. *Heterogenea asella* (DENIS et SCHIFFER-
 MÜLLER) カギバイラガ
 上山市金瓶²²⁾
7. *Microleon longipalpis* BUTLER
 テングイラガ(Fig.88)
 山形市不動沢 1♂, 19840714³²⁾
 // 村木沢^{22,33)}
 // 村木沢早坂林道 2♀♀, 19890614³³⁾
 // 本沢 1♂, 19890727³³⁾
 上山市金瓶²²⁾
 東根市柳沢小屋 2♂♂, 19860728³¹⁾
 中山町岩谷 1♂, 19860628 (木俣)
 西川町志津 1♂, 19750725^{17,28,30)}
 藤島町 19560617・19570705・19720829²³⁾
 温海町関川大道林道³⁴⁾
8. *Phrixolepia sericea* BUTLER
 アカイラガ(Fig.89)
 山形市村木沢^{22,33)}
 // 西藏王高原 1♂, 19840711²⁰⁾
 上山市金瓶²²⁾
 東根市柳沢小屋 2♂♂, 19860728³¹⁾
 西川町志津 1♂, 19750725^{17,30)}; 1♀,
 19860824^{28,30)}
 // 志津月山荘 2♂♂, 19850803^{21,30)}; 1♀,
 19880723 (木俣)
 大江町古寺鉱泉 1♂, 19850720 (木俣)
9. *Austrapoda hepatica* INOUE
 ウスムラサキイラガ(Fig.90)
 山形市高瀬戸沢 1♂, 19840804 (木俣)
 // 村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
 東根市柳沢小屋 10♂♂, 19860728³¹⁾
 西川町志津 1♂, 19860726^{28,30)}; 1♂,

19860824^{28,30)}// 志津月山荘 1♂, 19850803^{21,30)}// 志津荒沢橋 1♂, 19850714³⁰⁾

大江町古寺鉱泉 1♂, 19850720 (木俣)

温海町関川大道林道³⁴⁾10. *Austrapoda nitobeana* (MATSUMURA)

ムラサキイラガ (Fig.91)

山形市高瀬戸沢 2♂♂, 19840703²⁵⁾; 1♂,
19840804²⁵⁾// 上宝沢 2♂♂, 19880821³²⁾// 村木沢^{22,33)}// 村木沢早坂林道 3♂♂, 19890714³³⁾; 3
♂♂, 19890803³³⁾// 門伝大平 1♂, 19850708³³⁾上山市金瓶²²⁾天童市荒谷 1♂, 19820804¹⁸⁾; 1♂, 19820807¹⁸⁾東根市柳沢小屋 1♂, 19860728³¹⁾

中山町岩谷 2♂♂, 19860803 (木俣)

西川町志津 1♂, 19750725^{17,28,30)}; 1♀,
19860728^{28,30)}朝日村倉沢林道³⁴⁾鳥海山ソブ谷地 19660800¹⁵⁾11. *Parasa sinica* (MOORE)

クロシタアオイラガ (Fig.92)

山形市西藏王高原 1♂, 19840711²⁰⁾// 上宝沢 3♂♂, 19880709³²⁾// 不動沢 3♂♂, 19880712³²⁾// 村木沢^{22,33)}// 高瀬戸沢 1♂, 19840703²⁵⁾// 面白山 1♂, 19750630 (木俣); 2♂♂,
19820710 (木俣)鶴岡市金峯山³⁴⁾// 由良 1♂, 19890701³⁴⁾酒田市飛島¹⁴⁾上山市金瓶²²⁾// 蔵王ライン 5♂♂, 19840707²⁰⁾東根市寒風山木葉沢 2♂♂, 19850629³¹⁾// 柳沢小屋 5♂♂, 19860728³¹⁾尾花沢市銀山温泉³¹⁾

中山町岩谷 1♀, 19860803 (木俣)

西川町間沢 1♂, 19750728¹⁶⁾// 志津 1♂, 19610808^{26,28,30)}; 3♂♂,
19860622^{28,30)}; 1♂1♀, 19860726³⁰⁾; 1♂,
19860824^{28,30)}; 1♂, 19870729³⁰⁾; 1♂,
19870820³⁰⁾// 志津月山荘 1♀, 19850803^{21,30)}

大江町古寺鉱泉 1♂, 19850720 (木俣)

大蔵村肘折温泉 1♂, 19860703 (木俣)

小国町市野々 4♂♂, 19920625 (木俣)

// 大滝 1♀, 19920702 (木俣); 1♂1♀,
19920810 (木俣)藤島町 19560505・19670817・19730827²³⁾温海町温海岳 1♂, 19890825³⁴⁾// 関川大道林道³⁴⁾鳥海山ソブ谷地 19660800¹⁵⁾

飯豊連峰ヌクミ平 2♂♂, 19820717 (木俣)

12. *Parasa consocia* (WALKER)

アオイラガ (Fig.93)

山形市村木沢^{22,33)}

山形市上宝沢 1♀, 19890730 (木俣)

米沢市築沢岡原 1♂, 19910731 (伊藤)

上山市金瓶²²⁾

中山町岩谷 1♂, 19860803 (木俣)

西川町間沢 1♂, 19730804¹⁶⁾

小国町市野々 1♀, 19920729 (木俣)

13. *Ceratonema sericea* (BUTLER)

ウストビイラガ (Fig.94)

山形市村木沢早坂林道 2♂♂, 19890803³³⁾上山市金瓶 1♂, 19730801²²⁾; 1♂, 19800724²²⁾

中山町岩谷 2♂♂, 19860803 (木俣)

西川町間沢 1♂, 19730804¹⁶⁾14. *Phlossa conjuncta* (WALKER)

タイワンイラガ(Fig.95)

小国町市野々 1♂, 19920729 (木俣)
 // 大滝 2♂♂, 19920810 (木俣)

15. *Naryciodes posticalis* MATSUMURA

ヒロズイラガ(Fig.96)

山形市本沢 1♂, 19890707³³⁾; 1♂, 19890727³³⁾

4 追 録

シャクガ科については、山形県立博物館研究報告第8号(1987)において報告したが、その後渡辺義汎氏による報告(1987)及び布施寛氏による報告(1987)、筆者等による山形県総合学術調査報告書、その他の調査により多くの種類や採集地が追加されたので、追録として報告する。繁雑を避けるため前回の報告書記載の採集地と同じ採集地の記録は割愛し、新しく採集された場所のデータのみを記録することにした。

なお、学名前の番号は、317までは前回の報告書と同じ番号を使用し、318以降は新たに追加される種類である。今回は紙数の関係でエダシャク亜科は記載できなかったのもので、次回に報告することにする。

GEOMETRIDAE シャクガ科

Oenochrominae ホシシャク亜科

1. *Alsophila japonensis* (WARREN)

シロオビフユシャク

新庄市陣ヶ峰 2♂♂, 19871122³⁷⁾
 上山市金瓶 1♂, 19780929²²⁾; 1♂, 19821202²²⁾; 1♂, 19841203²²⁾
 // 蔵王ライン 5♂♂, 19871116 (木俣)
 東根市柳沢小屋 5♂♂, 19871101³¹⁾
 西川町志津 1♂, 19871118 (木俣)
 最上町花立峠 1♂, 19871123 (木俣)
 大蔵村肘折温泉 1♂, 19871122³⁷⁾

318. *Alsophila inouei* NAKAJIMA

ユキムカエフユシャク

上山市蔵王ライン 4♂♂, 19871116(木俣, 内 2♂♂はParatypesとして中島秀雄氏所蔵³⁶⁾)

319. *Inurois membranaria* (CHRISTOPH)

クロテンフユシャク

新庄市杵蔵山 5♂♂1♀, 19871123³⁷⁾
 上山市金瓶 1♂, 19800401²²⁾; 1♂, 19800403²²⁾
 大蔵村肘折温泉 1♂, 19871122³⁷⁾

2. *Inurois fletcheri fletcheri* INOUE

ウスバフユシャク

山形市霞城公園 11♂♂2♀♀, 19901225(木俣)
 新庄市杵蔵山 5♂♂1♀, 19871123³⁷⁾
 上山市金瓶²²⁾

3. *Inurois asahinai* INOUE フタスジフユシャク

新庄市杵蔵山 3♂♂, 19831122³⁵⁾; 13♂♂, 19871123³⁷⁾
 上山市金瓶²²⁾

西川町志津 5♂♂, 19871118 (木俣)

最上町花立峠 1♂, 19871123 (木俣)

大蔵村肘折温泉 5♂♂, 19871122³⁷⁾

4. *Inurois tenuis* BUTLER

ホソウスバフユシャク

山形市高瀬 2♂♂, 19840422 (木俣)

上山市金瓶 1♂, 19830329²²⁾

320. *Inurois fumosa* (INOUE)

ウスモンフユシャク

新庄市杵蔵山 1♂, 19871123³⁷⁾

上山市金瓶²²⁾

Geometrinae アオシャク亜科

321. *Pingasa alba brunnescens* PROUT

オオシロアヤシャク

南陽市漆山矢ノ沢口 1♂, 19890506 (伊藤)

5. *Pingasa aignerii* PROUT ウスアオアヤシャク

山形市上宝沢 1♀, 19880709³²⁾

- // 村木沢早坂林道 1♀, 19890714³³⁾
 上山市金瓶²²⁾
6. *Pachyodes superans* (BUTLER)
 オオアヤシャク
 山形市村木沢^{22,33)}
 // 本沢 2♂♂, 19890727³³⁾
 // 上宝沢 1♂, 19880821³²⁾
 上山市金瓶²²⁾
 東根市柳沢林道 1♂, 19870902³¹⁾
 // 柳沢小屋 1♂, 19860728³¹⁾
 山辺町荒沼 3♂♂1♀, 19870827³³⁾
 小国町 1♂, 19710902 (山谷)
 温海町大道林道 2♀♀, 19910624³⁴⁾
 // 越沢榎野台林道 1♂, 19890626³⁴⁾
 // 越沢林道³⁴⁾
 // 温海岳 2♂♂, 19890825³⁴⁾
7. *Dindica virescens* (BUTLER)
 ウスアオシャク
 山形市上宝沢 1♀, 19880709³²⁾
 鶴岡市高館山 1♀, 19910818³⁴⁾
 東根市柳沢小屋 2♂♂3♀♀, 19860728³¹⁾
 尾花沢市銀山温泉 2♂♂, 19870530³¹⁾; 2♂♂,
 19860712³¹⁾
 // 御所山荘 1♂, 19880613³¹⁾
 山辺町荒沼 1♂1♀, 19880704³³⁾
 西川町志津月山荘 1♂2♀♀, 19880723³⁰⁾
 小国町大滝 2♂♂1♀, 19920810 (木俣)
 朝日町倉沢林道 1♂, 19900828³⁴⁾; 1♂1♀,
 19910707³⁴⁾
 温海町関川大道林道 2♀♀, 19910624³⁴⁾
 // 越沢榎野台林道 1♀, 19890626 (木俣)
 // 温海岳 2♂♂, 19890825³⁴⁾
322. *Agathia carissima* BUTLER
 チズモンアオシャク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
- 小国町 1♀, 19720520 (山谷)
 // 市野々 1♀, 19920729 (木俣)
 藤島町 19630710・19720806²³⁾
323. *Agathia visenda visenda* PROUT
 アシプトチズモンアオシャク
 上山市金瓶 1 ex., 19840802²²⁾
324. *Aracima muscosa* BUTLER
 アトヘリアオシャク
 蔵王連峰ドッコ沼 1♀, 19880908³²⁾
 吾妻連峰新高湯 1♂, 19710725 (山谷)
325. *Tanaorhinus reciprocata confuciarum*
 (WALKER) カギバアオシャク
 山形市村木沢 1♂, 19830915^{22,33)}
326. *Geometra sponsaria* (BREMER)
 シロオビアオシャク
 鶴岡市由良 1♂, 19890701 (木俣)
12. *Geometra dieckmanni* GRAESER
 カギシロスジアオシャク
 山形市上宝沢 5♂♂, 19880709³²⁾; 3♂♂,
 19880821³²⁾
 // 村木沢^{22,33)}
 // 村木沢早坂林道 7♂♂, 19890614³³⁾; 1
 ♀, 19890714³³⁾
 米沢市築沢岡原 1♂, 19910916 (伊藤)
 鶴岡市高館山 3♂♂, 19910818³⁴⁾
 // 金峯山³⁴⁾
 上山市金瓶²²⁾
 天童市天童高原 1♂, 19910901 (木俣)
 東根市柳沢小屋 1♂, 19860728³¹⁾
 尾花沢市銀山温泉 1♀, 19860712³¹⁾
 // 御所山荘 2♂♂1♀, 19870814³¹⁾
 山辺町荒沼 1♂, 19870827³³⁾; 1♂, 19880704³³⁾
 西川町志津月山荘 1♀, 19880723³⁰⁾
 小国町市野々 1♂, 19920829 (木俣)
 // 大滝 1♂, 19920810 (木俣)
 朝日村倉沢林道 1♂, 19910707³⁴⁾

- 温海町関川大道林道 5♂♂1♀, 19910624³⁴⁾
 // 温海岳 3♂♂2♀♀, 19890825³⁴⁾
 // 湯の瀬温泉³⁴⁾
13. *Geometra valida* FELDER et ROGENHOFER
 クロスジアオシヤク
 山形市不動沢 1♂, 19880712³²⁾
 // 村木沢^{22,33)}
 米沢市 1♀, 19720629 (山谷)
 上山市金瓶²²⁾
 小国町 1♂, 19690704 (山谷)
 藤島町 19560713・19670621²³⁾
14. *Geometra glaucaria* MÉNÉTRIÈS
 コシロオビアオシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 // 門伝大平 1♀, 19850708³³⁾
 米沢市 1♀, 19690625 (山谷)
 // 笹野山 1♂, 19710630 (山谷)
 上山市金瓶²²⁾
 東根市柳沢小屋 3♀♀, 19860728³¹⁾
 尾花沢市銀山温泉 3♂♂, 19860712³¹⁾
 小国町大滝 1♂, 19920702 (木俣)
 藤島町 19590628²³⁾
327. *Neohipparchus vallata* (BUTLER)
 キマエアオシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 // // 早坂林道 1♀, 19890714³³⁾
 // 高瀬戸沢 2♂♂, 19840804²⁵⁾
 // 奥山寺 1♂, 19730630¹⁸⁾
 上山市金瓶²²⁾
 天童市田麦野 1♀, 19910813 (木俣)
328. *Ochrognesia difficta* (WALKER)
 シロフアオシヤク
 米沢市築沢岡原 1♀, 19910802 (伊藤)
 小国町市野々 1♀, 19920729 (木俣)
329. *Jodis lactearia* (LINNAEUS)
 ナミガタウスキアオシヤク
 上山市金瓶²²⁾
330. *Jodis putata orientalis* WEHRLI
 ヒメウスアオシヤク
 上山市金瓶²²⁾
331. *Jodis argutaria* (WALKER)
 ウスミズアオシヤク
 山形市本沢 2♂♂1♀, 19890707³³⁾
332. *Gelasma albistrigata* WARREN
 スジモンツバメアオシヤク
 温海町越沢榎野台林道 1♀, 19890626³⁴⁾
16. *Gelasma ambigua* (BUTLER)
 ツバメアオシヤク
 米沢市築沢岡原 1♀, 19910731 (伊藤)
 上山市金瓶²²⁾
17. *Gelasma fuscofrons* INOUE
 ズグロツバメアオシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 温海町関川大道林道 1♀, 19910624³⁴⁾
333. *Gelasma illiturrata* (WALKER)
 ヒロバツバメアオシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 鶴岡市由良 2♂♂, 19890701³⁴⁾
 上山市金瓶²²⁾
334. *Gelasma grandificaria* (GRAESER)
 ハガタツバメアオシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
 小国町市野々 1♂, 19920729 (木俣)
 温海町関川大道林道 1♂, 19910624 (木俣)
335. *Nipponogelasma lucia* (THIERRY-MIEG)
 スジツバメアオシヤク
 上山市金瓶²²⁾
 温海町関川大道林道 1♀, 19910624³⁴⁾
18. *Hemithea aestivaria* (HÜBNER)
 キバラヒメアオシヤク
 上山市金瓶²²⁾

- 藤島町 19570717・19630818・19730702²³⁾
 温海町関川大道林道³⁴⁾
336. *Chlorissa obliterata* (WALKER)
 コウスアオシヤク
 山形市門伝大平 1♂1♀, 19880608³³⁾
 上山市金瓶²²⁾
19. *Chlorissa amphitritaria* (OBERTHÜR)
 ハラアカアオシヤク
 上山市金瓶²²⁾
 温海町関川大道林道 1♀, 19910624³⁴⁾
337. *Chlorissa macrotyro* INOUE
 ウスハラアカアオシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
20. *Chlorissa anadema* (PROUT)
 ホソバハラアカアオシヤク
 山形市上宝沢 1♀, 19890730 (木俣)
 上山市金瓶²²⁾
 小国町市野々 1♀, 19920729 (木俣)
 温海町温海岳 2♂♂, 19890825 (木俣)
 // 越沢林道³⁴⁾
338. *Diplodesma ussuriaria* (BREMER)
 ナミスジコアオシヤク
 上山市金瓶²²⁾
22. *Culpinia diffusa* (WALKER)
 アカアシアオシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19570612・19590618・19730708²³⁾
23. *Comibaena procumbaria* (PRYER)
 ヨツモンマエジロアオシヤク
 鶴岡市高館山³⁴⁾
 藤島町 19560820・19570619・19680929²³⁾
24. *Comibaena amoenaria* (OBERTHÜR)
 ヘリジロヨツメアオシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
- 上山市金瓶²²⁾
25. *Comibaena delicatior* (WILEMAN)
 クロモンアオシヤク
 山形市本沢 1♂, 19890727³³⁾
 // 上宝沢 1♀, 19880821³²⁾
 // 村木沢^{22,33)}
 米沢市築沢岡原 1♀, 19910916 (伊藤)
 鶴岡市高館山 1♂, 19910818³⁴⁾
 上山市金瓶²²⁾
 山辺町荒沼 1♀, 19870827³³⁾; 2♂♂ 1♀,
 19880704³³⁾
 西川町志津月山荘 1♀, 19880723 (木俣)
 藤島町 19650823・19720830²³⁾
 温海町温海岳 2♂♂, 19890825³⁴⁾
26. *Thetidia albocostaria* (BREMER)
 ヨツメアオシヤク
 山形市上宝沢 1♀, 19890730 (木俣)
 // 村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
 小国町市野々 1♀, 19920729 (木俣)
 藤島町 19570714・19690701²³⁾
27. *Hemistola veneta* (BUTLER)
 コシロスジアオシヤク
 山形市村木沢早坂林道 1♀, 19890803 (木俣)
 // 村木沢^{22,33)}
 // 上宝沢 1♀, 19880821³²⁾
 上山市金瓶²²⁾
28. *Hemistola tenuilinea* (ALPHERÁKY)
 ハガタキスジアオシヤク
 藤島町 19560712・19570714²³⁾
 朝日村倉沢林道 2♀♀, 19910707 (木俣)
29. *Comostola subtiliaria nympha* (BUTLER)
 コヨツメアオシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾

Sterrhinae ヒメシャク亜科

339. *Dithecodes erasa* WARREN
シロモンアオヒメシャク
山形市上宝沢 1♀, 19880902³²⁾
上山市金瓶²²⁾
小国町大滝 1♂, 19920810 (木俣)
30. *Pylargosceles steganioides* (BUTLER)
フタナミトビヒメシャク
山形市本沢 2♂♂, 19890727³³⁾
上山市金瓶²²⁾
31. *Timandra griseata prouti* (INOUE)
ベニスジヒメシャク
山形市村木沢^{22,33)}
上山市金瓶²²⁾
藤島町 19670521・19760908²³⁾
32. *Timandra comptaria* WALKER
コベニスジヒメシャク
藤島町 19560530・19760518³³⁾
33. *Timandra apicrosea* (PROUT)
フトベニスジヒメシャク
山形市上宝沢 1♂, 19880821 (木俣)
山辺町荒沼 1♂, 19870827³³⁾
西川町志津 1♂, 19870912³⁰⁾
藤島町 19570620・19670522・19750706・
19750727²³⁾
34. *Timandra dichela* (PROUT)
ウスベニスジヒメシャク
鶴岡市由良 1♀, 19880611 (木俣)
35. *Somatina indicataria morata* PROUT
ウンモンオオシロヒメシャク
山形市村木沢^{22,33)}
上山市金瓶²²⁾
藤島町 19710803・19720704・19720830²³⁾
36. *Problepsis plagiata* (BUTLER)
ウススジオオシロヒメシャク
小国町大滝 2♂♂, 19920702 (木俣)
朝日村倉沢林道 1♀, 19910707³⁴⁾
340. *Problepsis minuta* INOUE
コヒトツメオオシロヒメシャク
酒田市 1♀, 19530000⁴⁾
西川町大井沢 (木俣)
37. *Problepsis superans* (BUTLER)
ヒトツメオオシロヒメシャク
山形市村木沢^{22,33)}
米沢市築沢岡原 1♀, 19910731 (伊藤)
鶴岡市高館山³⁴⁾
上山市金瓶²²⁾
中山町岩谷 2♂♂, 19860803 (木俣)
蔵王連峰ドッコ沼 1♂, 19880908³²⁾
341. *Scopula nigropunctata imbella* (WARREN)
マエキヒメシャク
上山市金瓶²²⁾
342. *Scopula modicaria* (LEECH)
モントビヒメシャク
上山市金瓶²²⁾
343. *Scopula apicipunctata* (CHRISTOPH)
クロテンシロヒメシャク
上山市金瓶²²⁾
344. *Scopula corvivalaria ecclética* PROUT
ウラナミヒメシャク
酒田市 1♂, 19490618²⁾
藤島町 19560615・19570701²³⁾
345. *Scopula confusa* (BUTLER)
ウスキトガリヒメシャク
山形市村木沢^{22,33)}
上山市金瓶²²⁾
346. *Scopula personata* (PROUT)
ナミスジチビヒメシャク
上山市金瓶²²⁾
347. *Scopula superior* (BUTLER)
キナミシロヒメシャク

- 藤島町 19560529・19670820・19720816・
19730629・19740702²³⁾
40. *Scopula pudicaria* (MOTSCHULSKY)
クロスジシロヒメシヤク
山形市村木沢^{22,33)}
上山市金瓶²²⁾
348. *Scopula prouti* DJAKONOV
ウラクロスジシロヒメシヤク
上山市金瓶 1♂, 19800612²²⁾
349. *Scopula superciliata* (PROUT)
ヨツボシウスキヒメシヤク
上山市金瓶²²⁾
41. *Scopula ignobilis* (WARREN)
ウスキクロテンヒメシヤク
山形市村木沢^{22,33)}
上山市金瓶²²⁾
藤島町 19670712・1969625・19720829²³⁾
42. *Idaea muricata* (HUFNAGEL)
ベニヒメシヤク
山形市村木沢早坂林道 1♀, 19890803³³⁾; 1♂,
19890829³³⁾
// 村木沢^{22,33)}
上山市金瓶²²⁾
// 経塚山 2♀♀, 19900719 (木俣)
43. *Idaea jakima* (BUTLER)
フチベニヒメシヤク
上山市金瓶 1 ex., 19830817²²⁾; 1 ex.,
19830818²²⁾
44. *Idaea foedata* (BUTLER)
クロテントビヒメシヤク
上山市金瓶²²⁾
藤島町 19720829²³⁾
350. *Idaea salutaris* (CHRISTOPH)
ウスクロテンヒメシヤク
藤島町 19720826・19730627・19730708・
19730721²³⁾
351. *Idaea auricruda* (BUTLER)
ヨスジキヒメシヤク
米沢市築沢岡原 1♀, 19910731 (伊藤)
上山市金瓶²²⁾
46. *Idaea imbecilla* (INOUE)
オオウスモンキヒメシヤク
藤島町 19730627²³⁾
47. *Idaea biselata* (HUFNAGEL)
ウスキヒメシヤク
山形市村木沢^{22,33)}
上山市金瓶²²⁾
蔵王連峰観松平 1♂, 19870718 (木俣)
352. *Idaea trisetata* (PROUT)
ミジンキヒメシヤク
上山市金瓶²²⁾
藤島町 19570703・19720829²³⁾
- Larentiinae ナミシヤク亜科**
50. *Aplocera perelegans* (WARREN)
ツマアカナミシヤク
西川町志津 1♀, 19870912^{29,30)}
51. *Trichopteryx fastuosa* INOUE
シロシタコバネナミシヤク
山形市村木沢^{22,33)}
鶴岡市金峯山³⁴⁾
藤島町 19760416²³⁾
52. *Trichopteryx hemana* (BUTLER)
シタコバネナミシヤク
鶴岡市金峯山³⁴⁾
上山市金瓶²²⁾
西川町弓張平 2♂♂3♀♀, 19880516³⁰⁾
353. *Trichopteryx terranea* (BUTLER)
チャオビコバネナミシヤク
山形市村木沢^{22,33)}
354. *Trichopteryx microloba* INOUE
ヒメシタコバネナミシヤク

- 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
355. *Trichopteryx miracula* INOUE
 ウスミドリコバネナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
55. *Trichopteryx ustata* (CHRISTOPH)
 クロオビシロナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
56. *Esakiopteryx volitans* (BUTLER)
 ウスペニスジナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19750625²³⁾
58. *Epilobophora obscuraria* (LEECH)
 アトスジグロナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19560606・19570617²³⁾
59. *Otopecta frigida* (BUTLER)
 クロフシロナミシヤク
 山形市宝沢 1♂, 19690427 (山谷)
 米沢市 1♂, 19720417 (山谷)
 上山市金瓶 1 ex., 19800619²²⁾
61. *Carige cruciplaga* (WALKER)
 ホシスジトガリナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 米沢市築沢岡原 1♂, 19910916 (伊藤)
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19560616²³⁾
356. *Carige irrorata* (BUTLER)
 ヒロバトガリナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
62. *Carige scutimbata* PROUT
 ホソバトガリナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
63. *Trichobaptria exsecuta* (FELDER et ROGEN-
 HOFER) シロオビクロナミシヤク
 山形市不動沢 1♂, 19880620³²⁾
 米沢市白布高湯 1♂, 19730519 (山谷)
 東根市滝の沢林道 1♂, 19880606 (木俣)
 尾花沢市御所山荘 1♂, 19880619 (木俣)
 朝日村大鳥 1♀, 19800831 (山谷)
 月山 1♀, 19800810 (山谷)
64. *Trichodezia kindermanni leechi* INOUE
 シラフシロオビナミシヤク
 尾花沢市御所山荘 1♂3♀♀, 19880619 (木俣)
 温海町摩耶山入山林道 1♂1♀, 19890528³⁴⁾
 // // 関川口 2♂♂, 19890527³⁴⁾
65. *Baptria tibiale aterrima* (BUTLER)
 シロホソオビクロナミシヤク
 米沢市笹野山 1♂, 19730623 (山谷)
66. *Heterophleps fusca* (BUTLER)
 ウスクモナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
67. *Heterophleps pallescens* (WARREN)
 ミツボシナミシヤク
 温海町摩耶山入山林道 1♀, 19890528³⁴⁾
69. *Leptostegna tenerata* CHRISTOPH
 アオナミシヤク
 山形市上宝沢 1♀, 19880709³²⁾
 // 不動沢 1♂1♀, 19880712³²⁾
 東根市柳沢小屋 1♂1♀, 19860728³¹⁾
 尾花沢市御所山荘 1♀, 19870814³¹⁾; 2♂♂2♀
 ♀, 19880613³¹⁾
 西川町弓張平 1♂, 19880616³⁰⁾
 温海町温海岳 2♂♂1♀, 19890825³⁴⁾
 // 関川大道林道³⁴⁾
 蔵王連峰観松平 1♂1♀, 19870718 (木俣)
70. *Tyloptera bella bella* (BUTLER)
 ホソバナミシヤク
 山形市村木沢早坂林道 2♂♂, 19890714³³⁾; 2

- ♂♂, 19890803³³⁾
 // 本沢 1♀, 19890727³³⁾
 // 上宝沢 2♂♂, 19880709³²⁾; 1♂, 19880821³²⁾
 // 村木沢^{22,33)}
 鶴岡市由良 1♂1♀, 19890701³⁴⁾
 // 金峯山³⁴⁾
 // 高館山³⁴⁾
 上山市金瓶²²⁾
 天童市田麦野 2♂♂, 19910813 (木俣)
 // 天童高原 1♀, 19910901 (木俣)
 東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾
 // 柳沢小屋 3♂♂2♀♀, 19860728³¹⁾
 尾花沢市御所山荘 4♂♂, 19870814³¹⁾; 1♂, 19880619³¹⁾
 山辺町荒沼 1♀, 19870827³³⁾; 2♂♂, 19880704³³⁾
 西川町弓張平 1♀, 19880616³⁰⁾
 小国町市野々 1♂, 19920625 (木俣); 1♂, 19920829 (木俣)
 // 大滝 1♂, 19920810 (木俣)
 朝日村倉沢林道 2♂♂, 19900828 (木俣)
 温海町関川大道林道 2♀♀, 19910624³⁴⁾
 // 温海岳 2♂♂, 19890825³⁴⁾
71. *Brabira artemidera* (OBERTHÜR)
 キリバナネホソナミシヤク
 鶴岡市由良³⁴⁾
 東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾
 尾花沢市御所山荘 2♀♀, 19880613³¹⁾
 山辺町荒沼 1♂1♀, 19870827³³⁾
 西川町弓張平 2♀♀, 19880616³⁰⁾
 // 大井沢中村 1♂, 19870523 (木俣)
 小国町大滝 1♀, 19920810 (木俣)
 温海町温海岳 1♂2♀♀, 19890825³⁴⁾
72. *Macrohastina azela* (BUTLER)
 フタオモドキナミシヤク
 山形市本沢 1♂, 19890607³³⁾; 1♀, 19890707³³⁾
 山辺町荒沼 1♂, 19880704³³⁾
73. *Xanthorhoe quadrifasciata ignobilis*
 (BUTLER) ヨスジナミシヤク
 山形市不動沢 2♀♀, 19880712³²⁾
 上山市金瓶 1 ex., 19780706²²⁾
 東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾
 山辺町荒沼 1♀, 19870827 (木俣)
 温海町関川大道林道³⁴⁾
75. *Xanthorhoe saturata* (GUENÉE)
 フトジマナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19730906²³⁾
76. *Xanthorhoe biriviata angularia* (LEECH)
 ナカシロスジナミシヤク
 山形市上宝沢 1♂, 19880821 (木俣)
 鶴岡市金峯山 1♀, 19900421³⁴⁾
 小国町大滝 1♂1♀, 19920810 (木俣)
 朝日村倉沢林道 1♂, 19900828 (木俣)
357. *Xanthorhoe designata rectantemediana*
 (WEHRLI) トビスジコナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
77. *Xanthorhoe hortensiarum* (GRAESER)
 フタトビスジナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 鶴岡市新山 1♂, 19920526 (木俣)
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19560515・19660713・19750629・19760505²³⁾
78. *Xanthorhoe muscipata* (CHRISTOPH)
 ツマグロナミシヤク
 山形市高瀬戸沢 1♀, 19840703 (木俣)
 // 本沢 2♀♀, 19890607³³⁾
 上山市金瓶²²⁾
 // 経塚山 1♂, 19900517 (木俣)

- 小国町大滝 1♂, 19920810 (木俣) ヒメキンオビナミシヤク
朝日村倉沢林道 1♀, 19900828 (木俣) 東根市柳沢林道 1♀, 19870814³¹⁾; 2♀♀,
19870902³¹⁾
79. *Orthonama obstipata* (FABRICIUS) トビスジヒメナミシヤク 尾花沢市御所山荘 1♀, 19880613³¹⁾
上山市金瓶²²⁾ 西川町志津 1♂, 19870820^{29,30)}
藤島町 19570511・19660713・19720707・ 85. *Epirrhoe supergressa* (BUTLER) フタシロスジナミシヤク
19740503・19750608²³⁾ 山形市村木沢早坂林道 2♂♂, 19890614³³⁾
358. *Costaconvexa caespitaria* (CHRISTOPH) ウスイロトビスジナミシヤク // 村木沢^{22,33)}
米沢市築沢岡原 1♀, 19910916 (伊藤) // 本沢 2♂♂, 19890607³³⁾; 2♀♀,
酒田市 2♀♀, 19510608²⁾・1♂, 19510608³⁾・ 19890727³³⁾
1♂, 19520617³⁾ // 上宝沢 1♀, 19880709³²⁾; 1♂1♀,
80. *Euphyia cineraria* (BUTLER) ハコベナミシヤク 19880821³²⁾
山形市村木沢^{22,33)} // 不動沢 1♂2♀♀, 19880622³²⁾; 1♂,
// 本沢 1♀, 19890707³³⁾ 19880902³²⁾
上山市金瓶²²⁾ 鶴岡市高館山 1♂, 19910818³⁴⁾
// 経塚山 1♂, 19900517 (木俣) // 由良 1♂1♀, 19880611 (木俣)
天童市天童高原 1♀, 19910901 (木俣) 上山市金瓶²²⁾
山辺町荒沼 1♀, 19880704³³⁾ 天童市田麦野 1♀, 19910813 (木俣)
西川町志津 1♀, 19870820^{29,30)} 東根市柳沢林道 1♂, 19870902³¹⁾
小国町大滝 1♂, 19920907 (木俣) 山辺町荒沼 1♀, 19870827³³⁾; 1♂, 19880704³³⁾
朝日村倉沢林道 1♀, 19900828 (木俣) 藤島町 19560820・19720605²³⁾
82. *Microcalcarifera obscura* (BUTLER) フタモンクロナミシヤク 温海町温海岳 1♂, 19890825³⁴⁾
鶴岡市荒倉山³⁴⁾ 山形市村木沢^{22,33)} 86. *Idiotephria evanescens* (STAUDINGER) ナカモンキナミシヤク
上山市金瓶²²⁾ // 高瀬 4♂♂6♀♀, 19840422 (木俣)
83. *Electrophaes corylata granitalis* (BUTLER) キンオビナミシヤク 上山市金瓶²²⁾
山形市村木沢早坂林道 1♂, 19890614 (木俣) 東根市ムクロ沢 2♀♀, 19880518³¹⁾
// 村木沢^{22,33)} 西川町弓張平 1♂4♀♀, 19880516³⁰⁾
鶴岡市高館山 1♀, 19900503³⁴⁾ // 大井沢中村 5♀♀, 19860510 (木俣)
// 新山 2♀♀, 19920526 (木俣) 藤島町 19730623・19740505・19760509²³⁾
東根市間木野滝の沢 1♂1♀, 19860605³¹⁾ 87. *Idiotephria amelia* (BUTLER) モンキキナミシヤク
西川町弓張平 1♀, 19880616³⁰⁾ 山形市村木沢^{22,33)}
84. *Electrophaes recens* INOUE 鶴岡市金峯山³⁴⁾

- 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19750624²³⁾
90. *Rheumaptera latifasciaria* (LEECH)
 オイワケヤエナミシヤク
 山形市村木沢早坂林道 3♂♂, 19890613³³⁾
 米沢市笹野山 1♀, 19740623 (山谷): 1♀,
 19730703 (山谷)
91. *Rheumaptera hecate hecate* (BUTLER)
 サカハチクロナミシヤク
 西川町志津月山荘 1♂, 19880723³⁰⁾
 小国町 1♀, 19730829 (山谷)
 温海町関川コース³⁴⁾
92. *Photoscotosia atrostrigata* (BREMER)
 ネグロウスベニナミシヤク
 山形市村木沢早坂林道 1♀, 19890614³³⁾; 1♀,
 19890829³³⁾
 // 上宝沢 1♂, 19880821³²⁾
 // 不動沢 1♂, 19880902³²⁾
 鶴岡市荒倉山³⁴⁾
 東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾
 尾花沢市鍋越峠 1♂3♀♀, 19870930³¹⁾
 // 御所山荘 1♂9♀♀, 19870920³¹⁾
 温海町越沢楨野台林道 1♂, 19890626³⁴⁾
93. *Photoscotosia lucicolens* (BUTLER)
 オオネグロウスベニナミシヤク
 西川町志津 1♂, 19861010^{28,30)}
 温海町越沢楨野台林道 1♂, 19890626³⁴⁾
 蔵王連峰御田神 1♀, 19840730 (木俣)
313. *Telenomeuta punctimarginaria* (LEECH)
 テンヅマナミシヤク
 山形市本沢 2♂♂, 19890727³³⁾
95. *Callenlype whitelyi leechi* INOUE
 ツマキシロナミシヤク
 米沢市大平温泉 1♀, 19700712 (山谷)
 鶴岡市由良 1♀, 19890701³⁴⁾
 上山市金瓶²²⁾
- 温海町関川大道林道 1♀, 19910624³⁴⁾
96. *Eucosmabraxas placida propinqua* (BUTLER)
 キベリシロナミシヤク
 山形市上宝沢 1♂, 19890730 (木俣)
 天童市田麦野 1♂, 19910813 (木俣)
97. *Eucosmabraxas evanescens evanescens*
 (BUTLER) マルモンシロナミシヤク
 温海町関川大道林道³⁴⁾
98. *Callygris compositata* (GUENÉE)
 ナミガタシロナミシヤク
 藤島町 19570705²³⁾
99. *Eulithis ledereri inurbana* (PROUT)
 ウストビモンナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
 西川町志津 2♂♂, 19861010^{28,30)}
 藤島町 19670616・19741010²³⁾
 朝日村倉沢林道 2♀♀, 19910707³⁴⁾
 温海町関川大道林道 7♂♂, 19910624³⁴⁾
100. *Eulithis convergenata* (BREMER)
 ヨコジマナミシヤク
 天童市田麦野 1♀, 19910813 (木俣)
 飯豊連峰ヌクミ平 2♀♀, 19820717 (木俣内
 1♀は博物館)
 温海町関川大道林道³⁴⁾
101. *Gandaritis fixseni* (BREMER)
 キマダラオオナミシヤク
 山形市村木沢早坂林道 1♂, 19890803³³⁾
 // 本沢 1♂, 19890707³³⁾; 3♂♂,
 19890727³³⁾
 // 上宝沢 1♀, 19880821³²⁾
 米沢市白布高湯 1♂♂, 19770807 (山谷)
 上山市金瓶²²⁾
 天童市天童高原 2♂♂, 19910901 (木俣)
 藤島町 19570802²³⁾
 朝日村倉沢林道³⁴⁾

102. *Gandaritis agnes festinaria* (CHRISTOPH)
キガシラオオナミシヤク
山形市村木沢早坂林道 1♀, 19890714³³⁾
// 上宝沢 1♀, 19880709³²⁾
上山市金瓶 1♀, 19740823²²⁾
温海町関川大道林道 2♂♂, 19910624³⁴⁾
103. *Lampropteryx minna* (BUTLER)
アトクロナミシヤク
鶴岡市高館山 1♂, 19900503³⁴⁾
// 新山 1♂1♀, 19920526 (木俣)
104. *Evecliptopera decurrens illitata*
(WILEMAN) セスジナミシヤク
山形市本沢 1♂, 19890707³³⁾; 1♀, 19890727³³⁾
// 門伝大平 3♀♀, 19880608³³⁾
米沢市築沢岡原 1♀, 19910916 (伊藤)
上山市金瓶²²⁾
// 経塚山 1♂1♀, 19900517 (木俣)
東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾
尾花沢市御所山荘 1♀, 19880613 (木俣)
藤島町 19761003²³⁾
朝日村倉沢林道 1♂2♀♀, 19900828 (木俣)
105. *Ecliptopera umbrosaria* (MOTSCHULSKY)
オオハガタナミシヤク
山形市上宝沢 1♂, 19880709³²⁾; 4♂♂,
19880821³²⁾
// 門伝大平 2♀♀, 19880608³³⁾
// 村木沢^{22,33)}
米沢市築沢岡原 1♀, 19910731 (伊藤)
鶴岡市由良 1♀, 19880611 (木俣)
上山市金瓶²²⁾
// 経塚山 1♀, 19900517 (木俣)
東根市柳沢林道 2♀♀, 19870902³¹⁾
西川町弓張平 1♂, 19880616^{29,30)}
// 志津 1♀, 19870820^{29,30)}
小国町市野々 1♀, 19920729 (木俣)
// 大滝 1♀, 19920810 (木俣)
- 藤島町 19570719・19720706・19761003²³⁾
温海町温海岳³⁴⁾
359. *Ecliptopera capitata mariesii* (BUTLER)
セキナミシヤク
温海町温海岳³⁴⁾
106. *Ecliptopera pryri* (BUTLER)
ソトキナミシヤク
山形市村木沢^{22,33)}
上山市金瓶²²⁾
107. *Eustroma reticulatum obsoletum* DJAKONOV
アミメナミシヤク
山形市本沢 1♂, 19890607³³⁾
108. *Eustroma aerosum* (BUTLER)
ミヤマアミメナミシヤク
山形市村木沢早坂林道 1♂, 19890714³³⁾
鶴岡市由良³⁴⁾
天童市天童高原 2♂♂, 19910901 (木俣)
東根市柳沢林道 3♂♂, 19870902³¹⁾
尾花沢市御所山荘 1♀, 19870920³¹⁾; 1♂,
19880613³³⁾
西川町志津 6♂♂, 19870820^{29,30)}
109. *Eustroma japonicum* INOUE
キアミメナミシヤク
山形市村木沢^{22,33)}
上山市金瓶²²⁾
温海町越沢林道³⁴⁾
110. *Eustroma melancholicum* (BUTLER)
ハガタナミシヤク
山形市上宝沢 1♀, 19880821³²⁾
上山市金瓶²²⁾
天童市天童高原 3♀♀, 19910901 (木俣)
東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾
尾花沢市御所山荘 4♂♂3♀♀, 19870814³¹⁾; 1
♀, 19880613³¹⁾
山辺町荒沼 1♀, 19870827³³⁾
西川町大井沢中村 1♂, 19870523 (木俣)

- 朝日村倉沢林道 1♀, 19900828 (木俣)
 温海町温海岳³⁴⁾
 蔵王連峰観松平 1♂, 19870718 (木俣)
111. *Lobogonodes erectaria* (LEECH)
 キホソスジナミシヤク
 山形市村木沢早坂林道 1♀, 19890714³³⁾
 東根市柳沢林道 1♀, 19870902³¹⁾
 西川町弓張平 1♂, 19880618³⁰⁾
 // 大井沢中村 1♀, 19870523 (木俣)
112. *Sibatania mactata* (FELDER et ROGENHOFER)
 ピロードナミシヤク
 西川町志津 1♂2♀♀, 19870912³⁰⁾
113. *Plemyria rubiginata japonica* INOUE
 トビモンシロナミシヤク
 山形市本沢 1♂, 19890707³³⁾; 2♀♀,
 19890727³³⁾
114. *Dysstroma cinereata japonica* HEYDEMANN
 フタテンナカジロナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
 藤島町 19670608²³⁾
116. *Dysstroma citrata nyiwonis* (MATSUMURA)
 ツマキナカジロナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
360. *Dysstroma corussaria* (OBERTHÜR)
 ネアカナカジロナミシヤク
 月山姥沢 1♂, 19720912¹²⁾
117. *Praethera praefecta* (PROUT)
 オオクロオビナミシヤク
 東根市水無山泥沢 1♀, 19860527³¹⁾
361. *Pennithera comis* (BUTLER)
 クロオビナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
118. *Heterothera postalbida* (WILEMAN)
 シロシタトビロナミシヤク
 山形市上宝沢 1♀, 19800915³²⁾
 // 不動沢 1♂, 19880622³²⁾
- // 村木沢^{22,33)}
 // 門伝大平 1♀, 19880608³³⁾
 上山市金瓶²²⁾
 // 経塚山 1♀, 19900517 (木俣)
 尾花沢市御所山荘 2♂♂, 19870920³¹⁾
 西川町志津 1♀, 19870912^{29,30)}
119. *Xenortholitha propinguata nipponica*
 (BUTLER) フタクロテンナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
362. *Operophtera brunnea* NAKAJIMA
 コナミフユナミシヤク
 新庄市柰蔵山 6♂♂, 19871123³⁸⁾
 上山市蔵王ライン 2♂♂, 19871116³⁸⁾; 13♂
 ♀, 19871116 (木俣)
 西川町志津 1♂, 19871118 (木俣)
 大蔵村肘折温泉 28♂♂, 19871122³⁸⁾
363. *Operophtera variabilis* NAKAJIMA
 オオナミフユナミシヤク
 上山市蔵王ライン 7♂♂, 19871116³⁸⁾; 51♂
 ♀, 19871116 (木俣)
 尾花沢市山刀伐峠 2♂♂, 19871123 (木俣)
 西川町志津 1♂, 19871118 (木俣)
 最上町花立峠 12♂♂, 19871123 (木俣)
 大蔵村肘折温泉 14♂♂, 19871122³⁸⁾
- (注)「山形県の蛾類分布資料(II)」で報告した「120. *Operophtera brumata* (LINNAEUS) ナミスジフユナミシヤク」は旧北区に広く分布している種類で日本にも広く分布するとされていたが、ヨーロッパ産のものと比較したところ別種であることが判明した。更にナミスジフユナミシヤク1種とされていた種類が2種類に分けられることがわかり、中島秀雄氏により新種として記載された(1991)。そこで先に報告した標本も含めて検討した結果上記の通りとなった。ただ標本を見ることの出来なかった次の記録については記録を削除す

ることになる。

ナナスジナミシヤク

上山市金瓶²²⁾

上山市金瓶²²⁾

東根市柳沢小屋 1♂, 19871101³¹⁾

367. *Hydrelia sylvata* (DENIS et SCHIFFERMÜLLER) キスジハイイロナミシヤク

121. *Operophtera rectipostmediana* INOUE

イチモジフユナミシヤク

東根市間木野滝の沢 1♂, 19860605³¹⁾

酒田市 1♂, 19491129¹⁾

368. *Hydrelia nisaria* (CHRISTOPH)

テンスジヒメナミシヤク

新庄市柰蔵山 1♂, 19871123³⁷⁾

温海町越沢林道³⁴⁾

上山市金瓶²²⁾

// 越沢楨野台林道³⁴⁾

364. *Operophtera relegata* PROUT

クロオビフユナミシヤク

129. *Hydrelia flammeolaria* (HUFNAGEL)

キヒメナミシヤク

上山市金瓶²²⁾

// 蔵王ライン 2♂♂, 19871116 (木俣)

山形市不動沢 1♀, 19880622³²⁾

温海町越沢楨野台林道 1♂, 19891105³⁴⁾

西川町弓張平 1♀, 19880616³⁰⁾

365. *Operophtera crispifascia* INOUE

ヒメクロオビフユナミシヤク

ハンノナミシヤク

東根市柳沢小屋 7♂♂, 19871101³¹⁾

山形市村木沢早坂林道 1♂, 19890614³³⁾

大蔵村肘折温泉 1♀, 19871122³⁷⁾

131. *Asthena nymphaeata* (STAUDINGER)

ムスジシロナミシヤク

366. *Epirrita viridipurpurescens* (PROUT)

ミドリアキナミシヤク

山形市村木沢^{22,33)}

温海町越沢楨野台林道 2♂♂1♀, 19891105³⁴⁾

上山市金瓶²²⁾

123. *Nothoporia mediolineata* (PROUT)

ナカオビアキナミシヤク

369. *Asthena corculina* BUTLER

キムジシロナミシヤク

上山市金瓶²²⁾

上山市金瓶²²⁾

東根市柳沢小屋 2♂♂, 19871101³¹⁾

370. *Asthena sachalinensis* (MATSUMURA)

カラフトシロナミシヤク

飯豊町添川 3♂♂4♀♀, 19901114 (木俣)

温海町越沢楨野台林道 6♂♂1♀, 19891105³⁴⁾

上山市金瓶²²⁾

124. *Solitanea defricata* (PÜNGELER)

シロオビマルバナミシヤク

133. *Pseudostegania defectata* (CHRISTOPH)

キイロナミシヤク

山形市不動沢 1♂, 19880622³²⁾

東根市柳沢林道 1♂1♀, 19870902³¹⁾

東根市柳沢小屋 1♀, 19860728³¹⁾

尾花沢市御所山荘 1♂, 19870814³¹⁾; 1♀, 19870920³¹⁾; 1♂, 19880613³¹⁾

尾花沢市御所山荘 2♂♂, 19870714 (木俣):

1♂1♀, 19880613 (木俣)

西川町弓張平 2♂♂2♀♀, 19880616³⁰⁾

西川町弓張平 1♀, 19880616³⁰⁾

// 志津月山荘 1♀, 19880723³⁰⁾

小国町市野々 1♀, 19920829 (木俣)

温海町越沢林道³⁴⁾

温海町温海岳³⁴⁾

128. *Venusia phasma* (BUTLER)

セグロナミシヤク

- 山形市本沢 1♂, 19890707³³⁾
 上山市金瓶²²⁾
 山辺町荒沼 1♀, 19870827³³⁾
135. *Laciniodes denigratus ussuriensis* PROUT
 セジロナミシヤク
 山形市本沢 3♂♂1♀, 19890607³³⁾
 天童市天童高原 3♀♀, 19910901 (木俣)
 尾花沢市御所山荘 1♂, 19880613 (木俣)
 小国町市野々 1♂, 19920625 (木俣)
136. *Perizoma saxenum* (WILEMAN)
 ヒメカバズナミシヤク
 山形市不動沢 1♀, 19880902³²⁾
137. *Perizoma fulvida* (BUTLER)
 コカバズナミシヤク
 上山市経塚山 1♀, 19900517 (木俣)
 // 蔵王ライン 1♂10♀♀, 19890611 (木俣)
 // 金瓶²²⁾
371. *Perizoma parvaria* (LEECH)
 クロカバズナミシヤク
 米沢市築沢岡原 1♀, 19910918 (伊藤)
 天童市天童高原 1♀, 19910901 (木俣)
 東根市柳沢林道 4♀♀, 19870902³¹⁾
 山辺町荒沼 1♀, 19870827³³⁾
 小国町大滝 2♂♂, 19920907 (木俣)
372. *Perizoma sagittata albiflua* (PROUT)
 ヤハズナミシヤク
 山辺町荒沼 1♀, 19870827³³⁾
373. *Eupithecia abietaria debrunneata*
 STAUDINGER オオクロテンカバナミシヤク
 藤島町 19730506²³⁾
374. *Eupithecia gigantea* STAUDINGER
 フトオビヒメナミシヤク
 朝日村倉沢林道³⁴⁾
375. *Eupithecia signigera* BUTLER
 ソトカバナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
376. *Eupithecia tabidaria* INOUE
 ハラキカバナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
377. *Eupithecia interpunctaria* INOUE
 クロテンヤスジカバナミシヤク
 上山市金瓶²²⁾
 蔵王連峰観松平 1♂, 19870718 (木俣)
141. *Eupithecia perpaupera* INOUE
 アルプスカバナミシヤク
 鳥海山御浜小屋⁶⁾
378. *Eupithecia insigniata insignioides* WEHRLI
 アミモンカバナミシヤク
 藤島町 19730506²³⁾
143. *Eupithecia jinboi* INOUE
 ジンボカバナミシヤク
 鳥海山鳥ノ海⁵⁾
379. *Eupithecia repentina* VOJNITS et LAEVER
 フタモンカバナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 上山市金瓶²²⁾
144. *Eupithecia tripunctaria* HERRICH-SCHÄFFER
 シロテンカバナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 東根市柳沢 1♀, 19860728³¹⁾
 蔵王連峰観松平 1♀, 19870718 (木俣)
146. *Eupithecia emanata* DIETZE
 クロテンカバナミシヤク
 上山市金瓶 1 ex., 19480902²²⁾
147. *Chloroclystis v-ata* (HAWORTH)
 クロスジアオナミシヤク
 鶴岡市高館山³⁴⁾
 上山市金瓶 1♂, 19830803²²⁾
 山辺町荒沼 1♀, 19870827³³⁾
148. *Chloroclystis subcinctata* INOUE
 ウラモンアオナミシヤク
 山形市不動沢 2♀♀, 19880902³²⁾

- 東根市柳沢小屋 1♂, 19860728³¹⁾
 山辺町荒沼 1♀, 19880704³³⁾
380. *Chloroclystis obscura* WEST
 ハラアカウスアオナミシヤク
 上市市金瓶²²⁾
149. *Chloroclystis excisa* (BUTLER)
 ソトシロオビナミシヤク
 鶴岡市高館山³⁴⁾
151. *Herbulotia agilata* (CHRISTOPH)
 マエフタテンナミシヤク
 東根市柳沢林道 1♂, 19870902³¹⁾
 西川町志津 1♂, 19870820 (木俣)
152. *Horisme tersata tetricata* (GUENÉE)
 アトシロナミシヤク
 山形市上宝沢 1♂, 19880821³²⁾
 // 不動沢 1♀, 19880622³²⁾
 上市市金瓶²²⁾
 尾花沢市御所山荘 1♀, 19870814 (木俣) ; 1♂, 19880613³¹⁾
 小国町 1♀, 19720520 (山谷)
153. *Melanthia procellata inquinata* (BUTLER)
 ナカジロナミシヤク
 山形市村木沢^{22,33)}
 // 上宝沢 1♀, 19880709³²⁾
 米沢市築沢岡原 1♂, 19910916 (伊藤)
 上市市金瓶²²⁾
 尾花沢市銀山温泉 1♂, 19860712³¹⁾
 藤島町 19560928・19720618²³⁾
- 4 引用及び参考文献
- 1) Inoue, H. (1953) Notes on some Japanese Larentiinae and Geometrinae (Lepidoptera : Geometridae). TINEA, 1(1) : 1-18.
 2) ——— (1955) Descriptions and records of some Japanese Geometridae. TINEA, 2(1/2) : 73-89. pl. 6.
 3) ——— (1958) A new species of the Japanese Geometridae. TINEA, 4(1) : 228.
 4) ——— (1958) Descriptions and records of some Japanese Geometridae (II). TINEA, 4(2) : 241-256.
 5) ——— (1976) Descriptions and records of some Japanese Geometridae (V) TINEA, 10(2) : 7-37.
 6) ——— (1979) Revision of the genus Eupithecia of Japan, Part 1 (Lepidoptera : Geometridae). Bull. Fac. domestic Sci. Otsuma Woman's Univ., 15 : 157-224.
 7) ——— (1980) Revision of the genus Eupithecia of Japan, Part 2 (Lepidoptera : Geometridae). Bull. Fac. domestic Sci. Otsuma Woman's Univ., 16 : 153-213.
 8) 川辺 湛 (1970) 高山のハマキガ類(I). 蛾類通信, 62 : 22-25.
 9) ——— (1975) ヒメハマキガ亜科の4日本未記録種と1既知種について. 蛾類通信, 84 : 393-395.
 10) 奥 俊夫 (1973) ハマキガ科の1種 *Olethreutes obovata* (Walsingham) について. 昆虫, 41(2) : 254-255.
 11) Oku, T. (1981) Notes on "*Simaethis*" *sapporensis* MATSUMURA with Description of a New Genus of Olethreutinae, Tortricidae. Tyo to Ga, 31(3/4) : 126-132.
 12) 布施英明 (1975) 関東未記録のシヤクガ科2種. 蛾類通信, 82 : 367-368.
 13) ——— (1983) 東北地方の蛾類若干. 誘蛾燈, 93 : 135-137.
 14) 白畑孝太郎・黒沢良彦・菊地賢治 (1982) 最上川-山形県産昆虫目録. 山形県総合学術調査報告, pp.463-553.

- 15) 柳田慶浩 (1967) 鳥海山の動植物調査報告。早稲田生物, 16: 35-44. 早稲田大学生物同好会.
- 16) 岸田泰則 (1974) 山形県間沢の蛾. 誘蛾燈, 58: 108-112. 誘蛾会.
- 17) ——— (1977) 山形県志津の蛾. 誘蛾燈, 67: 16-20. 誘蛾会.
- 18) 木俣繁・菊地賢治 (1982) 立谷川上流域の昆虫類. 立谷川上流環境保全計画調査報告書, pp. 279-301. 山形市.
- 19) 武田隆・横倉明 (1983) 糖蜜採集で得られた蛾. 山形昆虫同好会会誌, 12: 23-25.
- 20) 木俣 繁・菊地賢治 (1985) 蔵王連峰-蔵王連峰の昆虫類. 山形県総合学術調査報告, pp. 294-333.
- 21) 市川和夫 (1987) 月山々麓, 8月上旬の蛾類. 寄せ蛾記, 49: 767-770.
- 22) 渡辺義汎 (1987) 上市市金瓶と山形市村木沢の蛾. 誘蛾燈, Supplement 4. 誘蛾会.
- 23) 布施 寛 (1987) 庄内支場の誘蛾燈に誘殺された蛾類とその出現時期. 山形県立農業試験場研究報告, 22: 77-103.
- 24) 木俣 繁 (1964) 新庄温泉の蛾. 山形昆虫同好会会誌, 2(1): 3-4.
- 25) ——— (1985) 高瀬川上流域の昆虫類. 高瀬川上流環境保全計画調査報告書, pp. 33-57. 山形市.
- 26) ——— (1986) 故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標本(III). 誘蛾燈, 103: 17-25. 誘蛾会.
- 27) ——— (1987) 山形県の蛾類分布資料(II). 山形県立博物館研究報告, 8: 9-48.
- 28) ——— (1987) 月山及びその周辺の蛾(1). 昭和61年度山形県立自然博物館自然環境基礎調査報告書, pp. 83-93. 日本自然保護協会
- 29) ——— (1988) 月山及びその周辺の蛾(2). 昭和62年度山形県立自然博物館自然環境基礎調査報告書, pp. 105-109. 日本自然保護協会
- 30) ——— (1989) 月山及びその周辺の蛾(3). 昭和63年度山形県立自然博物館自然環境基礎調査報告書, pp. 99-124. 日本自然保護協会
- 31) 菊地賢治・木俣繁 (1989) 御所山-御所山系の昆虫類. 山形県総合学術調査報告書, pp. 258-313.
- 32) 木俣 繁 (1989) 北蔵王スキー場環境影響調査 -昆虫類-. 同調査報告書 pp. 216-224, 319-343. 日本林業技術協会
- 33) ——— (1990) 山形西部地域の昆虫類. 西部地域自然環境調査報告書, pp. 47-113. 山形市.
- 34) ———・菊地賢治 (1992) 摩耶山及びその周辺の昆虫. 山形県総合学術調査報告書, pp. 254-299.
- 35) 中島秀雄 (1985) 関東地方及びその周辺におけるフユシヤクの採集記録. 誘蛾燈, 101: 109-114.
- 36) ——— (1989) 日本産フユシヤクガ *Alsophila* の1新種. 蛾類通信, 156: 83-85.
- 37) ——— (1990) 関東地方及びその周辺におけるフユシヤクガの採集記録とその知見. 誘蛾燈, 122: 137-142. 誘蛾会.
- 38) Nakajima, H. (1991) Two New Species of the Genus *Operophtera* (Lepidoptera, Geometridae) from Japan. *Tyô to Ga.* 42 (3): 195-205.
- 39) 江崎悌三ほか (1957) 原色日本蛾類図鑑(上). 保育社.
- 40) 江崎悌三ほか (1958) 原色日本蛾類図鑑(下). 保育社.
- 41) 井上寛ほか (1959) 原色昆虫図鑑 I (蝶蛾篇). 北隆館.
- 42) 井上寛ほか (1982) 日本産蛾類大図鑑 I・II. 講談社.

写真説明

Pl. 1, (Figs. 1-28)

TORTRICIDAE ハマキガ科 1.(1) ウスアミメトビハマキ 2.(2) アカトビハマキ 3.(4) トビハマキ 4.(6) カタカケハマキ 5.(7) アトキハマキ 6.(9) マツアトキハマキ 7.(10) ホソアトキハマキ 8.(12) ムラサキカクモンハマキ 9.(13) カクモンハマキ 10.(15) シリグロハマキ 11.(18) カラマツイトヒキハマキ 12.(19) オオギンスジアカハマキ 13.(20) アミメキイロハマキ 14.(24) スギハマキ 15.(27) ハイジロハマキ 16.(31) ウストビモンハマキ 17.(33) トビモンハマキ 18.(36) ハイイロフユハマキ 19.(37) ギンボシトビハマキ 20.(40) ニセヤナギハマキ 21.(41) ウツギアミメハマキ 22.(43) アカネハマキ 23.(45) ナラコハマキ 24.(46) ネグロハマキ 25.(47) マエモンシロハマキ 26.(51) ギンヨスジハマキ 27.(52) ネウスハマキ 28.(54) チャモンギンハマキ

Pl. 2, (Figs. 29-56)

TORTRICIDAE ハマキガ科 29.(55) ウスアミメキハマキ 30.(60) マエジロムラサキヒメハマキ 31.(61) ツママルモンヒメハマキ 32.(65) キモンヒメハマキ 33.(67) ヤナギサザナミヒメハマキ 34.(70) オオサザナミヒメハマキ 35.(72) オオウスヅマヒメハマキ 36.(73) シラフオオヒメハマキ 37.(75) オオナミスジキヒメハマキ 38.(76) ツマキオオヒメハマキ 39.(79) ナカグロツマジロヒメハマキ 40.(81) モンギンスジヒメハマキ 41.(82) ニセギンボシモトキヒメハマキ 42.(83) ギンボシモトキヒメハマキ 43.(84) ウツギヒメハマキ 44.(86) ゴトウヅルヒメハマキ 45.(88) オオツヤスジウンモンヒメハマキ 46.(90) ナツハゼヒメハマキ 47.(91) クリイロヒメハマキ 48.(93) コクワヒメハマキ 49.(95) クワヒメハマキ 50.(96) クローバヒメハマキ 51.(103) コクロヒメハマキ 52.(109) カバカギバヒメハマキ 53.(111) ミヤマカギバヒメハマキ 54.(112) セモンカギバヒメハマキ 55.(115) コナミスジキヒメハマキ 56.(116) ニセハギカギバヒメハマキ

Pl. 3, (Figs. 57-83)

TORTRICIDAE ハマキガ科 57.(120) クリミドリシンクイガ 58.(122) リンゴシロヒメハマキ 59.(125) ウスキシロヒメハマキ 60.(126) ヒノキカワモグリガ 61.(127) ヒロオビヒメハマキ 62.(129) キガシラアカネヒメハマキ 63.(130) セクロモンヒメハマキ 64.(131) クロマダラシロヒメハマキ 65.(133) ガレモンヒメハマキ 66.(137) アサヒヒメハマキ 67.(139) マツトビヒメハマキ 68.(140) マツズアカシンムシ 69.(143) ヨモギネムシガ 70.(145) プライヤヒメハマキ 71.(152) トビモンシロヒメハマキ 72.(153) セシロヒメハマキ 73.(155) キオビヘリホシヒメハマキ 74.(156) ツマキハイイロヒメハマキ 75.(158) オオアシプトヒメハマキ 76.(159) ニセマメサヤヒメハマキ 77.(164) シタジロシロモンヒメハマキ 78.(169) クリミガ 79.(171) サンカクモンヒメハマキ
COCHYLIDAE ホソハマキガ科 80.(4) クサビホソハマキ 81.(8) ヨモギオオホソハマキ 82.(10) ニセエダオビホソハマキ 83.(12) フトスジホソハマキ

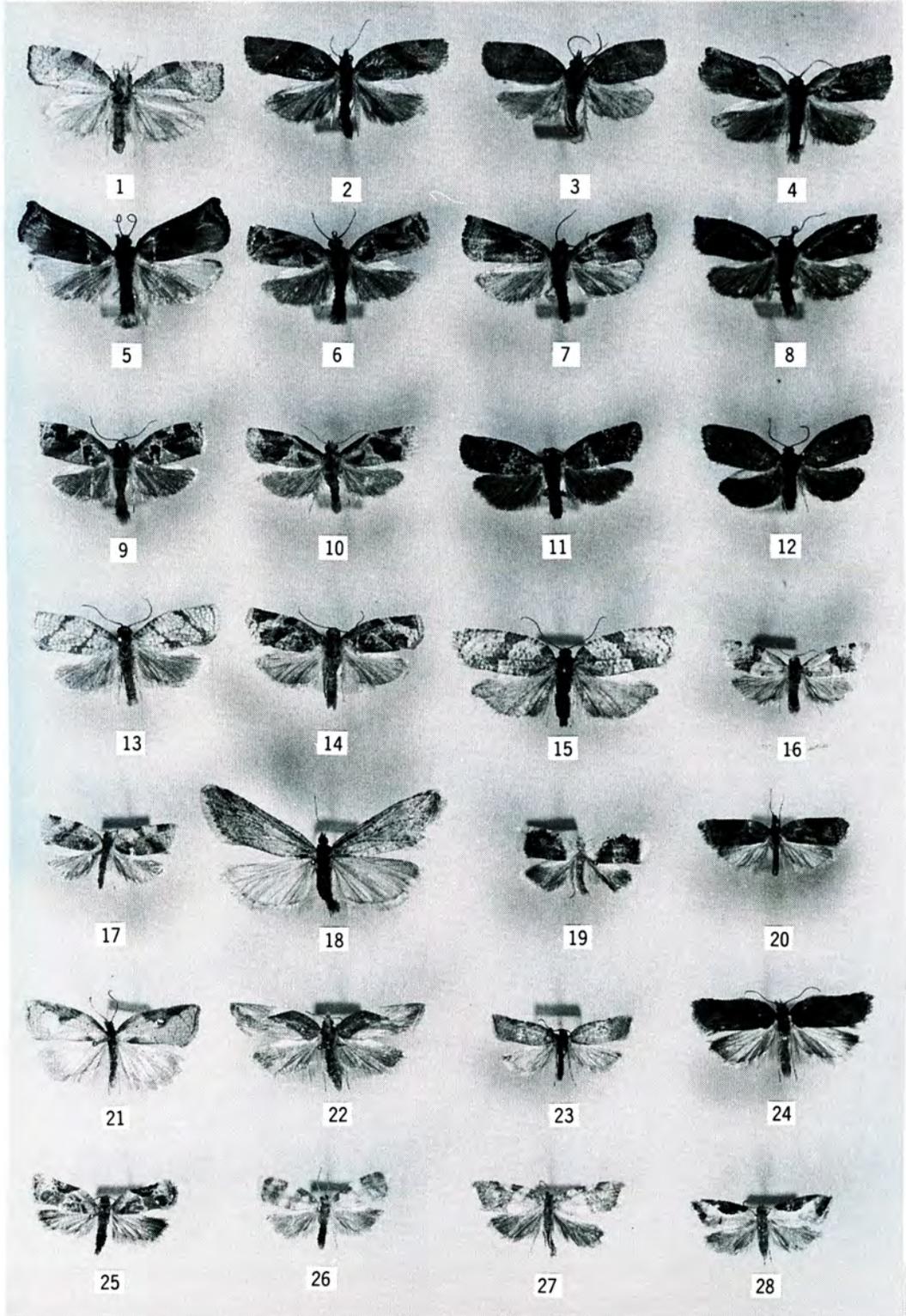
Pl. 4, (Figs. 84-96)

LIMACODIDAE イラガ科 84.(1) マダライラガ 85.(2) クロマダライラガ 86.(3) ナシイラガ 87.(5) イラガ 88.(7) テングイラガ 89.(8) アカイラガ 90.(9) ウスムラサキイラガ 91.(10) ムラサキイラガ 92.(11) クロシタアオイラガ 93.(12) アオイラガ 94.(13) ウストビイラガ 95.(14) タイワンイラガ 96.(15) ヒロズイラガ

(注)ハマキガ科からイラガ科までの写真を載せた。追録のシャクガ科の写真は紙数の都合で次号に掲載することにした。番号の後の()内の数字は、本文のそれぞれの種の番号と対応している。

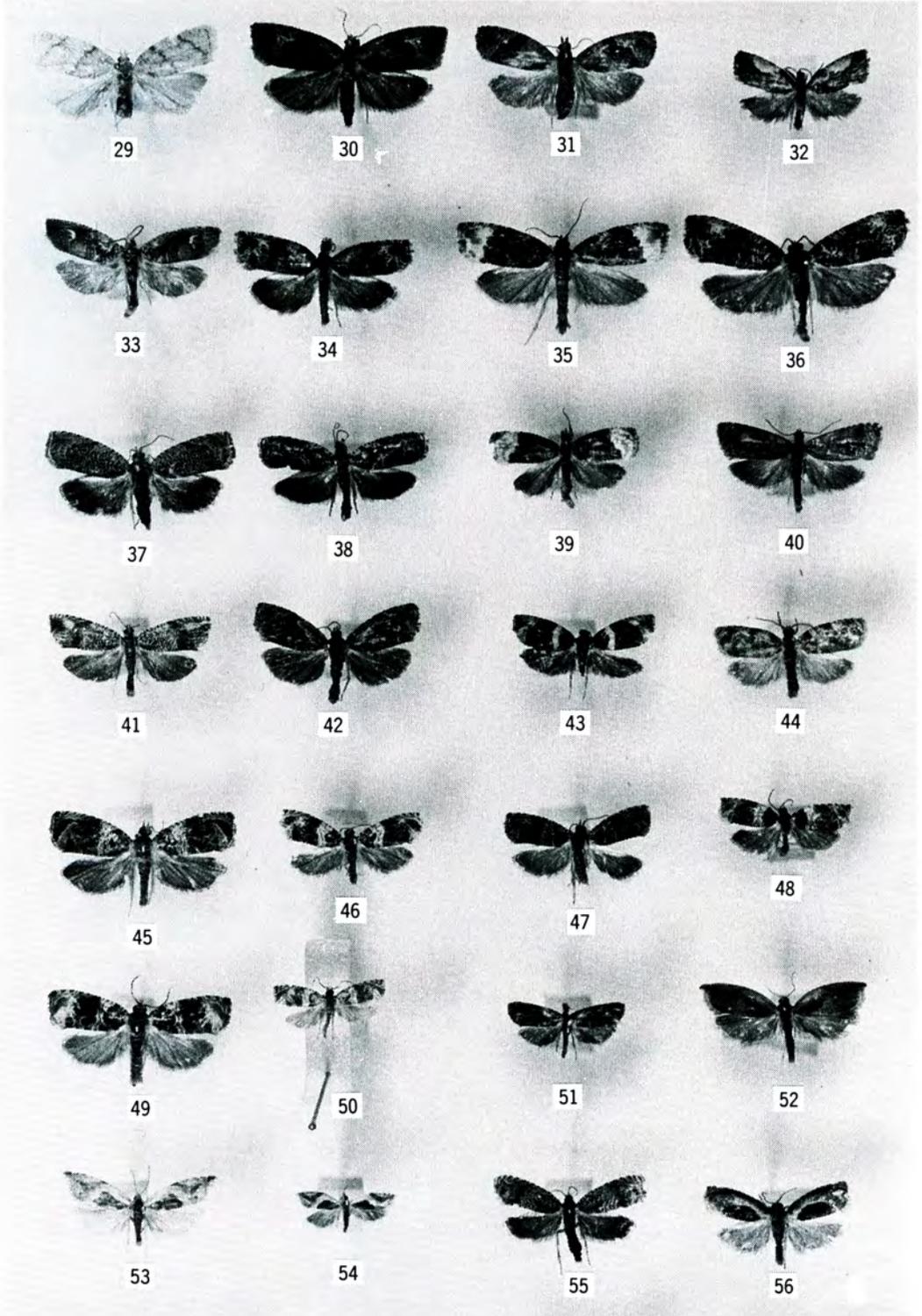
Pl. 1.

(×1.3)



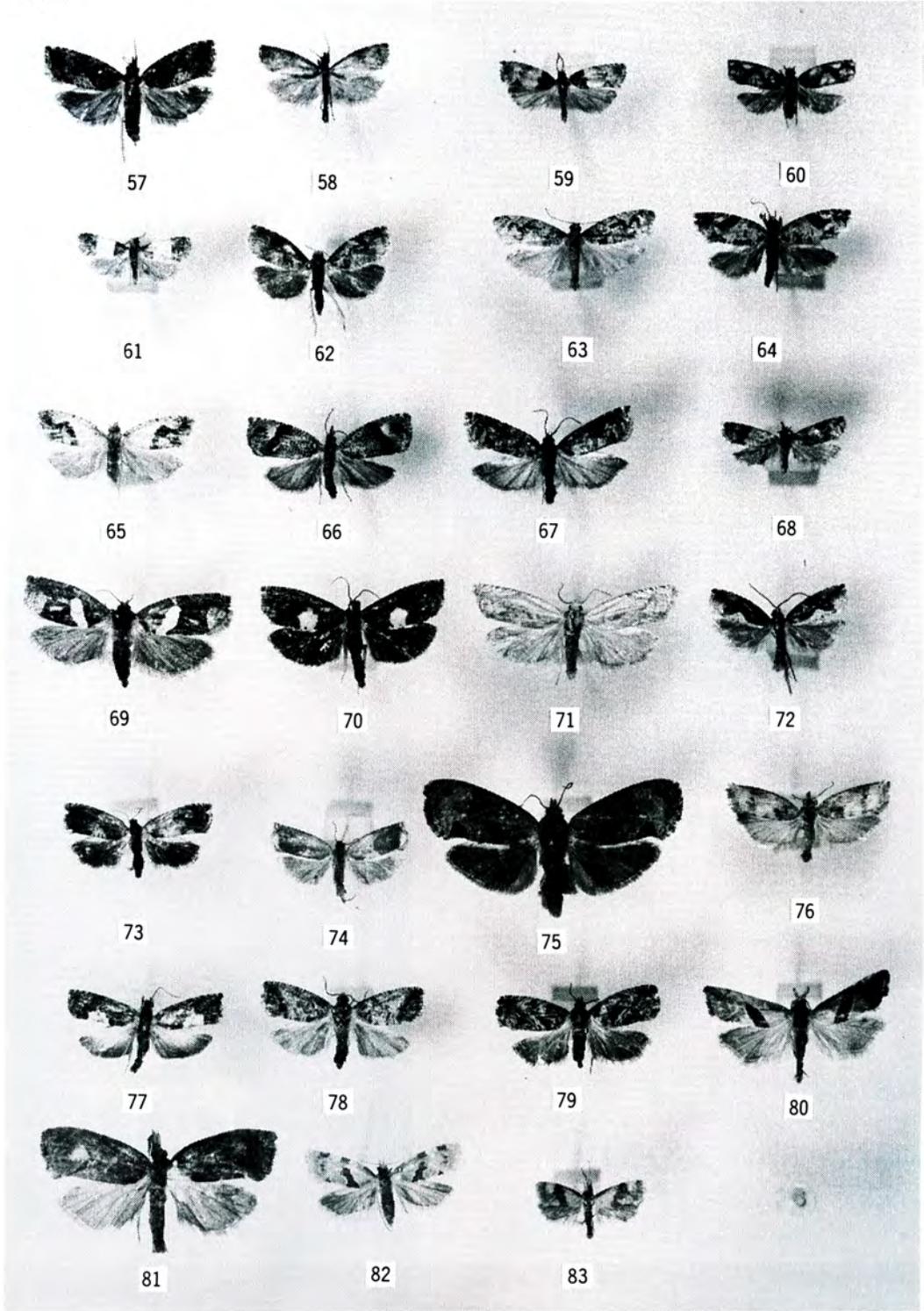
Pl. 2.

(×1.3)



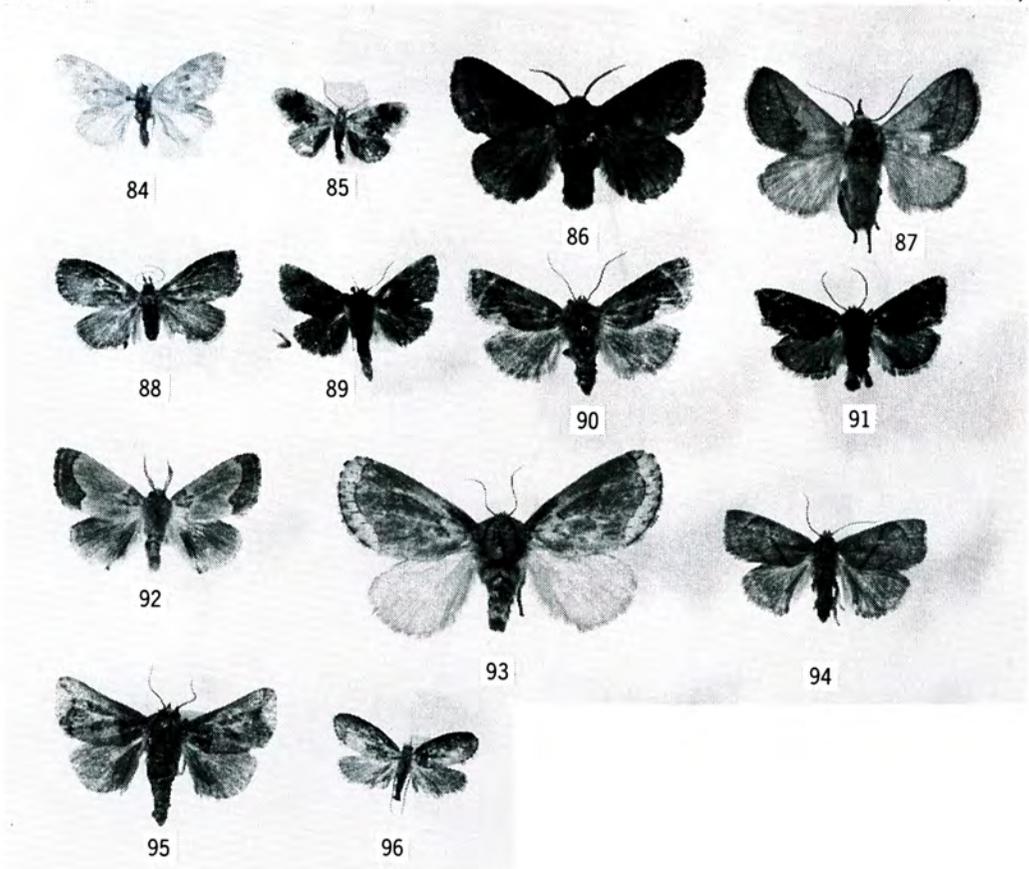
Pl. 3.

(×1.3)



Pl. 4.

(×1.0)



あおそ 青 苧 の 生 活 文 化 史

菊 地 和 博 *

1. はじめに

昨年度の本研究報告第13号に『近世最上川の文化的考察』を寄稿した。その中で「青苧文化の創出」と題して、江戸期、羽州産青苧を原料として奈良晒や越後縮、近江麻布など各地の特産織物が発達したことを述べた。それは最上川が運んだ文化という視点において主として流通面に重きを置いたものであった。本稿では引き続き青苧文化の再認識を念頭に、近代以降も含め青苧が私達の生活にどう役立ってきたのか、今後の行くえはどうか、青苧文化再生の願望をこめて実物資料や聞き取り調査に基づく考察を行っていききたい。



図1 青苧畑(南陽市)

2. 木綿以前の衣料と青苧

青苧は、漢名を「苧麻」^{ちよま}、和名を「からむし」と称し、イラクサ科に属する多年生植物で元来山野に自生する。茎の表皮を剥いで残る靱皮繊維は、古来から木綿以前の庶民衣料の原料として活用されてきた。この靱皮繊維だけをさして特に青苧と呼ぶ場合がある。(注1) 広く「麻」という言い方があるが、いわゆる麻は「大麻」のことで、それはクワ科に属し青苧とは本来別種であり、本稿では明確に区別して考察していく。

3世紀中頃の倭人(日本人)の生活を記したものに『魏志倭人伝』というものがある。その中の一節「種禾稻紵麻 蚕桑緝績 出細紵縑緜」^{かろう・ちよま} (禾稻・種麻を種え、蚕桑・緝績し、細紵・縑・緜を出す)のくだりで、「紵麻」「細紵」は苧麻(青苧)の栽培と製布、「蚕桑」「緝績」「縑・緜」は養蚕と絹製品を表わす。(注2)

これにより、すでに青苧は古代人の生活に衣料として取り入れられている様子が知られる。

また、8世紀初頭に著わされた『古事記』『日本書記』の「天の石屋戸」の項に「白和幣」・「青和幣」の名称が見られ、この場合の和幣=「にきたえ」とは大麻、青苧、葛など植物繊維で織った布をさす。(注3)

これらの史料は、身近な所に自生する植物繊維を衣料原料として利用する方法がかなり古くから行われていたことを示すものである。

次に青苧資料が出土した代表的なものをあげてみる。1958年秋田県南秋田郡五城目町高崎の中山

遺跡から編布が出土した。これは縄文時代晩期前半のものとして、日本最古の青苧製品であると考えられている。(注4)

また、世界最古の青苧資料は中国浙江省呉興の銭山漾遺址の乙区第4層から出土した織物3種で、新石器時代のものであるとされている。(注5)

このように、すでに紀元前には青苧は人類にとってきわめて有為な植物繊維として国内外で使用されていたことが知られるのである。

国の史跡に指定されている山形市の「嶋遺跡」には、7世紀前後のムラの生活の様子を示す多くの出土品があるが、その中に機織具がある。この時期に植物繊維を糸とした織物が行われていたことが明らかで、当然その中には青苧繊維も含まれたはずである。青苧布を身にまとった古墳時代の人々の生活の様子が蘇ってくる。

近代に入り、柳田国男は『木綿以前の事』の中で「藤蔓の皮で布を織って常服とすることは、山村一般の生活技術であった」「シナは東北では普通にマダの氣と謂ひ、是で織った粗布をマダヌノと呼んで居る」と記している。(注6) これは明治期に入ってから青苧、大麻、葛などのほかに植物繊維として藤蔓、シナ(楡・科)などが衣料原料として活用されていたことを物語るものである。



図2 藤製衣料

さて、これらの靱皮繊維にかわる木綿が普及したのはいつの頃であろうか。それは15世紀中頃に日本に輸入されたが、綿花栽培が本格的となり実用着として一般庶民に普及するのは江戸時代になってからという。(注7) では、本県の木綿をめぐる衣料状況はどうであったろうか。江戸時代の元禄期に最上川水運は最盛期を迎えるが、水運はむろん日本海海運と結びついて発達し、上方との経済交流はきわめて活発となる。やがてこの交易の中で木綿も帰り荷(下り荷)の1つとして羽州山形にもたらされるようになる。それは「古手」と称され、使い古した衣類であったが、寒冷地であまり綿花栽培が発達しなかった北国の人々には高級衣料として魅力的なものに映ただろうと思われる。この古手を身につけられたのはやはり富裕な人々であり、東北の寒村における大部分の人は高価でとても手が届かなかったというのが実情であろう。その様子は、次に引用する内容によって一層うかがい知られる。

「身につける一切のもの、生まれた赤ん坊のおしめも、女達の御腰も、親父共の褌も、労働着も、股引も、布団も夜着も、手抜も帯も、麻であった。これは明治の終わりごろまでそうだった。」(注8)

「木綿栽培に適さない陸奥・出羽の辺土では……(中略)……明治後期までも、もっぱら麻布を着ていた村はけっしてまれではなかった。」(注9)

「宮城県刈田郡の山村では、明治20年(1887)ころまでは、山に自生しているシナやアイコや畑に植えたアオカラムシの樹皮の繊維で織ったきものを着ていた。」(注10)

このほかにも「山野に自生する藤、しな、こうぞ、あいたけ(アイコ)やぜんまいなどの自然繊維の利用も近年まで行なわれていた。」(注11)という報告もあり、わが山形を含む多くの寒村では、青

苧をはじめとする木綿以前の植物繊維は明治期を過ぎてもお用いられたと考えられる。それは本文中後述するその類いの現物資料が、まだ身近かに見い出されることから言えることである。

注1. 『工芸』P201 近藤出版社 昭和55年

注2. 布目順郎『絹と布の考古学』P155(雄山閣出版 昭和63年)の解釈を参考とした。

注3. 武部善人『日本木綿史の研究』P15(吉川弘文館 昭和60年)を参考にした。

注4. 前掲『絹と布の考古学』P141

注5. 釣田敏子「中国古代の麻織物」(日本服飾学会編『日本服飾学会誌第8号』所収)P20 平成元年

注6. 柳田国男『木綿以前の事』P23.25 創元社 昭和14年

注7. 『日本服飾史辞典』P232 東京堂出版 昭和44年

注8. 高橋九一『稗と麻の衰史』P110 翠楊社 昭和58年

注9. 『事物起源辞典』衣食住編 P6 東京堂出版 昭和45年

注10. 『民俗の事典』P98 岩崎美術社 昭和47年

注11. 『仕事着—東日本編—』(神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 第11集)P62 平凡社 昭和61年

3. 青苧加工の作業工程

現在、青苧を栽培し繊維を生産している地域は、山形県南陽市、福島県大沼郡昭和村、沖縄県宮古・八重山地方である。この3地域では青苧の製品化も試み販売も行っている。

山形県南陽市では、平成元年に「ふるさと創世事業」の1つとして「南陽市青苧製品開発推進協議会」を結成し、市をあげて青苧栽培と製品化に

とり組んできた。江戸時代、米沢藩政下におかれた南陽市は北条郷と呼ばれ、同じ藩政下の下長井地方(現白鷹町と現長井市)に次いで青苧栽培が盛んだったところである。地域の伝統的特産物を今日に蘇らせてふるさとのPRと活性化をはかろうと、吉野川流域での畑作栽培と繊維加工技術の復興、機織りと製品化など様々な試行錯誤を経て今日に至っていることは注目し値する。その経過や内容については『よみがえれ南陽の青苧』(平成3年、漆山英隆氏編集発行)に詳細に記されていて大変貴重である。

さて、青苧はどんな加工の工程を辿りながら生活素材として活用されていくのか、『よみがえれ南陽の青苧』の真摯な取り組みをはじめ、いくつかの文献資料及び古老への聞き書きを参考にまとめると次のようになる。

- (1) 5月中旬頃(立春から120日を経過した頃という)すでに3寸ぐらいに成長した青苧を苧り取り、残った切り株の上にカヤをかぶせて畑を焼く。焼畑をしないで成長した青苧は茎の長さ・太さが均一でなく、繊維としての品質は劣悪で、活用できる量も少ない。
- (2) 肥料は牛馬糞や下肥を使用する。かつては村共同の草苧り場を設営して牛馬を飼い糞尿を利用していた所もある。



図3 青苧苧り取り



図4 表皮はぎ

- (3)青苧は風が吹きつけると互いに枝葉が触れ合っ
て痛みが生じ、繊維の品質が低下するので畑の
周囲に麻を植えたり、カヤの垣根を張りめぐら
せたりして防風の工夫をした。
- (4)青苧畑を耕し雑草を除くとともに、株から新し
い芽の飛び出しを切り取る。これを青苧耕いな
どと称している。
- (5)7月中・下旬頃、約2mに成長した青苧を鎌で
苧り取る。青苧は成長が早く、またたくまに切
り株から新しい茎が伸び始め9月中旬頃再び苧
り取ることができる。苧り取りは男性の仕事で、
明治初期は「縄5尺物二重巻で10束～11束を苧
り取ること」が一人前の仕事とされた。(注1)
- (6)苧り取った青苧は枝葉をかき取り、茎を束ねて
清流に漬け晒しておく。水温や漬ける時間によ
って品質に微妙な差異が生じる。一般に高温で
あれば繊維が弱くなるという。
- (7)清流から取り上げ、まず指を使って青苧の表皮
を一気に剥ぎ取る。(剥皮という)表皮はさらに
青苧ひき(青苧かき)台(「なで板」とも称す)に乗
せて「こ」(小刀・「おかき」とも称す)を使って
表裏の青みの皮を全面的に削ぎ落とす。(甘皮取
りという)残った白っぽい皮を靱皮繊維といい、
これが衣料の原料となるものである。かつて剥
皮の作業は女性、甘皮取りが男性が行ったとい
い、一日の基準は前者が4束、後者が5束とさ

れた。(注2)

- (8)この靱皮繊維を束にして竿に掛けて乾燥させる。
かつて乾燥の仕方は、会津産は日影干し・夜干
して、山形産のものは日干しであった。前者の
繊維は青味を帯び後者のそれは赤味を帯びてい
たという。(注3)
- (9)繊維を半日ぐらい微温湯に漬けて柔らかくし
(一昼夜、米のとぎ汁に入れるともいう)指の爪
や歯で細く裂き、唾液を付けてそれらを手で一
本の糸に接ぎ合わせていく。これを苧績みとい
う。さらに糸車で撚りをかけ強靱な糸とする。
- (10)細くかつ強くなった糸を経糸・緯糸として機織
りをし青苧織物の完成品ができ上る。青苧の品
質を生かすも殺すも、苧績みや機織りの技術い
かんによった。これは女性の熟練と忍耐を必要
とする作業であり、女性労働史の代表的なもの
であったといえる。

なお、(9)(10)の作業はかつては織物生産地で行
われたもので、したがって(8)までが原料生産地
で行われ、織物生産地への出荷は乾燥した繊維
状態のいわば半製品のまま行った。こういう事
情から、原料提供地の本県においては苧績みや
機織りの技術的蓄積が乏しく、せいぜい栽培農
家の自給的粗製技術にとどまっていたといえる。



図5 青苧ひき



図6 青苧繊維の竿掛け

注1. 船橋順一「農業労働力の研究6一女の仕事の1人前について」(上山農業高等学校研究紀要 第6号所) P6 昭和54年

注2. 同上

注3. 西脇新次郎『小千谷縮布考』(西脇新次郎編『越後のちぢみ』所収 東峰書房 昭和45年) P 353

4. 近世期の青苧織物

青苧は大麻と同一視され、広く「麻織物」と総称され、混同されてきたきらいがある。青苧文化の特質を知る上でも、大麻とは明確に区別して考えていく必要があると思われる。次の一文はこのことに関連してまことに明解な両者の相違点を記している。(注1)

「弥生時代には苧麻を材料とするものよりも大麻を材料とするものの方が多かったのが、古墳

時代中期以降になると、苧麻を材料とするものの方が多く用いられるようになったとみられる。大麻布よりも苧麻布の方が優位に立つにいたった理由としては、漂白した苧麻布が大麻布よりも白く、丈夫で柔らかい上に、優雅な光沢をもち、とくに衣料として服用した場合に大麻布よりもはるかに着心地がよかったのであろう。」

このほかに、青苧の特質として通気性、発散性、耐性、涼感などがあげられ、これから述べる全国の特産「麻織物」(上布とも称された)の原料がすべて苧麻(青苧)であることは、何よりも衣料面において大麻に対する青苧の優位性を物語っている。

さて、この青苧は江戸時代に武士の礼服である肩衣と袴(いわゆる袴^{かみしも})、富裕階級の夏の衣料(帷子^{かたびら}など)、さらには蚊帳などの原料として大いに需要があった。近世期の青苧織物特産品として高名なものは、越後上布、能登上布、近江上布、越中八講布、奈良晒などがあったが、これらの原料となったのは上州、会津、羽州などに産する青苧であった。この3地域は良質の青苧を産するところで名が知られており、当時の文献には羽州産のそれを評価する言葉がかなり見い出せる。その一部を以下に記す。

「縮^{ちぢみ}に用ふる紵^そは、奥州会津 出羽最上の産を用ふ。(中略) また米沢の撰紵と称するも上品也」(注2)

「曝^{さらし}布は和州奈良より出づる布の上品なり、羽州最上の苧麻を絹^{まお}んで布と為す、細織絹^{さいち}の如し」(注3)

「其価の登りたるハ、羽州からむしを買入て奈良にて織立さらすことにて青苧の直段^{しやうあい}已前に倍せり、(中略) 問て當国にからむしハなきやと尋たれハ、野生にあれば、米沢産格別^{しやうあい}生合よろしきゆへに用ゆと答ふ」(注4)

(1) 史的背景

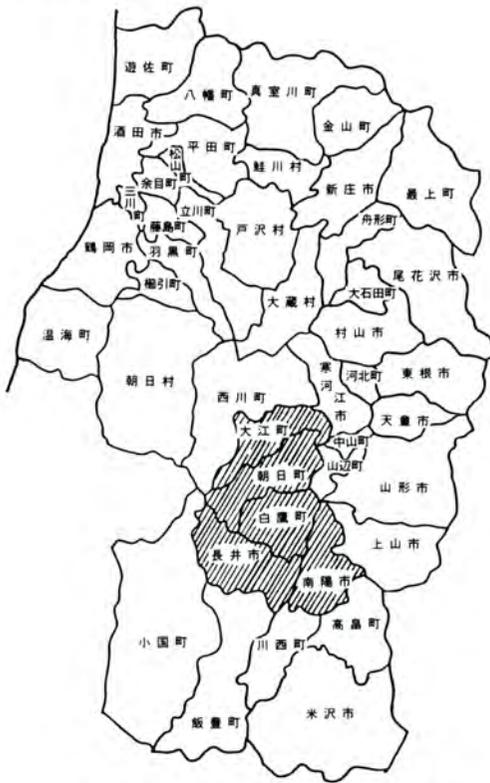


図7 良質青苧を産した地域(江戸時代)
(現市・町単位で示す)

本県は青苧の特産地であるとともに紅花の特産地でもあった。この二大特産物は、江戸時代に最上川や陸路によってさかんに領外に移出されて染色衣料文化を支えた。青苧と紅花栽培の関係については、江戸時代の後期になってから村山郡の平野部で紅花栽培が主体となり、青苧は地味や地形上紅花栽培に適さない地域に限定される傾向を示したという。(注5)

では、山形における青苧栽培の分布状況は具体的にどうであったろうか。青苧は本来野生のものだけにかかなり広域に生育したようであるが、畑地における良質の青苧栽培となると、紅花栽培ともからんで地域が限定的となり、いわゆる山間部に集中していくようである。それは「月山の見える

所には紅花を、見えない所には青苧を植えよ」「無駄地があつたら青苧を植えよ」など古くから伝承されてきた言葉に表わされている。

青苧は近世の山形では村山地方や置賜地方が主産地であった。特に良質の青苧を産するのは、村山地方では月布川流域(現大江町)や五百川郷(現朝日町)などで、置賜地方では下長井地方(現長井市・現白鷹町)と北条郷(現南陽市)などであった(注6)(図7参照)主として越後側の名づけ方であるが、村山地方産の青苧を「最上苧」、置賜地方産のそれを「米沢苧」として区別している場合がある。

特異なこととして、置賜地方に産する青苧は米沢藩が最も力を入れて生産増加をはかった商品作物であり、藩の重要な財源とするために農民に現物貢租として課し、幕末まで藩政府の専売商品とされたものであった。藩主上杉鷹山の執政であった竹俣当綱が著した『国政談』には次のようなくだりがある。(注7)

「青苧、撰苧とも云フ 青苧の内ヨリゑらみ出して上苧とす 右奈良之晒布 小千谷之縮布みなこれ此国の青苧を以て織り成して天下の人 これを着さるハなし」



図8 かつての青苧産地・大江町七軒(七夕畑)

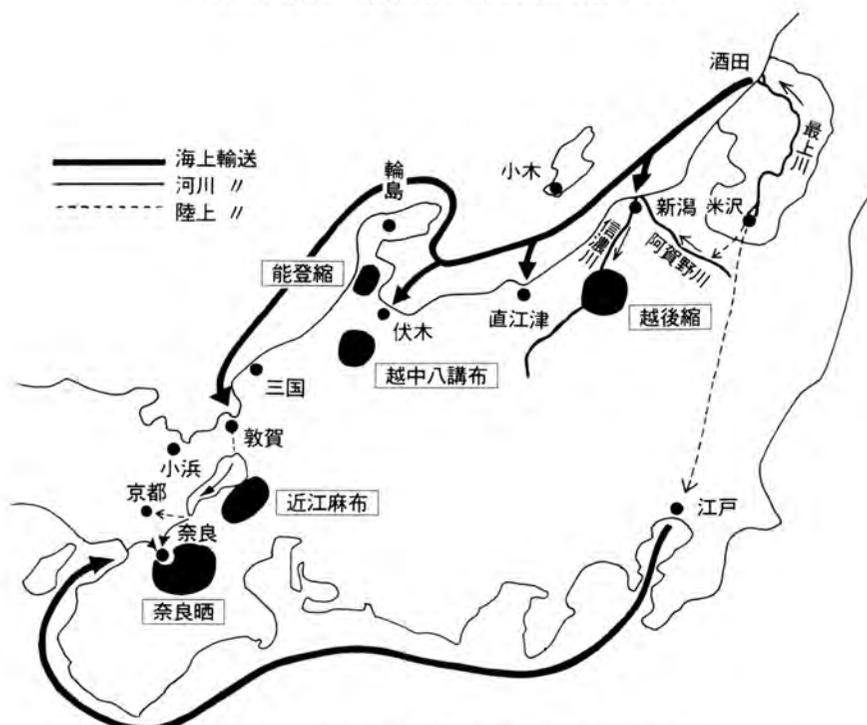


図9 青苧織物特産地と主な青苧輸送コース(主として江戸時代)

一方、村山地方の特色として、幕府及び藩の支配地域が小規模に入りこんでめまぐるしく変遷したため、置賜地方のような藩の一貫した権力支配が維持されず、そのため商品流通における商業資本が発達し、青苧や紅花などの特産品の交易による豪商が台頭したのである。

先号でも触れた羽州村山郡大蔵村(現山辺町大蔵)の稲村七郎左衛門家は、かつて青苧を主力商品としてさかん領外に移出して資本を蓄積した豪商であった。大蔵の地理的位置は、白鷹丘陵北部にあって村山盆地と五百川郷を結ぶ五百川街道が走り、かつ置賜北部にも通じる街道を持ついわば当時の交通の要衝であった。五百川郷をはじめ隣接する村々では良質の青苧を産し、稲村家は立地を最大限に活用して青苧を集荷し、最上川水運や陸路を通じ遠隔地へ移送したのである。宇井啓氏の研究によると、稲村家の青苧出荷は寛政期までは京都、奈良、近江が中心で、以後は越中が中心となり(文化10年には800駄に達する)、万延元年(1860)は46駄、明治元年(1868)は23駄が小千谷へ

運ばれるようになって縮布の原料になった。(注8)

図7などから青苧栽培の自然的環境を考えてみたい。良質の青苧を産する地域に共通する地形として、平地の少ない山間部の村々で山際に傾斜する狭い土地が耕地として利用されている。そこは水田率が低く、畑地として集約的に作物栽培が行われている所である。そういった地形はごく小盆地をなすがために風の勢いは比較的弱く、風が当たると品質低下を招く青苧にとっては好条件となる。特産地であった長野や会津そして山形県の置賜・村山地方を考えた場合、いずれも盆地を形成しており広大な平野を持たない。気象条件として、風が弱い盆地型で高温・多湿的な地域に青苧畑が作られたのではなかろうか。そのほか当然ながら土壌の問題があり、いかに山間部とはいえ痩せ地など青苧にとって不適合な地質は良質のものを産することはできなかったはずである。

次に奈良晒、越後縮、近江麻布の資料を紹介しながら、それぞれの特徴について触れてみる。

なお、羽州産青苧を原料にした上方以北の織物特産地と、青苧の輸送コース(詳細は前号参照)についてかなり大まかにまとめたのが図9である。輸送については代表的コースということで、その他もあり得たことを付け加えておく。

(2) 奈良晒

奈良晒は、慶長16年(1611)に徳川家康によって「南都改」の朱印が与えられ幕府御用品となったことからその名が高まった。他の青苧織物特産地にさきがけて17世紀初頭に商品生産が始まっている。宝暦4年(1754)に著わされた『日本山海名物圖會』には「麻の最上は南都なり、近国より其品数々出れども染て色よく着て身にまとわず汗をはじく故に世に奈良晒として調宝するなり」とある。(注9) 南都、つまり奈良で生産される麻(この場合は青苧)を原料とした織物、奈良晒は富裕階級が求める高級衣料として大坂、京都、江戸の三都市の市場を中心に栄えた。

先に「曝布は和州奈良より出づるの布上品なり羽州最上の苧麻を絹んで布と為す……」のくだりを紹介したが、奈良晒の原料となったのは「羽州最上」、この場合は置賜地方産の青苧(米沢苧)だった。米沢藩の御用商人西村久左衛門が元禄6年(1693)、同7年に黒滝を中心にした最上川開削の大工事を敢行するのも、領内の蔵米や特産物の青苧を最上川水運で酒田湊に下し、日本海の西廻り航路の海船で京都、大坂、奈良などに輸送しようとしたためであった。

米沢苧の奈良への輸送は、西廻り海運ルートのほかに江戸まで陸送し、そこから海運によって大坂、淀川、木津川、そして奈良に至るコースもあり、米沢苧の奈良への移送は幕末まで続いたのである。

原料を買い取った奈良の地元では半製品の青苧の苧績みから作業工程が始まり、機織り、晒しの

大きく3工程を辿って仕上げられた。苧績みとは先に記したように、青苧の繊維を糸にする作業をいうが、それ以前の準備として青苧繊維を約5時間流水に晒し、一旦絞り上げてから米のとき汁に2~3時間漬けて堅く絞る。さらにそれを日陰干しにする。そうした下準備の後に苧績みが行われたのである。最後の晒の作業は、晒屋が専門的に扱ったのに対して、苧績みや機織りは、農家の婦女子が冬期間の内職として行った。織り上げられたばかりの布は生^き平と称され少々茶色っぽく、これを晒して白布にしたのが完成品としての奈良晒である。

旧来の晒の工程は、まず織った生平を流水の中で足踏みして水洗いをする。それから布を草原の上に広げ、灰汁を打ちながら約10日間天日に干す。その後、布を臼と杵でついて水洗いをする。次に布に糊づけを行い再び天日干しをして完成品とするのである。しかし、現在はこういった晒を職業とする人々はほとんどいなくなり、漂白は苛性ソーダなどの薬品を使用している。

図10は奈良市^{すのぼり}邑地にある水越神社に伝わる狩衣である。水越神社は奈良春日大社の末社で、約500年前に分祀し水神を祀る古社である。境内に設営された舞台で演ずる「神拜」と称する神事芸能(翁舞や裸相撲など)が奈良県無形民俗文化財に指定されている。



図10 狩衣(奈良市・水越神社所蔵)



図11 直垂(奈良市・水越神社所蔵)

狩衣は、毎年10月10日の例大祭の渡御行列「お渡り」の儀式で10数名の氏子が着用するものである。図10は古作のものであり、現在の儀式では新作のものを着用している。古作の製作年代は不明であり、布地は経糸と緯糸のどちらかが青苧を使用しているように思われる。

図11は、奈良市柳生の八坂神社に伝わる直垂である。八坂神社は1654年に京都祇園の八坂神社を分祀したものでササノオノミコトを祭神とする。直垂は毎年10月10日の大祭の時に「お渡り」の儀式で着用するとともに、境内の舞台で行なう宮座行事(県無形民俗文化財)の「相撲の舞」において、2人が抱き合っ^{ひたれ}て擬似相撲を行う際に用いるものである。この直垂のことを地元では「素袍^{すぼう}」と呼んでいて、祭りの当屋1人、神主1人、氏子10人の計12人(「12人衆」と言っている)が着衣することになっている。(素袍とは「素襖」と書くのが正式で、武士が常服した点は直垂と同じであるが、両者は本来は異なる装束だといわれる。)

この直垂の保管箱の蓋には「嘉永5年」の墨書銘があり、江戸時代末期にすでに使用されていたことをうかがわせる。天文元年(1736)以降奈良晒

表1 奈良晒生産高推移

万治元年(1658)	321600疋	享保2年(1717)	353937疋
寛文8年(1668)	286676疋	天文元年(1736)	230893疋
延宝5年(1677)	405045疋	延享元年(1744)	188964疋
元禄元年(1688)	356096疋	宝暦3年(1753)	155806疋
// 7年(1694)	401866疋	// 12年(1762)	142412疋
// 11年(1698)	352382疋	天保13年(1842)	115620疋
宝永5年(1708)	341047疋	嘉永4年(1851)	68040疋
正徳3年(1713)	338888疋	明治15年(1882)	32200疋

「奈良さらし」(奈良県月ヶ瀬村教育委員会)より引用

の生産にかげりが見え始めるが、表1にみられるように嘉永5年(1852)になると、生産高は激減していき全盛期の6分の1に縮小されていく時期であった。

明治時代に入ってから奈良晒の生産は漸減しつつ続いたが、青苧の原料生産が減少していったため、主として大麻を使用することが多くなっていった。幸いにも伊勢神宮の神職装束に奈良晒を納入し続けた坂西家が存続したことなどもあって、月ヶ瀬村には紡織技術が伝承され、昭和54年に「奈良晒の紡織技術」が奈良県無形文化財に指定された。さらに昭和59年には、地元「月ヶ瀬村奈良晒保存会」が結成され伝承教室や製品開発に努めているが、まだ広く商品化されるまでには至っていない。



図12 奈良晒保存会事務所
(月ヶ瀬村)

(3) 越後縮

越後縮は、寛文年間(1661~1672)に播磨国明石藩士の堀次郎将俊なる人物が越後国小千谷(現新潟県小千谷市)に移住して、魚沼地方産の麻布に改良を加え縮織りを始めたのを起源としている。緯糸に強い撚りをかけて製織し、さらに織り上げた布に湯もみ足踏みの加工を加えてできる皺状の「しぼ」(布の縮み)が越後縮の特徴であり独特の味わいを持つ。越後縮の発祥地は小千谷であるが、

縮織生産は十日町、堀之内、塩沢、六日町など魚沼郡一帯に広がり、量と質の面から地元産青苧では需要が満たせず、会津や羽州山形からの移入に依存せざるを得なかったのである。

再び前出の一文(『北越雪譜』)を紹介する。

「縮に用ふる紵は、奥羽会津 出羽最上の産を用ふ。(中略)また米沢の撰紵と称するも上品也。越後の紵商人かの国々にいたりて紵をもとめて国に売る」

ここで、青苧を求めて越後商人が直接生産地を訪れていることが確認できる。また、西脇新次郎著『小千谷縮布史』にも江戸末期から明治時代までの青苧買いの様子が記されているので引用する。(注10)

「米沢苧は小千谷商人が初秋より出張し収穫の約8割を仕入れ搬出するものであり、相場は無論豊作の年は安く凶作の年は高くなりますが、概して値段に変動がありません故に、買人も安心して多く米沢苧(最上苧も含む)を一般的に使用したものでありました。」

表2 羽州苧1駄(120kg)の産地取引価格(年平均)

年代(仕入れ期日)	産地	上	中	下
明治2年(1869) 〔8月9日出立〕 〔10月16日帰店〕	米澤	92両	71両	62両
	最上	—	65両	52両
明治8年(1875)	米澤	102両	80両	—
	最上	73両	68両	—
明治18年(1885)	米澤	87圓	—	—
	最上	—	58圓	—
明治24年(1891)	米澤	111圓	—	66圓
	最上	80圓	71圓	—
明治30年(1897)	米澤	175圓	110圓	77圓
	最上	93圓	83圓	—
明治39年(1906)	米澤	297圓	245圓	—
	最上	230圓	205圓	—

注：1駄の価格は御役銭、産、口銭、荷造、産地の駄賃等を含む。

西脇新次郎『小千谷縮布史』(昭和10年)より引用、作成

表2は同書に記載されているもので、米沢苧、最上苧を上、中、下の3ランクに等級分けしてその1駄(120kg)の価格を示したものである。出立と帰店の期日は、越後商人の羽州への出発と帰還の期間を表わす。彼ら商人たちが良質の青苧を追い求めて他国の地を歩き回った様子が浮き彫りになってくる。ところで、同書は「山形県米沢苧最上苧の産地の内優良品の産地」として大塚村(米沢領)と屋代村(米沢御預地)を記している。大塚村は現東置賜郡川西町で、屋代村は現東置賜郡高島町である。この優良品産地の指摘は明治時代に入ってからのもと思われるが、江戸時代の置賜地方の主産地とは大部異なっており、その間の状態の大いなる変化を物語るものであろう。

同じく『北越機業史』には、北越産の青苧より上質の産地として次の3地域をあげ、毎年小千谷商人がこれらの地に至って以下の内容で青苧を購入している事実を述べている。(注11)

会津苧	千貫目	価格3千円	百両に付平均30銭
米沢苧	3千貫目	// 6千円	// 20銭
最上苧	8千貫目	// 1万4千円	// 17銭5厘

(明治16年調査)

この場合は、会津苧は白縮布、米沢苧と最上苧は縞飛白縮布の原料に青苧を用いたという。さらに同書は「米沢苧の種類に荒戸中品小松上品 赤湯中品産等あり、最上産中品あり」(荒戸は現白鷹町荒砥、小松は現川西町小松、赤湯は現南陽市赤湯一筆者)と記しており、先の優良品産地は大塚村と屋代村という指摘を考え合わせると、明治時代に入ってから青苧の評価は変化を遂げ、後述する桑畑への転換(養蚕)という情勢を背景に生産状況は大いに異なった様相を示していることがわかる。

青苧商人によって買い取られた半製品は、奈良晒同様織物産地で苧績みされた。苧績

みは女性たちの根気強い熟練によったのである。半日ぐらい微温湯につけ水分を取ったのち、柔らかくなった繊維の一本ずつを取り上げ、唾液に浸しつつ一方の端を口にくわえ他の端を指でつかんで爪で細く割いていく。この場合毛筋ぐらいに割くのがコツで、次にそれぞれの糸を繋いで長い糸とする。繋ぐ方法は、緯糸はいくつかひねりを加えて繋ぐだけのやり方であるが、経糸は糸をくぐして結んで繋ぎ目が取れないように補強しなければならない。なぜならば、経糸は機織の^{なま}箄の目を通して引っ張られる。さらに杆打ちのたびに上下に動かされるので緯糸より強靱な糸として作られねばならないのである。

図13は今述べたことの図解である。経糸の繋ぎ方はこのほかにもC式～E式の3通りがあるがここでは省略した。

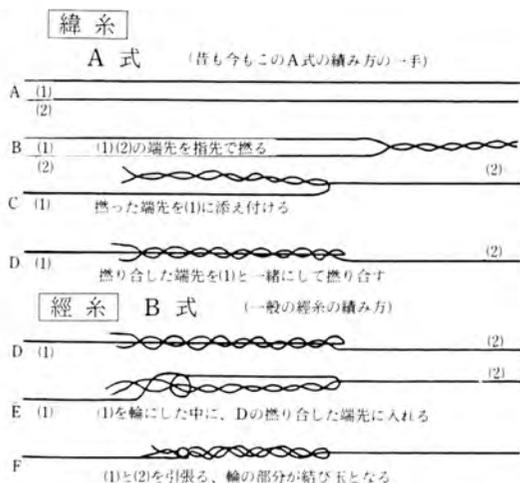


図13 苧績みの方法
西脇新次郎編『越後のちぢみ』(昭和45年)より引用

現在、小千谷市で縮織生産のための苧績みにかかわっている人は20人ぐらいであるが、いずれも高齢者で後継者不足である。図14は小千谷市大字朝日の片桐ハナ氏(78才)の苧績み作業である。かつては1日の績み苧の量は3匁～5匁(15g)で1



図14 苧績み作業(左)と完成した青苧糸(右)

反分を作るのに1ヶ月を要したといわれる。ただし、それは40才前後の若い婦人の場合と思われる。片桐氏の作業では1日の量は7g、1反分は約100日を要するとのことである。なかなか手数がかかり忍耐が必要な仕事で、採算の問題も含め、現在の若い人には敬遠されがちなことは明らかであり、伝承技術の前途に少なからぬ不安が残る。

小千谷市では、昭和30年に縮織の製作技術が重要無形文化財に指定されるとともに、現在、会津地方の昭和村産の青苧を買付け、苧績みからいざり機を使用しての昔ながらの製織を行っている。図15は小千谷同業組合内で行っているいざり機による作業である。青苧は空気が乾燥すると糸が切れ易くなるため、このようないざり機による製織は湿度の高い冬期間が選ばれて行われた。それは農閑期でもあり婦人たちは副業として作業に励んだ。縮布1反分は約750gの苧績みした糸が必要と



図15 いざり機製布作業(小千谷同業組合)

され、長さ30cmの布を織り上げるには900回以上の箆や杵を動かす動作が必要という。いざり機を使って1反分の縮布を完成するには1～3カ月の日数を費やさねばならない。このような手間のかかる事情から、現在商品化する縮布は大半が輸入青苧(ラミー)を原料として機械生産し、青苧を原料とした手織りの製品を「本製」と称して区別している。



図16 雪晒作業(小千谷市)

奈良晒においては草原上の晒作業があったが、越後縮は雪晒が代表的である。(図16) これは雪国ならではの漂白方法であり、この光景は今でも冬の風物詩となっている。縮布で、白縮や地白縮は躰たねの中で足踏みをして糊落しや汚れを取り除いてから雪の上に晒す。かつては奈良晒同様、晒屋がこれを専業とした。晒の原理は、太陽の光によって雪が融け、水分が蒸発する際にオゾンが発生してそれが布目を通過して純白作用を起こすといわれる。約一週間雪晒と布踏みの工程を4～5度繰り返すと、布地はみごとな純白の色に蘇える。こうしてでき上る白熨斗のしや白縮は越後の特産であり、緋についても越後は地白という評価が定着していた。

現在もこの伝統的な技法は継承されており、毎年雪深い2月に織物組合の人達によって小千谷市小栗田地区でこの作業が行われている。阿部康治氏(小千谷織物組合事務局長)によれば、この時期に布地によって5回～10回くらいの雪晒を繰り返

すことで、全国に誇れる越後の縮布が完成していくのだという。越後縮は、現在小千谷市で製作される「小千谷縮」と塩沢町で製作される「越後上布」の2種があるが、ともに昭和30年にその製作技術が重要文化財に指定されている。

小千谷市本町に、かつて縮問屋として産を成した西脇新次郎家が存在する。この西脇家が所蔵した縮織物関係資料約100点が小千谷市教育委員会に寄贈され、織物組合内に保管されている。図17～19はその一部である。これらの資料を前にして、青苧の織物とはこれ程まで繊細で優雅な衣料であったのかと認識をあらたにさせられる。糸が毛筋ほど細く織り目も密で、苧績みといざり機による手作業とはとうてい思えない程のみごとなでき映えに感嘆せざるを得ない。日にかざさなくても透けて見える程の薄手で、手ざわりや着心地に涼感があふれる。文様には都市的感覚で作られた気品さが漂い、おそらく地染めのものではないように思われる。これらの作品を前に、なるほど青苧は高級な夏物衣料として富裕階級にもてはやされたことが実感されるのである。

また、新潟県十日町市博物館には重要文化財指定の「越後縮の紡織用具及び関連資料」2,098点が収蔵されている。その中に衣類107点があり、図20・21はその一部である。小千谷市所蔵のものと同様こちらも優れた青苧織物が多く、図20は洒落た意匠と藍染濃紺の鮮やかさを持った旅衣(道中着)で、現在身につけてもさほど古さを感じさせない斬新なものである。図21は紅花を染料とした愛らしい単衣で、おそらく羽州産を使用したに違いない。原料と染料いずれも当地方産の衣料とすれば、「山形文化」は他地の技術を得て異国で開花したといえようか。これらはいずれも重要有形民俗文化財に指定されている。



図17 雪晒白地正藍石斛花文様帷子
(新潟県小千谷市教育委員会所蔵)



図18 蘇芳染飛鶴群調文様帷子
(同 左)



図19 納戸地竜頭雲水宝珠文様帷子
(同 左)



図20 道 行
(新潟県十日町市博物館所蔵)



図21 紅染帷子
(同 左)

(4) 近江麻布

近江国(現滋賀県)の犬上, 愛知, 神崎の3郡には少なくとも室町時代から「高宮布」と称する織物があった。江戸時代に入ってから彦根藩主井伊家が幕府献上物の1つとして用い, さらに近江商人が下り荷の代表産物として販売したことなどから, 一層織物の生産が盛んになった。高宮布は高宮上布もしくは近江麻布といわれ, 原料は能登地方(鹿島, 羽咋郡)で生産する苧^{おかせ}紬^{おかせ}によっていた。苧紬とは苧績みした糸のことで, 能登地方では農閑期の婦女子の副業としてかなり古くから行なわれていた伝統的産業であった。この地方では苧紬生産が中心となって製織技術はあまり発達せず, 独自の織物が製品化されずにいた。

ところで, この苧紬及び後に能登地方で生産さ

れるようになる能登縮(徳丸縮)も, その原料は羽州産青苧を使用しているはずであることは, すでに前号で考察したが, (注12) 次の表3はそれをさらに明解に裏付けるものとして注目したい。このことは, 能登産苧紬を購入して成立する近江麻布の原料も明らかに羽州産のものが多くということであり, 先に記した稲村家の近江への青苧出荷の事実と照らし合わせれば, 一層羽州産青苧と近江麻布の関係の深さが知られるであろう。

江戸時代に近江国八幡商人の御三家といわれた人物に西川甚五郎, 伴伝兵衛, 森五郎兵衛がいる。森五郎兵衛は近江八幡において呉服・太物商を営んで産を成した大商人であるが, この森家が所蔵した近江麻布関係資料の逸品多数が近江八幡市立資料に所蔵されている。図22・23もその1部であ

るが、いずれも友禅文様を描いた都ぶりの濃厚な衣装で、京都に隣接する地の利を得て栄えた華やかな衣料文化の一端を示していると思われる。

表3 加賀・能登・越中3国の帛出来高

	上州苧	羽州苧	地苧	計
加賀国	—	90駄	140駄	230駄
能登国	—	200	120	320
越中国	200駄	550	350	1100
計	200	840	610	1650

(文化10年高岡帛屋仲間の書上、「高岡史料」下巻による)
『日本産業史大系・東北地方編』より引用



図22 鼠地麻月すき白上げ友禅裾文様小袖
(滋賀県近江八幡市立資料館所蔵)



図23 鼠地麻桔梗女郎花紫宛友禅文様産着(同上)

(5) 庄内被衣^{かつぎ}

被衣は関西方面では「かつぎ」、関東方面では「かづき」と呼ばれる。本来高貴な婦人が外出時に顔を覆い隠すための衣装で、世界のかなりの地域で使用された。日本では中世にすでにその風習はあったという。江戸時代に被衣は上流階級のみならず庶民の女性にも浸透するようになり、単衣の小袖仕立ての衣服として流行し「町被衣」などといわれた。(注13)

庄内被衣とは、民芸運動の創始者柳宗悦の命名によるもので、京都で作られた「京被衣」に対する名称である。つまり、庄内地方には西廻り海運による上方文化の流入とともに京被衣がもたらされたが、やがて独自の工夫を加味した庄内被衣が地元で製作された。京被衣は絹織物や上布(最上級の青苧織物)で友禅染や刺繍をほどこした雅びで繊細なものであるが、庄内被衣は青苧や大麻を素材として地細工と呼ばれる土臭い染めと大きな図柄が一般的といわれる。(注14)

図24・25は大紋被衣といわれるもので、肩、頭部に桐の大紋を藍で染め上げている。上段は桐紋と折鶴、中央部は流水に花筏を描きうこん染、下段は早蕨の図柄で藍染である。上段と下段の染めの境界を松皮菱紋で区切っている。庄内の大紋被衣は、生地ほとんどが大麻粗布で庄内各地で染められたであろうとされている。(注15)しかしこの図24・25の生地は大麻ではなくて細手の青苧と思われ、織りの巧さは地元ではとうてい及ばず、越後上布などの織物産地で作られたものと考えられる。外来産を地元の紺屋で染め上げたとみられ図柄も大きく大胆で、配色も濃紺とうこん色のシンプルで北国らしい地味なものである。

庄内には高度な京文化を土着化させる経済力と進取の心意気があり、そこには酒田湊という日本海海運によってもたらされる異文化をいち早く受け入れる表玄関があった。このように内陸産の青

苧は一旦他所に移出されて再び地元に帰り、庄内の生活風土の中で衣文化として再生したといえる。



図24 大紋被衣前面
(酒田市・池田温雄氏所蔵)



図25 大紋被衣背面
(同上)

- 注1. 前掲『絹と布の考古学』P166
 注2. 鈴木牧之『北越雪譜』P73 岩波文庫 平成3年
 注3. 寺島良安『和漢三才圖會』P361 東京美術 昭和45年
 注4. 梶野良材『山城大和見聞随筆』(木村博「奈良における米沢商人の活躍」—『羽陽文化・第129号』所収 平成2年)の中の記述を引用した。
 注5. 渡部史夫「最上苧の生産と流通」(『出羽南部

の地域史研究』所収) P131.134 昭和61年

- 注6. 『大江町史』(昭和59年), 『朝日町の歴史』(昭和63年), 『長井市史』(昭和57年), 『白鷹町史下巻』(昭和52年), 『南陽市史 中巻』(平成3年), それぞれの青苧の項に記載されている事項等を参照して判断した。
 注7. 『山形県史 資料篇4』P741 新編鶴城叢書下 昭和35年
 注8. 宇井啓『稲村家の研究』P11.12 昭和53年度人文科学内地留学研究報告
 注9. 平瀬徹斎・長谷川光信『日本山海名物圖會』P144 名著刊行会 昭和44年
 注10. 西脇新次郎『小千谷縮布史』P322 昭和10年
 注11. 安藤錡・内田慶三『北越機業史』P193 明治36年
 注12. 拙稿「近世最上川の文化史的考察」(『山形県立博物館研究報告第13号』所収) P86
 注13. 前掲『日本服飾史辞典』P49
 注14・15. 岡村吉右衛門「被衣」(『民藝』第394号 昭和60年所収) P2~7

5. 近代以降の青苧と生活

(1) 統計にみる青苧栽培

明治時代に入ってから、山形県における青苧栽培はどう推移していったのか統計資料でみてみよう。まず、最も古い資料として、明治7年「山形県羽前国三郡一村山・置賜・最上」と題する資料〔庄内(当時は酒田県)を除く2郡(当時は山形県と置賜県)を対象〕があるが、それには青苧生産は21,820貫19目(匁)とある。明治9年、統一山形県が成立した年の「山形県一覧概表」には、山形が16,759貫200匁、置賜は3,258貫匁の生産となっている。単位は異なるが、明治11年「山形県治一覧表」には127,596^{きん}斤の青苧生産量が示されている。

表4 青芋各郡作付段別推移

「山形県統計書」より作成

	明治 25年	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
南村山郡	13.9	12.0	11.5	10.2	9.9	8.9	8.9	16.9	12.1	5.0	12.1	11.8			6.8
東村山	25.6	25.4	25.7	29.8	15.2	12.1	11.0	10.0	10.0	10.9	7.5	8.0			7.2
西村山	207.2	193.1	224.4	223.3	222.5	220.8	201.9	116.5	102.3	102.4	107.4	88.0			65.8
北村山	108.8	124.1	125.8	97.6	107.6	87.9	96.0	55.3	76.5	49.5	49.1	55.6		統	38.7
最上	10.1	10.0	23.5	27.9	27.4	28.0	36.0	27.8	49.7	51.2	43.3	48.6		計	50.5
飽海	11.8	9.1	7.6	7.6	9.9	7.9	8.2	19.1	18.2	12.5	7.1	6.5		な	2.7
東田川	4.2	5.4	13.9	4.8	6.2	9.3	9.8	9.8	10.0	9.0	8.0	7.5		し	15.2
西田川	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			1.4
西置賜	47.2	30.8	41.6	23.1	42.9	43.0	29.9	41.7	34.7	29.9	29.9	28.7			11.4
東置賜	37.4	37.5	32.9	39.0	42.2	41.5	32.3	33.9	36.8	31.3	33.1	32.2			14.3
南置賜	2.6	2.9	3.9	3.4	3.9	3.9	2.3	8.1	8.1	9.8	11.1	9.8			6.6
合計	470.0	450.3	510.4	466.7	487.7	463.3	436.3	339.1	358.4	311.5	308.6	296.7	297.1	228.5	220.6

	明治 40年	41	42	43	44	45 (大正1)	大正2	3	4	5	6	7	8	9	10
南村山郡	6.8			5.5	4.5	2.5	2.5		1.9	1.8	1.5	1.4	1.2	-	
東村山	7.0			4.5	3.4	3.4	2.9		2.0	2.5	2.3	2.3	1.9	1.9	
西村山	44.7			35.7	59.6	47.1	48.9		41.7	37.7	32.8	38.1	28.7	21.7	
北村山	39.7	統		36.0	35.2	27.0	22.2	統	22.7	23.1	28.0	17.6	12.8	14.9	統
最上	41.8	計		26.1	25.5	20.4	15.1	計	12.7	17.2	9.8	9.7	9.7	8.9	計
飽海	3.1	な		1.7	2.0	2.3	0.2	な	-	-	0.5	-	-	-	な
東田川	5.5	し		5.2	0.3	0.2	0.2	し	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	-	し
西田川	1.9			0.4	0.4	-	-		-	-	-	-	-	-	
西置賜	20.6			12.0	11.4	8.9	8.1		7.7	9.5	8.1	7.7	9.2	7.4	
東置賜	12.2			7.8	5.5	5.3	5.3		3.9	4.1	3.2	3.1	1.9	1.5	
南置賜	5.4			1.1	1.0	1.3	0.8		0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	
合計	188.7	165.2	153.0	136.0	148.8	118.5	106.2	103.8	93.4	96.6	86.9	80.6	66.1	56.7	53.1

	大正 11年	12	14	昭和1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	昭和24
南村山郡	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.1
東村山	-	1.2	1.2	-	0.5	-	0.3	0.3	-	0.3	0.2	0.2	1.2	2.5	3.7	0.3
西村山	16.9	13.0	10.3	4.1	5.8	33.0	5.2	4.2	4.2	3.7	3.8	4.0	4.2	4.3	3.6	0.8
北村山	10.5	7.1	10.1	5.1	5.5	3.7	5.9	6.1	7.2	7.4	7.4	7.3	8.3	7.1	2.1	0.9
最上	8.8	6.6	4.1	5.8	5.8	5.6	6.0	5.7	5.5	7.1	7.4	7.7	7.8	7.1	7.3	1.1
飽海	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東田川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.3	0.7	0.6	0.3	0.7
西田川	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2
西置賜	6.9	6.9	6.4	6.0	-	0.8	1.3	0.9	0.8	1.5	1.1	1.0	0.7	0.7	0.7	-
東置賜	0.4	0.4	0.4	0.2	-	-	-	-	-	-	-	0.2	0.2	0.2	0.3	-
南置賜	0.4	0.2	0.1	-	0.1	0.1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	44.4	35.9	33.1	22.7	18.2	43.7	19.3	17.7	18.3	20.6	20.6	21.3	23.7	23.1	18.6	4.1

(昭和24年以降統計なし)

貫や斤で単年度に示される数量では青苧生産の全体像が把握し難い面があるが、表4は40年にわたる青苧の郡別作付段別をまとめてみたものであり、全体の推移が理解できよう。(郡別がないためにこの表にはまとめられなかったが、明治17年の県全体の作付段別は307.9町、20年は364.5町、24年は450.4町となっている。)

さて、この表では明治27年の510.4町歩をピークに次第に作付面積は減少の一途を辿るのであるが、特に明治32年から前年を100町歩近く下回る作付となり、以後短期間に急速に減少している。また、表5は本県産の青苧輸出高推移を示すものである。明治8年以後30年間の統計がないが、この間に輸出高は5分の1に減少しており、大正期に入ると一層この傾向は顕著となる。これらの背景にあるものを考察してみよう。まず、表5の輸出高の下

覧に「主な輸出先」を記したが、この地域は先にみたとおり、越後縮や苧紬などの生産地であった。これら生産地での青苧需要は明治時代に入ってから減少し続ける。明治22年(1889)の状況を記した『山形県勸業年報』(明治24年7月刊)には「抑ニ苧麻ハ往時縣下ノ特有物産ニシテ、巨額ノ産出アリシモ、維新以来越後縮布ノ産額減少セシニ因リ、随テ其原料タル本品ノ需要ヲ減少セリ」とあり、需要地の事情による原因を指摘している。すなわち、近代に入ってから青苧織物産業を取りまく環境は変化し、絹織物業への転換、綿紡績業の発展、輸入青苧の導入などの諸情勢がからみ、本県産の青苧需要は次第に過去のものとなりつつあったのである。

一方、県内事情としては、県令の三島通庸が明治10年(1877)以降養蚕業を普及する目的で諸政策を実施した。その結果、明治20年代から30年代にかけて置賜地方を中心に村山郡、庄内地方へと養蚕業が発展していき、従来の青苧畑が桑畑に積極的に転換されていく傾向が明瞭になっていく。図26は桑園の作付段別を示すものであるが、明治30年代後半から急激に増大していったことがよく知られるであろう。

明治16年(1883)に「西村山郡青苧製造ノ困難」(勸業月報第2号)と題する次のような報告が出ているので引用する。(注1)

「青苧ハ本県特有ノ物産ニシテ、本郡ノ農民古来ヨリ該品ヲ産業トシ、管内ノ産高ノ過半数ハ本郡ヨリ是ヲ産出ス。該品ハ山間ノ土地ニ適セルヲ以テナリ。故ニ其収益モ少カラサリシカ、近年漸ク該品ノ減少セルヲ見ル。其原因ヲ考フルニ2アリ。販路(越後・越中・能登・近江)各国該品商業ノ振ハサルト、当地養蚕ノ繁昌ナルト是ナリ。養蚕ハ外交以来隆盛ヲ致シ、其利益自カラ他ノ利益ヲ压倒シ、耕耘ヲ善クスヘキ平坦ナル地所ハ、菓

表5 青苧輸出高

明治8年	33,720貫
39	6,460
40	1,890
41	915
42	691
43	2,634
44	3,785
明治45 大正1	1,920
2	1,234
3	1,000
4	550
5	570
6	700
7	1,650
8	800
9	250
10	375
11	470
12	150

(以下統計なし)

〈主な輸出先：新潟・石川・福井〉
『山形県統計書』『鶴岡県一覽表』
より作成

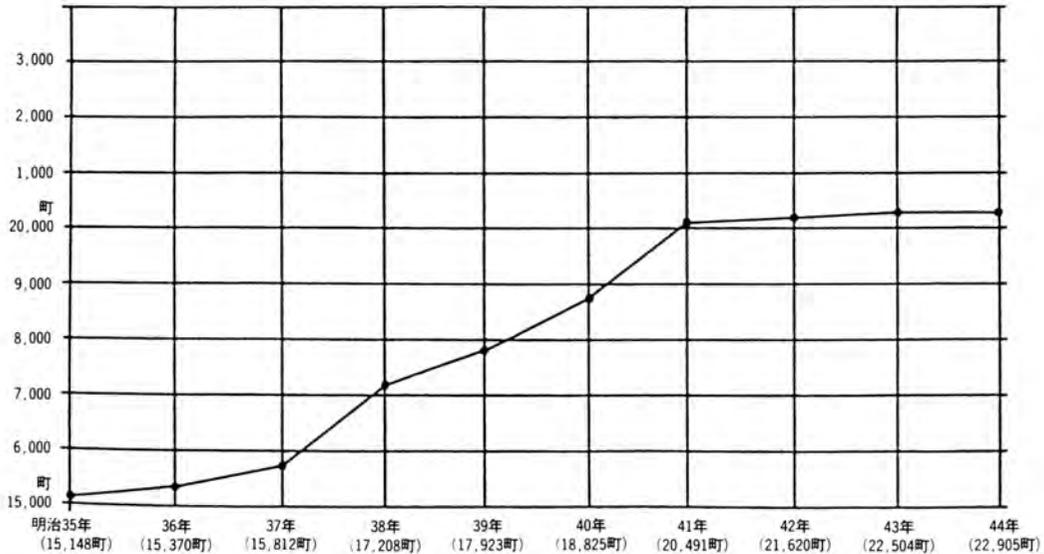


図26 山形県内の桑園作付段別推移 山形県統計書より作成

ヲ廃シテ桑樹ヲ植付ルヲ勉ムルヲ以テナリ。且ツ又販路該品ノ商業振ハサルヨリ、代價八年々低落シ、1昨年14年ヨリ比較ヲ立ツルニ14年ハ1駄(30貫匁)百圓前後ナリシモ、15年ニ至リテハ8拾圓内外ニ下落シ、本年ハ益々下落シテ5拾圓内外トナレリ。加フルニ、本年ノ如キ照リ續キニテ生育不宣、産高ハ平年ニ比シテ10分ノ4ヲ減スルノ予算ニシテ、其價格昨年ノ半額ニ至ラサルヘシト云フ。青苧ヲ製造スル者ノ困難推シテ知ルヘキナリ。」

上記に明解に示されているように、織物産地の需要減と養蚕の発展による桑園の拡大という内外2大要因が青苧産業の衰退を招いたといえる。青苧はこうしてかつての工芸的特産品から自給的作物へと転落し、その用途は大きくせばめられていくことになるのである。昭和25年以降の統計は最早とられていないことから、工芸作物としての青苧は戦前までにその役割を終えたといえるのではなかろうか。

ここで、もう1度表4に戻って郡別に作付面積をみてみよう。西村山郡が大正時代まで一貫して

首位を保っているが、かつて月布川流域や五百川郷が主産地の1つであったことからすれば当然と見ることができるが、それに対して一方の主産地であった置賜地方は、全盛期からすれば西村山地方とほぼ同等と思われるが、予想外に作付を減少させているのが注目される。これは次のような理由によるものとみられる。つまり、置賜地方はかつての藩主上杉鷹山による奨励で、藩政期に山形県内で最も早くから養蚕業が行なわれた地域である。すでに明治10年代に本県養蚕業の先進地に置賜郡(特に長井盆地北半から白鷹丘陵にかけての農村)があげられている。(注2) 要するにこの地域は、米沢織物をはじめ長井紬、白鷹紬などの絹織物業が発達したため、青苧畑から桑畑へと転換は早かったと思われるのである。

次に、村別に記された資料で最も古いものは大正14年で、その中から特に作付面積の多い西村山、北村山、西置賜の3郡の村々の実態を示したのが表6である。これによれば、やはり西村山郡の七軒村(現大江町)、西五百川村(現朝日町)、西置賜郡の鮎貝村(現白鷹町)が江戸時代からの伝統的栽

培地として引き続き作付が多いことが知られる。また北村山地域の多さも目につくが、上記の地域ほど良質ではないにしろ、北村山地域の奥羽山脈西麓や葉山山麓の村々も近世から青苧の産地であったことが『村差出明細帳』などの記録からうかがうことができる。この時期に各村で生産された青苧は、輸出用、自給用のほかに、後述する「山辺蚊帳」の原料として買い集められたものもあったであろうと思われる。

なお、庄内地方は青苧生産はわずかにみられるだけであるが、広大な耕地で米の単作地帯であること、日本海に面した平野で強い風が吹きつけること、などの事情が内陸の栽培量との格差を生じさせたと思われる。

表6 大正14年3郡作付段別比較

A. 西村山郡		10.3町
1.大谷村		0.5
2.西五百川村		3.0
3.本郷村		1.0
4.七軒村		5.0
5.川土居村		0.3
6.西山村		0.5
B. 北村山郡		10.1町
1.西郷村		0.3
2.大倉村		1.2
3.大久保村		0.5
4.富本村		0.8
5.大高根村		0.2
6.宮沢村		3.1
7.常盤村		4.0
C. 西置賜郡		6.4町
1.鮎貝村		6.0
2.十王村		0.2
3.津川村		0.2

「山形県統計書」より作成

(2) 庶民衣料と青苧

青苧織物について、当地はたんに原料生産地であって織布技術においてはきわめて未熟なままに推移した。このことは『山形県史』の次のような引用文によって一層明らかとなる。(注3)

「明治12年の調査(県勸業課)によれば、1反歩から生産される苧麻を、原料として販売する場合は22円～23円、紡績にすれば52円、晒布に織れば、仕上り布53反として106円という計算で、製品化した場合の有利なことは明らかであっても、技術的・経済的な事情から、その工業化が成立せず、(中略)従って大部分の原料を県外の機業地に送る以外に方法はなかった。」

それでは、青苧を原料とする衣類は当地方ではまったく製作されなかったかということ、決してそうではなかった。庶民が生んだ知恵に「ひかす」(又は「からはぎ」という青苧の残滓を活用する方法があったのである。

「ひかす」とは「青苧加工の作業工程」の(7)青苧ひき作業で削ぎ落として残る、いわば「挽き滓」のことである。(地域によっては、「からはぎ」は茎の表皮を指で剥ぎ取る段階で取り残されたものをさし、「ひかす」と区別する)さてこの「ひかす」をどう活用したかについて、大江町田ノ沢に住み青苧の機織りを経験した松田チヨミ氏(明治33年生れ、93才)を尋ねてうかがったことがらを次にまとめる。

- (1)ひかすを水洗いして天日に干す。
- (2)農閑期に「オカマナベ」(釜)で煮る。柔らかくするために「アク」(灰)を入れる。
- (3)よく洗って乾燥させてから紡いで糸にする。
- (4)紡いだ糸をいざり機で自家製の作業着(もんぺ、じゅばんなど)を作る。

- (5)(2)で煮たひかすをヨシで作った「スワタジ」(籐のことと思われる)に寝かせ、それを平らな石の上に置いて竹棒で叩きならし繊維をほぐして柔かくする。薄くシート状に至るまで続ける。それはやがて乾燥すると柔かい綿状になる。これを「打綿」といい(図27)、「木綿」「真綿」に対するもう1つの庶民の綿として夜着や布団などに入れて暖房やクッションに利用した。
- (6)打綿からは、さらに糸を紡いで布地を織る。

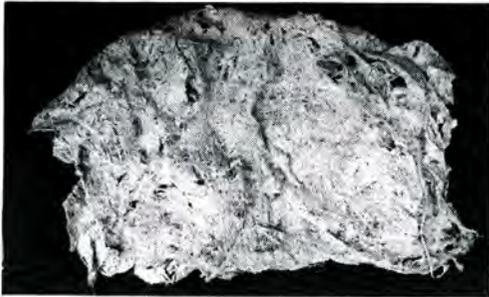


図27 打綿

以上のように、特に良質の原料産地では古くから「残りもの」を巧みに活用する術が伝承されてきたが、明治期に入ると織物産地の需要の減少から次第に自給自足的な青苧衣料の活用が増大していったと考えられる。一方、良質の産地以外では、先に触れたとおり木綿以前の衣料原料として早くから簡易な労働着、普段着として家々のいざり機で自家製衣服が織られていたであろう。図28・29はその代表的なものである。

松田チヨミ氏の談を再び続けよう。

苧績みについては、米のとぎ汁に漬けたのち手でもんだり固いものに打ちつけて繊維を細かくしてから作業を開始した。良質の青苧は帷子を織ったりしたが、あとは「青苧買い」(青苧を集荷して回る商人)に売り渡した。帷子とは、夏季に着用する単衣であり特に葬儀用に織った。(図30)これは娘が嫁ぐ際、嫁入道具の1つとして母親が丹精して織ったものを持たせてやる習慣だった。漂白し

ただけの無地のものであったが、家紋をつける場合は紺屋に特に依頼する場合があった。「さっぱかま」(もんべ・図31)も作ったが、雪積期の労働(雪掃き、雪下ろしなど)では布地に雪が付着しにくい(はたいてすぐ取れる)という点で好まれた。いずれにしろ青苧の作業は織布も含めて大変な労働であり、青苧買いに売り渡したとしても思った程現金収入にはならず、手間仕事の割には収益の少ないものであった。

以上が往時を振り返った松田氏の回顧談である。次に、さらに2人の聞き書きも加えておこう。

山形市山家の太田サタエ氏(78才)は、尾花沢市市野々出身である。太田氏の記憶によれば、母親が青苧から蚊帳、ササ入れモンペ、伴天などをせっせと織っていたという。また、太田氏の実妹、森山ヤスエ氏(山形市鈴川町、68才)は、母親が織った青苧の反物を自分で裁断して洋服を作り、日常生活で着用していた。(図32の前列左側が青苧製衣服を着用する森山氏・昭和19年撮影)物不足の戦時中のことで、まさしく自給用に創作したわけで、丈夫で涼しいため愛用していたという。しかし、戦後この衣服が廃棄されてしまったのは、時の流れとはいえ残念なことである。さらに、森山氏の義母(尾花沢市押切出身)が織った青苧反物をヤスエ氏自身が縫い合わせて蚊帳としたものがある。これは今も大切に保存されている。

以上は個人からの聞き取りをもとに記した。このほかに青苧を素材としたものにどんなものがあるか紹介する。

図33は藍染の布団皮である。藍染されたものを身に付けると蚊や虫が寄ってこない、保温性がある、などといわれ普段着はもちろん夜着や布団皮によく用いられた。図34は裃(肩衣)である。かつてよく冠婚葬祭に用いられたが、今では特殊な行事(儀式)以外はあまり見られなくなった。図35・



図28 じゅばん



図29 みちか



図30 帷子



図31 もんぺ



図32 青苧衣服姿の森山氏
(前列左・森山ヤスエ氏所蔵)



図33 布団皮



図34 袴 (肩衣)

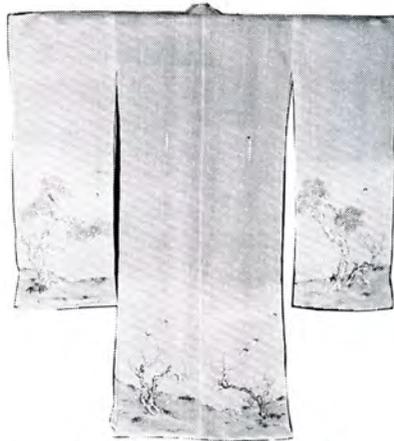


図35 紅麻染分地舞鶴松竹梅模様単衣
(中山町・柏倉九左衛門家所蔵)



図36 鼠麻地裾春景色模様単衣
(同 左)

36は中山町岡の豪農柏倉九左衛門家所蔵の単衣である。それぞれに家紋の「細山桜紋」と「蔦唐草紋」が描かれている。前者は柏倉家の女紋であり(男紋は「丸二酢漿草紋」)、後者は実家である高橋熊次郎家(上山市)の家紋である。いずれも柏倉家において着用されたものであるが、紛れもなく青苧製である。織りはおそらく越後あたりへの注文品であろうと思われる。図35は美しい紅花染であり、下方へのぼかしの技法は曙染といわれる。織り、染め、図柄ともにこれとほとんど同一と思われるものが、かつての豪農竹下善治家(天童市)に所蔵されている。竹下家の家紋「木瓜三ツ巴紋」が見られることから、これも同家の婦女子が着用したものであろう。かつての豪農、豪商などの富裕階級は、同じ青苧製であってもこのような上質の衣服を身にまとうことができたのである。その他の例として、青苧の衣類は「南部菱刺し」や「津軽こぎん刺し」(図37)の衣料にも多く見出すことができる。



図37 袖なし(津軽こぎん刺し)

これまでみてきたように、青苧は木綿や絹織物が普及する中でも好んで長く愛用されてきた面があったように思われる。それはたんに木綿や絹を買えない貧しさ故のことではなく、積極的用途があつてのことだったと考えられる。

その1つには、盛夏時に着用する単衣(帷子)として好まれたことである。通気性に優れ、汗を発散させるためきわめて涼感に富んでいる。上質の繊維は光沢も伴うことから富裕者には特に人気があつたとみられる。

第2に、普段着として用いた場合、丈夫で長持ちする衣料であつた。質素な生活を強いられる庶民にとっては貴重であり、特に野外での労働は擦り切れや痛みが激しく強靱な繊維の衣類は宝重であつた。

第3に、雪国ならでのことであるが、松田チヨミ氏の談にあつたように、布地に付着した雪は簡単に払いのけることができ、しかも水分が中に染み込まず防水の役割を果たす。故に、比較的水分を吸収しやすい木綿よりも雪中での労働には好まれた。柳田国男もこの点について「麻布(これは主として青苧であろう—筆者)は肌着に冷たく当って防寒の用には適せぬように思われるが、細かい雪の降る土地では、水気の浸みやすい木綿を着るのはなお不便だから、言はば我々の雨外套の代りに、麻布を着て雪を払って居るのであつた。」(注4)と述べている。

第4は、内陸部のほぼ村山地方に限定して言えることであろうと思われるが、徳永幾久氏は、山形地方には紅花染による厄よけの衣類を着る慣習が民間に強く残っていて、それには麻地が最も染め付きが良いので好んで用いられたと指摘している。(注5)(この場合の麻地とは、青苧と大麻の双方あつたであろうと思われる。)先にあげた柏倉家と竹下家の紅花振袖は、この類いのものかも知れない。

以上、青苧衣類の積極的活用理由を4点あげた。このことは一方の大麻についても同じことが言えるだろう。青苧をあまり産せず、むしろ大麻を多く産した地域、例えば山形県最上郡、隣県では岩手県などは青苧にかわって大麻衣料が長く使用さ

れたようである。(注6)

最後になるが、青苧を活用した特異な衣類として、白鷹町に経糸を青苧、緯糸に和紙を使用した織物である「紙よこ織」が古くからあった。白鷹町深山は手漉き和紙(深山和紙)の産地として有名であるが、この和紙で作った大福帳などの反古紙を緯糸に用い、経糸には近隣から豊富に取れる青苧(時には木綿や絹)を使用した織物がつくられた。糸としては和紙・青苧ともに強靱であり、これで織られた衣類はまことに丈夫で長持ちしたであろう。

青苧は、このほか庶民衣料としては夏の浴衣、風呂敷、祝い暖簾、袷衣帯など多種多様に用いられ生活を支えてきた。

(3) 山辺蚊帳と青苧



図38 山辺蚊帳(山辺町・工藤一夫氏所蔵)

蚊帳は夏季の睡眠時に蚊を防ぐための道具であり、江戸時代以前は高貴な人のみ使用することができたといわれる。蚊帳の材料は木綿や大麻、青苧などがあるが、青苧製として全国に知られたものに奈良の大和蚊帳や滋賀の近江蚊帳が古くからある。特に近江蚊帳は、蚊帳使用が庶民に広まった江戸時代に近江商人が下り荷として各地に売り捌いて好評を博したものの1つとされるが、じつはその原料に近江麻布と同様羽州産青苧が多く使われたのであった。

山形県内でも、かつて青苧や大麻を原料とした自家製の蚊帳は各地の農家で作られたが、産業として家内工業的に生産されたことで知られるのは、東村山郡山辺町の「青苧手織り蚊帳」である。(図38) 山辺町は白鷹丘陵の北東部に位置するが、江戸時代から白鷹丘陵周辺諸村は青苧の生産地であり、丘陵をはさんで西部方面は特に良質の産地五百川郷(現朝日町)であった。山辺町は先に記した青苧商人稲村七郎左衛門家を生んだ所で、青苧集荷の立地としては好条件の土地柄であった。(図7参照)

山辺蚊帳の生産は、同じ山辺町で大きく2つの分業体制がとられていた。青苧ひきから機織りを経て生地布にするまでは杉下、大蔵、根際などの山間部の生産農家の作業であった。この生地布を買い集め縫い合わせて染色し、1張りの蚊帳として仕立て上げるのは町方の問屋であり染屋であった。山辺町には古くから藍染の紺屋が多くあったことも蚊帳産業興隆の一因となったと思われる。

ところで、山辺町の蚊帳生産の歴史的経緯にはどんなものがあったのだろうか。元治元年(1864)「山形 田中岱山堂」から出版された「最上名所名産名物」番付の中に「山ノ辺蚊屋地」(相撲番付からすれば前頭クラスかと思われる)が出ているので、すでに江戸時代後期には生産されていたことがわかる。(図39)しかし、その後の盛衰について適確な史料を欠き、全体像はこれまであまり明らかにされていない。

ここで、かつて生地生産の中心地であった山辺町杉下に住む多田つめ江氏(明治42年生れ、84才)に蚊帳生産をめぐる記憶を辿り語っていただいた。多田氏は過疎化が進む杉下地区では、当時の状況を知りうる最古老である。

中山町豊田生まれで、幼少の頃母親が自家栽培した青苧を紡いで織り、蚊帳地として売っていた

図39 最上名所産名物
(左側二段目後半に「山ノ辺蚊屋地」あり)

ことをはっきり記憶している。嫁入り前に機織の技術を身につけるようにと教えられ自分も体験した。木綿織は高機で織ったが、青苧織はいざり機を使っていた。20才頃で杉下に嫁いだがその頃姑がいざり機で蚊帳を織っていたことが思い出される。原料の青苧は山手の畑に植えた自家製のものだった。杉下は山間部の集落で水田率が低く、少し下った大寺地区に田を購入して米づくりをしなければならなかった。蚊帳づくりは農家の有力な副業であった。青苧の繊維は「しろみごす」(米のとぎ汁)に漬けると細く砕けて苧績みがしやすかった。それは蚊帳地づくりも含めて女の冬仕事であり、専業のようなものであったといえる。蚊帳地は縫いや染めをせず反物として買い集めに訪れる人に売り渡していた。自分自身は嫁いでは蚊帳織りの経験はほとんどなく、姑の機織りをワキに見ながら冬期間は専ら草履作りに従事した。

以上が多田氏による聞き書きである。先に山辺蚊帳生産の歴史的経緯は史料的にあまり明らかにされていないと述べたが、ここであらためてその経緯について考えてみたい。まずこれまで言われてきたことは、「山辺蚊帳の最盛期は江戸末期から明治初期で、年間千数百帳生産され、次第に下りものの蚊帳に押されて大正期には衰退した。」(注7)「明治15年頃が最盛期であったが、明治末期頃からは北陸地方から外国産の大麻を原料として織り出された蚊帳布を輸入し、これを仕立てたものも山辺蚊帳として販売するようになり、生産工程が複雑で高価な本来の山辺蚊帳は衰退した。」(注8)というようなことであった。

さて、表7は山形県内における蚊帳地の生産推移を示したものである。多田つめ江氏の話しに生家のあった中山町での蚊帳織りのことが出てきており、「5の(2)」の太田サタエ氏や森山ヤスエ氏の談にも蚊帳織りの記憶や体験が登場した。これは、各地で自家製の蚊帳が織られていたことを示すものであるが、この表はそういう個別的な自給用生産ではない企業的に生産された蚊帳地の統計であり、すなわち山辺蚊帳を表わすものであろう。おそらくこの蚊帳地の原料は、山辺町の白鷹丘陵周辺のみならず村山地方や置賜方面からも問屋によって買い集められたものも多いと考えられる。それは先の森山ヤスエ氏が、昭和初期頃尾花沢に青苧買い商人が訪れていたと回想しているし、さらに左沢田ノ沢の松田チヨミ氏の青苧買い商人訪問の談にも表わされている。

表内では明治35年が生産のピークで、明治40年代に入ってから生産が減少し大正期後半の8年、9年は急激な減り方を示しその後の統計は表わされていない。明治27年以前の統計が示されていないので類推となってしまうが、先の表4や5の青苧作付段別や輸出高も含めて考えるに、山辺蚊帳の生産は「名所産名物」番付の書かれた江戸末

表7 蚊帳地生産推移

年	産額(単位：反)
明治27年	13,020反
32	6,310
33	6,000
34	15,000
35	22,000
36	17,000
39	10,000
40	4,400
41	4,220
42	3,184
43	1,386
44	2,936
明治45 大正1	4,544
2	3,725
3	4,281
4	2,863
5	2,640
6	2,420
7	1,144
8	513
9	99

(以下、統計なし)

「山形県統計書」より作成

期から明治30年代初頭までは、減少傾向は示しながらも一定程度の産額を維持し続けていたのではないだろうか。その理由として輸出先の需要の減少で原料の一部が県内向けに転換し、自給用とともに蚊帳地用に消費されていったのではないかと、また、蚊帳がかつては高貴な階級のいわば贅沢品であったのが、江戸期に庶民の寝具となった経過を踏まえれば、東北の農村では、蚊帳のある「文明的な生活」は明治に入ったからといってすぐには始まらなかったと思うこと、などからである。

表7の明治40年代以降の生産の落ち込みは、先

の引用にあったとおり、やはり外部からの蚊帳地の輸入の結果ではないかと思われる。このことから大正9年にはかつてない生産の減少をみて、翌年以降は産業として統計に値しない数字が続いたものとみられる。この意味で山辺蚊帳は大正期に衰退したとみるべきであるが、多田みつ江氏の話しでは、嫁いだ頃(大正末期か昭和初期)も杉下では蚊帳地が織られていたと述べている。その原料は自家製青苧と言っているが、仮にそれが記憶違いで、町方の問屋が杉下などの山間農家に提供する他村産の青苧であったにしても、山辺蚊帳は外来産に押されつつも細々ながら、県内産青苧を使った手織り産業として昭和初期頃まで存続していたのではないかと思われる。杉下で青苧織りの最後の経験者であった多田みん氏(昭和42年6月没享年90才)は、家族の話しによると、個人的依頼を受けて昭和25年頃まで機織りを行っていたということである。

次に山辺蚊帳の特徴を山辺町・工藤一夫氏所蔵のものを参考にみてみよう。生地布は図40に示すとおり一幅33cmで、それを部屋の大きさに応じて縫い合わせていく。生地布には2本の力糸といわれる幅約7mmの筋が入る。上部縁約8cmの布地は木綿製で約5mmの斜め横縞が白地に藍色で描かれる。山辺蚊帳には標準の「六八」といわれる4畳半用のものがある。この値段は米1俵という相場であり、部屋に応じて生地布一幅を増やすごとに米5升が加算された。昭和41年当時4畳半用の合織蚊帳が3,000円～3,500円、純麻が5,500円であったという。(注9)山辺蚊帳の「六八」の値段はいくらかとなると、当時の米価は1俵6,748円であり、米価の相場どおりの値段となれば6,748円となったはずである。合織3,500円、純麻5,500円、青苧6,748円を比較すれば、山辺蚊帳の高価さは際立っており、これでは下りものの安価さに対抗しえず衰退していくのは当然であったろうと思われる。

山辺蚊帳の欠点をさらに加えるならば、下りものに対して重量があること、化学染料を使用しないで藍で染め上げたため色落ちがすること、などであったようだ。工藤一夫氏の話によれば、夏分顔に緑色を付着させている子供を見かけることがあったが、それは蚊帳に顔をつけたままだれを垂らして寝入ったせいであったという。

幾つかの欠点をかかえつつ衰退していった山辺蚊帳であるが、蚊帳生産の技術的素地は、やがて山辺木綿産業に発展し、戦後はさらに山辺絨緞製造へと受け継がれている。今、寝具としての蚊帳は子供用幌蚊帳を除き、ほぼ過去のものとなった。

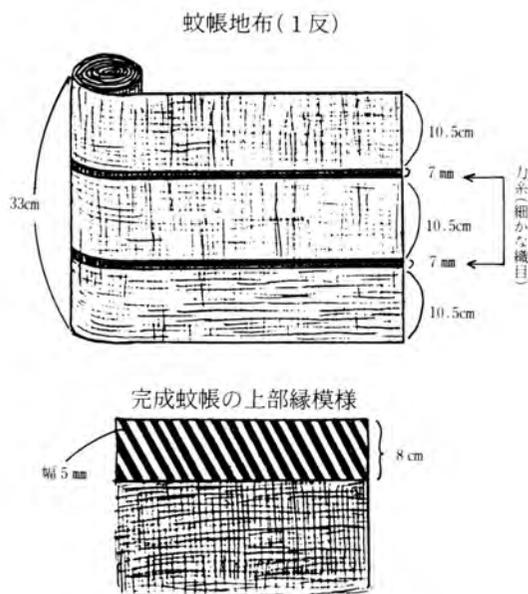


図40 山辺蚊帳の特徴

(4) 青苧の生活用具

良質の青苧は衣料原料として用いられたが、固くて粗い青苧繊維は自給自足的に多方面にわたって日常生活用具の素材として用いられた。いくつかの例を以下に記す。

○漁業用網

『山形県史 農業編』では、「明治10年代の後期から紡織機業の活性化に伴い、綿織物の増産が目立ち麻衣料は次第に圧迫されたのみならず、従来漁網用として多量に使用されていた麻糸も、次第に支那産のそれが伸びて来た」とあり、また西置賜郡の状況として、青苧は「越後方面の^{いさば}鰯物や織物と交換する方法が古来の慣例として残っていた。これは、海岸地方の漁師に網糸原料として供給したことを物語っている。」と出ている。(注10) このように青苧は漁業用網糸として活用されたのである。

図41は青苧製漁網であり、サケ捕獲用の^{さしあみ}刺網である。庄内地方の漁網の原料は古くから青苧や大麻であったが、明治時代末期頃から木綿糸を原料とした漁網が普及し、戦後はナイロンなどの化繊の網にかわっていった。(注11) 中には絹製漁網もある。青苧製は大麻製よりも柔らかく、中には柿渋を塗って耐性を強化した漁網もある。

○サギオリ(サゴリ)

庄内浜の漁村では、冬の仕事着としてサギオリ(サゴリ)という上っ張りに用いる衣類があり、重くて厚いが波、風に耐えられるので着用している。特に緯糸に青苧製の漁糸を用いて織ったものがあり、これをナワサゴリとかヨリソサゴリなどと呼ぶ所もある。(注12) 漁網用糸が漁師の仕事着に活



図41 青苧製魚網(刺網)・致道博物館所蔵

用されている例である。

- ハケゴ(入れ物)の糸・紐。
- ミノ(肩・背中あて)の首に当たるU字型部分と後背部。
- ナタギリ(被り物)、ハバキ(脚絆きやはん)の一部。
- 下駄の鼻緒、縄、酒しぼり袋、蒸籠用布、など。

そのほかに、繊維の利用以外に次のようなものがある。

- 表皮を剥いで乾して白くなった青苧の幹(オガラと称す)は、囲炉裏の側に置いて「付け木」として燃え火の移しや暗がりでの照明用に使した。
- 萱葺き屋根の廂の部分にオガラを並べ、簀の子張天井のように見映えの良い建築材料として使用した。

注1. 『山形県史 農業編 中』P444 昭和44年

注2. 『山形県史 第4巻 近現代編 上』P482・483 昭和59年

注3. 『山形県史 農業編 中』P443 昭和44年

注4. 前掲『木綿以前の事』P20

注5. 『最上町史』P617~620 昭和60年

注6. 山形県最上郡については、文中表4と同じく県統計書により明治25年以降の大麻作付段別を郡別にみていくことができる。それによれば、各年とも一貫して作付、収穫はトップであり、『最上町史』の内容なども総合すれば衣料面では大麻が主流であったと考えられる。また、岩手県についても、高橋九一氏の著書(『稗と麻の衰史』翠楊社 昭和58年)や矢萩昭一氏の論文(「岩手の仕事着の分布とその地域性について」岩手県立博物館研究報告第6号 昭和63年)などから同様のことが言える。

注7. 『山形県の歴史と風土』(『新山形風土記 全

- 三巻』所収)P354 創土社 昭和57年
- 注8. 『山形市周辺の織物』(山形県立山形工業高校郷土研究部編)P34.41.42 昭和48年
- 注9. 江口文四郎「山辺蚊帳」(『江口文四郎集』所収 視線詩の会 平成元年)P50
- 注10. 『山形県史 農業編 中』P442.445 昭和44年
- 注11. 犬塚幹士氏(致道博物館・鶴岡市)のご教示による。
- 注12. 前掲『仕事着一東日本編一』P68

6. 「青麻あおそ神社」の信仰

仙台市宮城野区岩切青麻山(県民の森内)に「青麻神社」がある。「神社畧記」によれば、この神社は仁寿2年(852)に都人の穂積保昌がこの地に至って麻の栽培を人々に教え、自ら尊崇する日月星の三光、すなわち天照大神、天之御中主神、月詠神の三神を岩窟に奉祀したことに始まる。古く



図42 青麻神社(仙台市)

は「青麻岩戸三光宮」又は「青麻権現」と称したというが、いつの頃から「青麻神社」となり江戸期は伊達藩主が崇敬し立派な社殿が創建されるに至った。図42は昭和45年に再建されたもので、山中にあって実に堂々たる社殿である。毎年5月1日~3日に例大祭が行われ、文化4年(1807)より伝承されている榊流青麻神楽が奉納される。古来から「中風退除・海上安全」の信仰があったとき

れ、信者達は日常の信仰対象として神号を刻んだ石碑や堂宇を身近に建立し、講中を組織してしばしば本社に参拝した。この神社の信仰圏は東北地方から栃木県、千葉県にまで及んでいる。社殿には世相を反映し、受験生の合格祈願のための折鶴が大量に奉納されて現代の多元的な信仰を物語っている。

山形県内にも「青麻信仰」を表わす石碑・堂宇があるので、知りうる範囲で記す。

- 山形市鈴川町「青麻宮」(文化6年)
- 寒河江市三泉「青麻三光宮」(文化6年)
- 米沢市三沢「青麻権現」2基(年号不詳)
- 高島町亀岡「青麻権現」(同上)
- 南陽市宮内町「青麻権現」(同上)
- 河北町岩木「青麻権現」(同上)
- 中山町達磨寺「青麻岩戸三光大権現」(同上)

山形市鈴川町の「青麻宮」は荒井八郎家宅の一隅にあり、石の台座にすえられた高さ1.4mの石碑で今も近所の人の献花がある。かつて1月21日に近所の人々が荒井宅に集って青麻講を営み、年1回本社に参拝し、近年まで続いていたという。

このほか山形市内には2基の石碑があるといい、岩手県や福島県にも多くの石碑などが存在すると聞いている。山形県内ではこれらはほとんど「中風の神」の信仰を集めている。

果して、この青麻信仰の実体は何なのか、なぜ「中風の神」なのか、そして何よりも本稿に関連して「青麻」は「青苧」のことであるのかが関心事である。この青麻神社は、本来穂積なる人物が三光(三神)を祀ったことに由来するが、地名、社名、社紋のいずれにも「麻」が付けられていることは、穂積氏の「麻」(青苧とも考えられる)の栽培伝授に対する人々の感謝の念がそうさせたのではないかと思われる。したがって、この神社は三

神を祀るとともに穂積氏への崇拝の側面もかかえていて、「麻」の豊作祈願及び収穫感謝のための参拝所としての機能を果してきた時期があったのではないかと考えられる。それでは「麻」の信仰以上に「中風防除」の信仰が強まってくるのはいつ頃か、また何故なのか、については本稿では十分な考察に及ばなかった。それは穂積氏自身に関連してのことか、または、三神に併祀されている伊豆伎老翁(堂陸坊海尊のこと)にまつわることなのか、それとも「麻」の成長力と人間の健康にかかわることなのか、いろいろ想像しうるが確証がない。さらに「青麻」が青苧なのか大麻であるのか、宮城県の歴史的な栽培状況を示す正確な史料をもとに今後検討していかなければならない。

7. おわりに

華やかな紅花文化の影に隠れて目立たぬ、山形を物語るもう1つの文化・青苧文化の再認識を迫られたのは、小千谷市で越後縮の青苧衣料に触れた時であった。山形を語るに紅花をもってするのは結構であるが、しかし、それだけで済ますのは片手落ちというものだろう。そういう思いを論理化して文章として再構成を試みたつもりであったが、史料を補う聞き取り調査や実地調査が不足し課題を残した。

今後、青苧を素材とした生活衣料等を発掘し収集していきたい。さらに、現在押し進められている南陽市の青苧関連事業は、青苧文化再生への試みとして大いに注目し協力していきたい。

最後になったが、本稿をまとめるにあたって県内外の多くの方々にご教示を仰いだ。お忙しい中聞き取り調査にご協力いただき本文中に氏名を掲載させていただいたの方々には特にお世話になり、厚く御礼申し上げる。

よる参詣、その報告。幕末へ向けて層の拡大と蓄積がみられるように思われる。なかには同じ儒学を学ぶにもたいして金に余裕があるとも思わない本田新（『研究資料集』第10号）が江戸に出たり、前述の結城亀之助の例もある。彼等は何を志したのであるか。そういつた前段として、田嶋門弟の一人々々をもっと把握したい。武士にとつては剣術は本業でありひとまずおくとして、他の人々にとつて武術は何だったのであろう。単なるスポーツとは考えにくいし、不安な社会状況を反映した自衛防衛的なものか、階級上昇をめざすものであつたらうか。もつとも一つに絞るのは誤りであろうが。そういうことに打込ませる時代とは。

一人でも多くの人が明らかになればと思い、御示教をお願いする次第である。

元山形藩

宿所 第一大区小一区香
宿所 池町三百拾番地養祖父 秋山園右衛門 天
明元年二月家督
養父 田嶋一心 天保九年
十一月家督

元現米拾壹石式斗五升

山形県士族

家禄金三拾壹円拾七銭

生国武蔵国
旧名晴景田嶋 岩尾^印明治四^五年二月十五日、養父一心隠居、家督相続願之通被御申
付候

とある。形式に従って書いたのだからと思うが、一心は前述のように天保九年十一月は家督でなく、新たに取立てられた年月である。なお現米拾壹石式斗五升は三十俵にあたり(19ページ表参照)、一心の俵数を嗣いだわけで、それまでは前記のように二十五俵である。前引伊豆田氏の解説には、明治八年九月七日に従来の現米支給から金高支給に改訂された。その際明治五年から同七年に至る三ヶ年の県内各地の貢納石代相場の平均をもつて定めたが、氏の計算では、一石二円七七銭〇厘六毛余(全国平均四円五四銭)で、県内陸諸藩は同額で極めて低く査定されたとしておられる。(一)内筆者晴正は明治十六年十月三日、七十九歳でなくなっている。戒名は晴勇院一心日正居士、山形市八日町の浄光寺に墓がある。

『庶士伝後編』によつて、晴正は文久二年三月九日岩尾から普天へ、晴景は嘉永五年六月廿八日左武郎から武と改名したことがわかる。そして前述のように、明治三年二月と思われる『山形新旧御渡方』には晴正は普天のまゝに出てくるが、晴景は岩尾の名を襲いでいる。武の名は二年五月と思われる『役寄分限帳』にもそのまゝであるので、改名は明治二年五月から翌三年二月の間で、以後はそのままであったかと思われる。晴正はこれも前述の明治四年正月十二

日に県から剣術師範に命ぜられたとき一心になつていたので、前三年中であろうか。隠居後も一心であり、ただ墓碑名は晴正になつて



田嶋家墓(八日町浄光寺)

まとめ

八幡宮の奉納額の氏名の約四分の一で、ことに武士以外の解明ができていない。江戸後期は庶民の寺小屋・郷学校への入学も普及していく。大人たちの俳諧連などのあつまり、それは趣味や学習でもあり、社交でもあつたらう。点者や同志を募つての俳諧集の出版・俳額の奉納など予想以上の広がりのような気もする。また地方出版もみられる。伊勢神宮・善光寺・出羽三山等への個人あるいは講に

なお文武定日として、文武・筆学・算学稽古は正月十七日に始め、十二月廿日稽古納め。一・六・七節・盆中は休

劍術 三・八・五・十 第八字より十二字迄
練兵 二・七・四・九 第八字より十二字迄

但、格打ハ追而相定候事とある。

十四日には、田島へ稽古道具を渡し、請取書を出させている。士族長等も時々見廻りに出向っている。

なおおもしろいことに、「士族長日記」(『山形市史編集資料』第24巻)

四月十五日 劍術師範田島一心ヨリ、諸藩ヨリ劍術修行人参り候節

ハ、引請試合且旅籠代被下候哉之伺書差出候処、
左之通リ以書付掛ヨリ被相達候事

田島一心窺之儀、諸藩ヨリ劍術修行罷越候節、試合ハ不苦、滞在
中賄等之仕向ハ無之事 (県) 貫属掛

四月廿九日 一、天童藩斧沢平三郎外六名、今日劍術為稽古相越候
旨ニ而、唯今ヨリ試合致候段、教官田島一心ヨリ届出候

一右ニ付撃劍場江石原長(卒副長) 出席ニ相成候事
五月三日 一、柏崎県貫属弓削新一郎劍術修業トシテ相越ニ付、呼入
試合之儀届書田島一心差出、及掛に相達候事

一右ニ付撃劍場江雄倉・拜郷両長被相越候事

六月廿七日 一、前橋藩三隅五郎為劍術稽古来候ニ付、呼入試合之儀
田嶋一心届出ル、依之秋元長・拜郷長其場江被相越

田嶋の伺は旧藩時代の慣例をもとに伺ったのであろうが、賄・宿泊はことわられている。藩によっては宿泊施設のようなものが設け

られていた藩もあつたようである。士族長等が立合っているのは、
トラブル予防であつたろう。

明治五年正月十四日 一、練兵世話方・撃劍世話方・鼓手喇叭世話方
之面々、今般解兵ニ付不及心得候旨、当より相達候様掛り秋元鉄八
より達有之、則銘々呼出シ相達候事

一松野尾才蔵(練兵師範)・田嶋一心出頭之上、今般解兵ニ付、練兵
撃劍教官差免候旨、当用掛り方各通御書付被渡候

と、徴兵制度への転換がなされる。廿九日に一心は稽古道具を返納
している。十七日から文学・算術・筆学は開業している。ところで、
前年十一月二日に第二次山形県が成立したためか、前述の田嶋等を
含む諸手当が十一月分から出されていないので、このあと延々と窺
いを出している。

六月廿五日

一、元武術教授方水野源冷外十八名(練兵十一名、劍術五名、鼓手・喇叭
二名 辛未(明治四)十一月来正月上半月分迄ノ御手当金受取手形調
印差出候ニ付、永(緒川)加印出納課村山権少属へ差出候処、公金
三拾式円五十銭可相渡証書被相渡候ニ付、同局元帳へ永調印ニ而受
取、松野重次郎(鼓・喇叭)江相渡し、佐藤利兵衛方ヨリ引換正金受
取候様申聞候

と半年ぶりに解決している。

二月十日 田嶋一心は隠居願を出し、二月十五日岩尾が家督してい
る。文化二年正月廿日生まれて六十八歳と思う。岩尾は天保九年二
(一八〇二) (一八三八)

月廿八日生まれて三十五歳のはずである。

明治十年(二月カ)『元山形藩家禄金簿』(『山形市史資料』第65号)

定禄等級表 (明治3.2)

等級	禄高	俵数		石高	
		俵	石斗升合	石斗升合	石斗升合
上等士	1	1,300~300	50	18.750	18.750
	2	300末~200	45	16.875	16.875
	3	200末~150	40	15.000	15.000
中等士	4	150末~100	35	13.125	13.125
	5	100末~50	30	11.250	11.250
下等士	6	金14兩.3扶 ~金8兩.3扶	25	9.375	9.375
	7	6兩.3扶~2扶	22	8.250	8.250
上等卒	8	15俵.2扶以上	18	6.750	6.750
下等卒	9	15俵.2扶未満	15	5.625	5.625

(1俵は3斗7升5合)
『山形市史資料』第65号 伊豆田忠悦氏解
説 等級は川瀬

宋書 拾五人扶持
部屋住減渡五俵引
宋書 此米式拾五俵式斗六升二合
一、定禄 式拾俵 増五俵壹斗四升八合 田嶋 岩尾
宋書 拾向三人扶持
此米拾四俵式斗式升七合
伊豆田忠悦氏の解説の中の表をお借りすると、次のようである。
なお、一俵は三斗七升五合であり、一等から三等迄を上等士、四
等・五等を中等士、六・七等を下等士、八等を上等卒、九等を下等
卒とわけている。ほかに職禄もあるが田島父子にはついていない。

注 『山形市史資料』第65号解説
勘定方の帳面だからであろうが、朱書でもとの禄高と米換算高が
書いてあって、定禄の下に新旧の増減が書かれている。晴景の右傍
に部屋住であるので本来の定禄二十五俵から五俵減じた旨を書いて
いるが、一定しておらず三〜五俵減の人もあり、寄合小普清などの

無勤者は無勤減渡式俵引などとある。一方家族の多さによるものか、
飯米不足に付〇俵〇斗〇升などというのもある。

新しい体制で発足して間もない明治三年五月八日、藩地の上知を
命ぜられ代地は追って沙汰と下った。七月十七日忠弘は近江国浅井
郡朝日山藩(後称)知事に任じられ、藩からは約五十戸赴き、他は山
形県貫族となる。九月二十八日山形県が置かれる。従って山形藩の
称呼も廃せられている。田嶋家も山形に残った。

戊辰戦争終了後山形県になる間、文武の修業は『要録』(前世の中
にぼつぼつみられるので、平時ほどではなくとも継続していたよう
に思われる。

明治四年正月十三日文武開業の式が第八時より文武館で行われる。
学校は聖像ヲ掛、神酒ヲ備ヘル

演武場は武神(武壘髓命を中央に大己貴命・経津主命)ノ軸ヲ掛、神酒
ヲ備ヘル

但、練兵も同所同断

貫属掛・士卒長副等侍座、床ニ掛有之聖像并ニ武神ヲ拜礼、畢而拾五
歳已下は御備之煎餅拾ツ、十六歳已上は神酒・折・鯛被下また、
太田少参事持参の申渡を川澄が朗読する。

前日の十二日文学訓導に十名(内卒四)、筆学世話に三名(内卒二)、
田島一心が剣術師範、内藤政次郎が算学師範に命ぜられている。廿
三日には、京極卓爾(額24行)、松本平学、田島岩尾(猪十郎額74行)成
田泰治の四名が剣術稽古世話役を命ぜられている。廿五日に、一人
一ヶ月ニ金壹歩、田島師範には一ヶ月壹両ツ、手当を下されること
になる。

藤懸貴博(算岳)(百石)三子、嘉永四年辛亥十月廿四日晴正か養子、安政三年丙辰正月十一日十九歳、中扨従、八両及三口、四年丁巳十二月左武郎与改、五年戊午六月廿八日武与改、六年己未三月十九日劔術修業中謹慎宜、業も上達より金五百匹、元治二年乙丑五月十一日増二兩 以後記載がない。

なお、藤懸家兄弟について記すと、長男仲貴重が文久二年三月に家督し、二男牧太貞勝は文久元年五月廿九歳で松野尾勝強の末期養子になっている。

以下の記載は、父子一緒にみていきたい。
つぎに、文久二年三月の『分限帳』(注1)には、

劔術師範役

拾貳人扶持 田島 岩尾 普天と貼紙、庶士伝の改名と一致

御中小性 五番下 八両三人扶持 田島 武

『慶応度山形藩臣分限帳』(注3)には、(慶応二年五月ちよつと前と思われる)

劔術師範役

一 拾五人扶持 「天保九戊年ヨリ」 田嶋 普夫

一 拾五人扶持 「元治元子年ヨリ」御取次兼 江戸 齋藤 源吾

一 八両三口中扨従 衣服料 金三両 田嶋 武

文久のは山形のみであるが、これは江戸詰もある。なお天保九よりとあるのは扶持のことではなく、劔術師範役についた年である。

齋藤源吾 劔術師役になったのは、『庶士伝後編』によれば、前述のように安政四年丁巳閏五月六日であり、元治元年は取次を兼務するようになった年である。なお、前述のように、齋藤一郎とは別家である。

注1 『山形市史資料』第51号 山形藩各氏に分限帳

注2 水野藩は御馬廻・御中小姓・下立は、戦闘時騎馬部隊であるので七番に組んである。

注3 『山形県史』近世史料3

戊辰戦争前後の記録には見当たらない。『役寄分限帳』(明治二年五月(注1)、(注2)、(注3))
『山形市総務課分室撮影写真』には、

師 役

一 高百五拾石 元治元子年当役 植術師役 木村 兵左衛門

一 拾五人扶持 天保九戊年ヨリ 劔術師役 田嶋 普夫

一 拾五人扶持 元治元子年当役 劔術師役 齋藤 源吾

中扨姓

一 金八両三人扶持 安政三辰年ヨリ 田嶋 武

明治二年六月二九日版籍奉還、藩主忠弘は山形藩知事に任命され水野参介が大参事になる。奉納額を書いた井上俊人は権大参事の一になる。

明治三年三月三日山形藩々治職制が発表される。印刷物には、明治二己巳年十月とあり、『丕揚録』には、「明治二年十二月廿七日藩制改正出来、依テ取調簿九冊并絵図二葉太政官へ進達セラル」とあり、「明治三年二月朔日藩政改革ノ事ヲ藩内へ発布ス」とある。山形では「職制等級定禄職禄改正布令」が三月三日のこととしている(『要録』『山形市史編集資料』第20号)、『山形新旧御渡方明細帳 御勘定所』(東京都立大学附属図書館「水野家文書」山形市総務課分室撮影写真)がそれにあてはまると思われる。

一定禄 三拾俵宛 増四俵壹斗壹升貳合 劔術師範 田嶋 普天

○初代平太夫政重 中坊美作守家に倚居、寛文九年己酉四十八歳、
湯川源太夫執奏、宇頭士に准八口、十二年壬子正月十一日百石騎士、
元禄十年丁丑二月六日死

○二代平助政武 先主松平平人正兒扈從、寛文九年十九歳父と共に奉
仕、兒扈從八両及三口、十一年辛亥元服中扈從、延宝二年甲寅六月
菅生川満水渉るを以、俸を没収し父にあづけらる。三年乙卯五月赦
奉仕こと如故、元禄十年四月十一日遺跡百石、騎士、享保五年庚子
四月十三日因願隠居、子之禄内廿石給、九月六日圓信と改称す。十
二年丁未十二月五日岡崎に死

政武には子がなかつたので、弟(政重四男)を養子としたのが園右
衛門政友で、この人のとき五十石加増になるが病気で加増分を辞退
している。とんで、晴正の父について記す。

○園右衛門晴時 千葉政盛二子 初仲之助、明和六年己丑四月十一
日稲垣正光か養子、九年壬辰十月四日中扈從、安永四年乙未十二月
廿三日養家離縁、改而歩士、五年丙申正月廿一日逸平と改、天明元年
辛丑二月九日政真末期願により遺跡無相違騎士、四年甲辰七月廿三
日園右衛門と改、六年丙午六月朔大納戸奉行、八年戊申五月廿一日役
料三口、寛政六年甲寅十二月十五日船奉行、役料増二口、宗旨・公
役奉行兼、十年戊午十月十八日目付、船奉行兼、役料五十苞直、享
和元年辛酉正月十五日精勤を以銀一枚、八月廿四日精勤を以金五百
疋、三年癸亥正月十三日旧知五十石(百五十石になる)、役料止、七月
六日精勤を以金二百疋、文化二年乙丑五月七日浦山奉行兼、三年丙
寅七月廿八日船奉行并兼勤を免、浦山奉行専心得、是迄精勤を以御
服、十一月廿日役料五口、十二月十九日精勤を以歩頭列、五年戊辰

五月十日物頭順位、八月四日吟味役兼、浦山方を免、六年己巳四月
四日郡奉行、足五十石、筆紙料並之通、十二月廿六日先役中精勤を
以銀一枚、九年壬申七月廿二日公儀御役人通行により、精勤を以御
服・銀三枚、十年癸酉四月十五日物奉行順位、九月廿一日死

ついで、晴正兄晴吉について

○園右衛門晴吉 晴時子 初平太郎、文化七年庚午十一月朔扈從、
十八日叶と改、九年壬申八月廿六日表扈從、十年癸酉十一月廿三日遺
跡無相違騎士、文政十年丁亥五月廿八日園右衛門と改、安政二年乙卯
十月廿四日依願隠居二十石、十一月廿四日束髪、姓名小倉乗心と改、
補足すると晴吉は寛政七年十月九日生、明治七年十月十二日死亡し
ている。(語尾に、「任ず」「命ず」「賜う」を補って読む必要あり。)

注1 宇頭士 三河碧海郡宇頭村。二代藩主忠善は新田開発に熱心であり、岡崎
藩時代渥美郡高足村・長良村、宝飯郡大塚村とともに、藩士在郷、すなわち擬
制的地方知行制をとり、藩財政の軽減をはかるため新田士を配置し開発に出
精させた。

注2 宝曆十二(一七)年九月晦肥前唐津へ転封。文化十四(一七)年九月十四日
遠江浜松へ転封するまで唐津時代

注3 財政負担の軽減と人材登用を目的とした。郡奉行の役高は二百石であり、
秋山の家禄は百五十石で、差額の五十石をその在職中に限り支給した。

注4 水野藩の隠居料は家禄によって額がきまっており、家禄から隠居料を差
引いた額が家督され、死後隠居料も家督料へ加算。

田嶋家

晴正は、晴景を養子に迎えることになる。

○田嶋猪十郎晴景(庶士伝後篇) 掲額74行

りて苦難に陥つたが、そのために苦情を言ひ又は夫れか為め暇を取りたるものもなく」と書いている。実情は時々憤み、閉門を命ぜられることもあり、出奔も時にあつたが、生活の苦しい中で励んでいたためであらう。当時の不安な社会情勢も反映していた緊迫が作用したかも知れない。

四、田嶋家について

ここで、ふたたび田嶋家にもどつてみたい。

前述のように、田嶋岩尾晴正は秋山晴時の二子であるから、『丕揚録』によつて、本家の秋山家のエピソードを記してみる。

秋山家

丕揚録 卷之六（北島正元『丕揚録・公德辨・藩秘録』）

一、秋山平太夫政重ハ甲州ノ秋山伯耆守晴近（信友）三世ノ孫也、鉄性公ノ時（二六六九）寛文九年八人扶持ニテ宇津土召出サル、此コロ新ニ召抱ラレ禄二百石ニテ馬廻勤メタル牧野喜右衛門、武芸ニ達シ力量モスクレタル者也ケルガ、公ノ思召ニ応ゼザル儀アルニヨリ平太夫ハ御書付一封ワタシ給ヒ、是ヲ喜右衛門ニ拝見イタサセ、申訳ナキニ於テハ其方井俸兵助エ被仰付候間、討取来ルベキ旨命ゼラル、喜右衛門、倘（なほ）刃向タル節ノタメトシテ渡辺段右衛門・間野三右衛門・大道寺源内三人ヲ差副ラル、平太夫俸兵助ニ云フヨウ、其方未ダ年若也、若キ時ハモノ前ニテ必セキアゲテ勝負仕損ズルモノ也、必ハヤマルベカラズ、父ガ老功ニテ能頃ニ先ヲウツベシ、其時ニノ手ヲ可仕ト堅ク教訓セシ也、カクテ平太夫父子喜右衛門宅ヘコシ件ノ御封書ヲ披キケレバ、其趣ニハ、第一先主ノ事ニテ身上之儀付虚言申候事、第二引

越ノ儀ニ付虚言申候事、第三武芸ノ事ニ付虚言申候事、第四中世古左助ヲ悪口申候事、第五江戸へ於罷越ハ妻子大坂へ遺置度ト申候事、此段申渡シケルニ喜右衛門一条ノ申披（まが）ナシ、コノトキ、跡ニ続居タル兵助（案）如クセキアゲタレドモ父ガ教ヲ守テ押沈メントセシカドモ胸ノ間サケルヨウニ覚ヘタマリカネ喜右衛門ヲ切付タリ、其間遠クシテ切先ハツレニ頬先ヲ切ハツリケル、喜右衛門心得タリト飛ビサリ脇差ヲ抜払フ、是又間遠クシテ兵助ガアバラヲ払トイヘドモ薄手也、喜右衛門脇差ヲ抜払フ間へ平太夫脇差ヲ抽飛込テ喜右衛門ヲエグリ倒シタリ、若党共刃向ハントスル処、差副ノ者欠付御意ノ旨申聞オシトドメヌ、寛文十一年八月十一日ノ事也、翌日平太夫エ御褒美トシテ銀十枚、兵助政武へ銀五枚下サレ、翌年正月平太夫へ新知百石ヲタマフ、此頃ハ討者ト称シ罪科アル者ハ武勇ノ士ニ命ゼラレ（騙）離シ討ニシタル事時々アリケルトゾ（不易録・御当家小日記）

同書注に『甲斐国志』卷之九十六、「秋山伯耆守信友」には「秋山氏ハ親族部ニ所記、秋山太郎光朝ノ後裔世々武田氏付庸ノ豪家ナリ、秋山夫人碑陰銘ニ云、信友ハ秋山新左衛門信任之長男ナリ、軍鑑ニ天文十五年拳伯耆守士隊将トス、明年晴信（信玄）伐伊奈郡止伯耆守所定ノ地ヲ衛ラシム、弘治二年伊奈悉ク平キ伯耆守居高遠城、当郡ノ地土合属式百五拾騎ニ将タリ」とある。元龜元年美濃国岩村城主遠山氏の後家（織田信長の叔母）を娶りその城主となつた。天正三年十一月、信長・信忠に居城を攻撃され降伏し、長良川原で磔に処せられた。四十五歳（一）は原文、（二）は筆者

水野家へ仕えた初代は、前出平太夫政重である。以下『庶士伝考異』と『庶士伝後編』から拾つてみる。

上町農家結城家の五男亀之助(後四郎・清介)が剣術をもって立身出世をした一念から、十七歳の安政二年正月二日家出、仙台に赴き仙台藩狭川北之介道場へ入門、後に新政府軍務官となり、退官後新津で石油採掘をしている。天保十年二月六日生、明治三十三年十二月二十七日六十二歳で没している。その十四歳(嘉永五年)のところに、(一)内武田喜八郎氏、(一)内筆者

復読書二入ル善キ教師ナシ、家中二入ル(割注)山形藩水野和泉ノ守ト云^(白)終ニ薄井茂兵衛ト云フ人ニ熟懇ス、夫方読書始メ、柔術・刀拔・棒・長刀五流ヲ学ブ、後ニ同藩仕南職田嶋^(指)巖^(岩尾)ノ門ニ入ル、然リト雖モ、家業ノ妨ゲニ相成故不果(山形市史資料)第79号、凶らずも田島の門弟に遇つたが、安政二年は仙台への家出の年にあたり、奉納額には名がのつていない。ちなみに、薄井茂兵衛は、臼井茂兵衛しか思いあたらない。肥後組足軽で、息子の桃溪と同じ組であり、文久二年当時それぞれ五十八歳・三十四歳で、嘉永五年は四十八歳であった。茂兵衛は文久二年六月に没している。ただ臼井茂兵衛が可一郎であれば、これは林家に天保十年に入門、久しく学僕として修業したので三年前の天保七年入門に登録された(『升堂記』)。(『山形市史資料』第51・65号)。

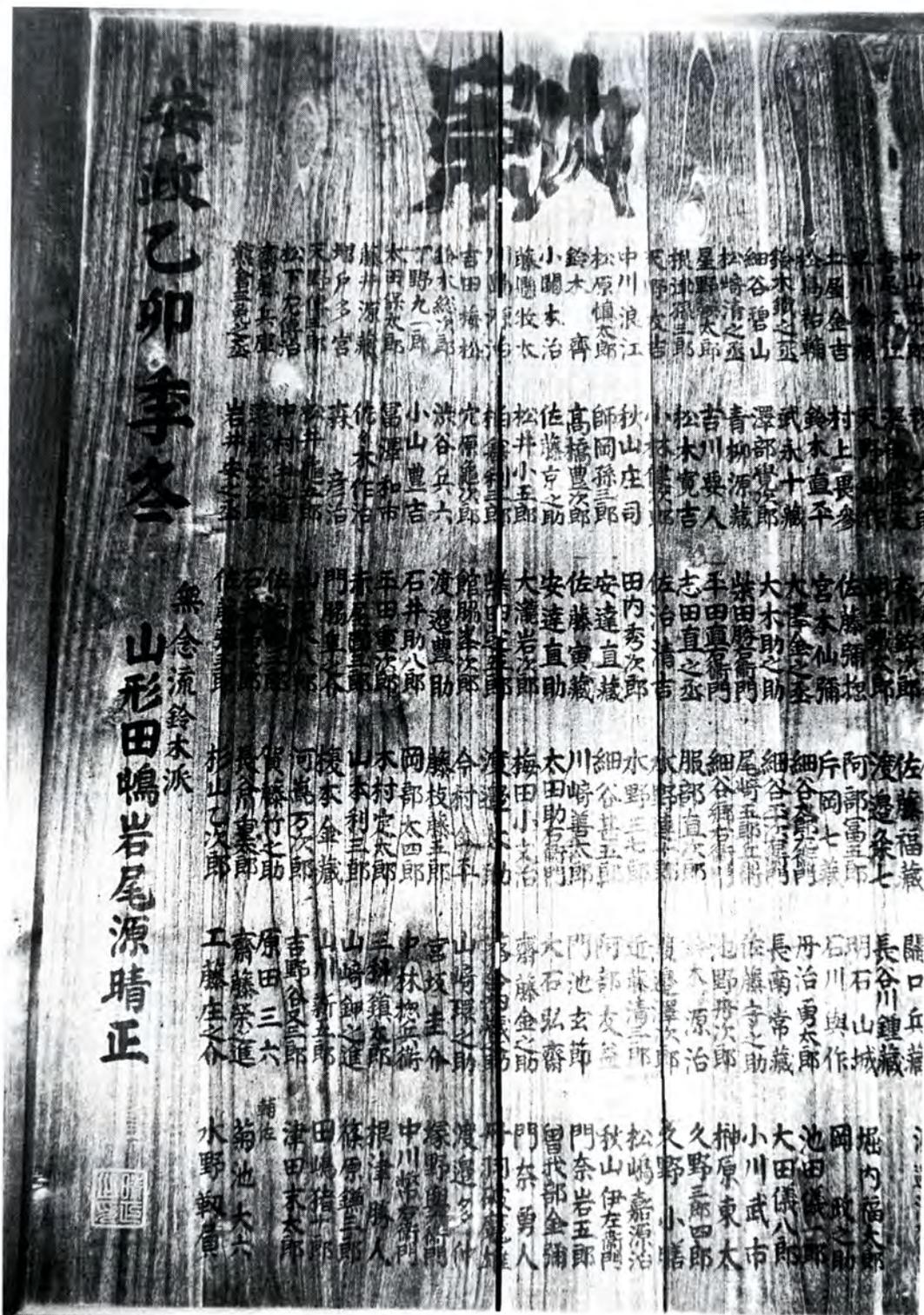
細谷碧山が風翁であること、結城亀之助のことは武田喜八郎氏のご指導によって知った。記して感謝申上げたい。

細谷風翁(碧山)

没年が明治十五年二月十七日で七十六歳であったから、文化四年(一八〇七)生と推定される。地藏町宝幢寺侍宮城家に生まれた。十日町医師細谷玄琳の養子となり、玄達と命名医業をついだ。文政六年十七歳

で家督。医業のかたわら南画を習い、他に書・詩文・篆刻に秀で漢学塾を開き、多くの門人を養い、幕末・明治初年の山形地方文人墨客の中心的指導者として重きをなした。明治維新に際して勤皇思想を唱導し、自邸に撃劍道場を開いて子弟の養成に当たり、上の山藩金子清邦・庄内の豪士清河八郎等と親交があつた。(『山形市史』中巻より要約)

私の管見であるが、忠邦・忠精二人の性格は著しく異なるような気もするが、極めて苦しい藩財政の中で、文武の奨励には大いに力を致したようであり、山形ではとくに面扶持(弘化三〜安政六年まで)という最低の生活の中ではあつたが忠邦に浜松時代鍛えられた人々が、山形では指導的年令になつていたこともあり、將軍家の外戚であるという誇りが家臣を支えたかもしれない。上山藩金子与三郎は嘉永四年山田丘馬(秋元宰介とともに高島秋帆に砲術を学ぶ)に高島流の砲術を学び(『上山市史』)、また、『水野家文書』(東京都立大附属図書館)中に、慶応二年に目付役から藩庁へ出された、文武各芸術毎に出精した者とその指導者の表彰内申書があり、内申通り表彰されたかどうかはわからないが、相当な数の人名があがっている。(郷土館報)に数字だけ発表。その中には太鼓の稽古もあり、慶応四年六月一日天童藩から、「今度西洋銃隊稽古相始め候に付ては、太鼓心得候者無之に付、折々銃隊稽古之節、太鼓打借用いたし度」とたのまれ、月に二・三回貸すことにしている(『戊辰日録』、『山形市史編集資料』第19号)。また、館林秋元藩士塩谷良翰の『回顧録』に「嗣君金五郎(忠精)もさすが先代の子丈けありて中々末頼母しく万事は家老水野平馬の補翼なる由」として、「少禄の者内職として商工の業に就き又は人夫とな



田嶋岩尾奉納額 (左約3分の1)

66小関

本治佐英

佐藤 京之助

安達

直助(介カ)佐英

太田助右衛門

大石 弘斎

曾我部 金弥

藤懸(松野尾)

牧太水10上土23
文久元豊子

松井 小五郎

大瀧 岩次郎

梅田 小文治

斎藤 金之助

門奈 勇人

川島

源泊

柏倉 利三郎

柴田 定五郎

渡辺 太助

落合内蔵之助

丹羽 破魔雄

吉田

梅松

穴原 亀次郎

館脇 峯次郎佐英

今村 金平

山崎 環之助

渡辺 多仲(水9上土)(伝吉彬)

鈴木

総次郎

渋谷 兵六

渡辺 太助

藤枝 藤五郎

宮坂 圭介

塚野與左衛門

71丁野

九一郎坂東組18

小山 豊吉

石井 助八郎

岡部 太四郎

小林 惣兵衛

中川幣右衛門(稲田昌右衛門)文水13上土
文久元改姓名

太田

保太郎

富沢 和市

平田 重次郎

木村 定太郎

三科 鎮太郎

根津 勝人水8上土

藤井

源蔵

佐々木 作治上分7俵2人

赤尾 国三郎佐英

山本 利三郎

山崎 鉦之進

篠原 謙三郎水12上土

増戸

多宮

森 彦治

門脇 隼之介

榎本 金蔵

山川 新五郎

田嶋 猪十郎水6上土18
岩尾豊子

天野

伝三郎上英

松井 亀五郎

山口 大八郎

河嶋 万次郎

吉野谷又三郎

津田 末太郎

76松下

左伝治上分16俵2人
手話

中村 半之進上英

佐治 敬三郎佐英

賀藤 竹之助

原田 三六

菊地 大六上英分
80石旗奉行

齋藤

兵庫水8上土

遠藤 政次郎

石井 富次郎佐英

長谷川重太郎

齋藤 栄之進

水野 鞠負水1上土

熊倉三免之丞

岩井 安之丞

佐藤 弥三郎佐英

杉山 乙次郎

工藤 庄之介

十井上

安政己卯季冬(二年十二月)

無念流鈴木派

山形田嶋岩尾源晴正

印 印

一応探り得た人数を記すと

水野藩

士57名

卒12名

計69名

上山藩

20名

佐倉藩

15名

105名
(467名)

町医師

1名

といった次第で、僅かに四分の一に満たない数字である。

前述の小山松氏の記事の中に、六棧八幡奉納額にもふれられ、門人四百五十三人、高弟二十二人、師範代三人、計四百七十八人としておられるが、私には高弟・師範代についての資料をみつけることが

できないでいる。

士卒以外の神官・医者・町人・農民の中にも弟子がいそうな感じのするのは、氏名から受けるところであり、また全国的な風潮によるものである。細谷碧山一人がわかるのみであるが、碧山自身が自宅に剣術道場を設け門弟をとっている。

桶町大串家の先祖は自宅裏に矢場を造り稽古をしている。墓には、「大串武七墓」とあり、右脇に「朝夕に楽しむ弓の弦もきれ三つ羽の征矢も草の下露 正明」と刻まれ、明治六年四月に没、戒名は良慶院弓譽一心居士とある(来迎寺)。

○ 氏名の下の記号 水Ⅱ水野藩、上Ⅱ上山藩、佐Ⅱ佐倉藩

英は『撃剣英名録』に出てくる意。

○ 水野藩の場合、水の下の子は『庶士伝後篇』の巻数を表わす。

同書によって、家系・家禄・経歴などがわかる。その下の士・卒は士か卒かを表わす。その下の数字は掲額の安政二年時の年令。

卒族は、文久二（一八六二）年三月分限帳（『山形市史資料』第51号）を主にみた。右二冊のほか、「慶応度山形藩臣分限帳」（『山形県史近世史

料3）「元山形藩家禄金簿」（『山形市史資料』第65号）も参照した。

○ 上山藩の分は「明治二巳年 藤井松平氏の分限帳」（『上市市史」中巻）によった意、また同記載の役職・石高も記した。

○ 佐倉藩の陣屋とあるのは、『柏倉陣屋と柏倉村の歴史』（堀正著）による。

なお（ ）内は筆者。

1 拝郷	虎之助	水 1 土 14	伊藤	喜之助	水 5 土 16	服部	欽八	柴田	定治	佐 英	木村	惣助	相原	清輔
山村	鷲次郎	上分 寄合00石	長尾	俊之助	水 11 土 (介カ)	大岡	順次郎	渡辺	富治	佐 英	清水	繁次郎	相原	復平
松平	鎮彦		福田	左太夫	水 11 土	玉造	六之助	三浦	龜次郎		稲村	才助	相原	武二郎
伊藤	主殿		豊嶋	彦太郎	水 1 土 17	伊藤	伊四郎	武藤	菊治		安藤	栄三郎	相原	武三郎
矢口十左衛門			井上	安太郎	水 4 土 19	河野	鉦作	川嶋	三次郎		伊藤	弥三郎	荒木	和吉
6 杉	善之丞	水 2 土	鈴木	伝内		中山	周嘉	安達	直治	佐 18才 戊辰役戦死	岩附	長之助	柏倉	喜代治
岩崎	禎蔵	水 6 土	吉松	善次郎	水 11 土 17	小池	清九郎	結城	隆作		佐藤	丈太郎	柏倉	久太郎
堺	貢	水 1 土	山田	欣次郎		小池	邦之助	中村	良太		山本	七兵衛	佐藤	正之助
板原	郁之進	水 6 土	峯岸	安次郎		朝比奈政右衛門	上分徒頭 一〇人	高橋	曹輔		合田	秀	栗野	齋太
玉野	梅太郎		安田	郁蔵	水 9 土 15	小池	文治	斎藤	源七郎		太村	新兵衛	加藤	良助
11 馬場	利作		篠原	松之丞	水 12 土	中村	雅	榎山	広治		加藤	半兵衛	永蔵坊	隼人
松村	為蔵		岩本	勇		成瀬	直記	阿部	清七郎		原田	彦三郎	設楽	作栄
松村	繫太		山川	鉄之助		石田	忠次郎	志賀丈右衛門			樋口	豊三郎	阿部	菊蔵
梅田	梅太郎		藤倉	熊蔵		玉造	権十郎	中山助右衛門			垂松	藤兵衛	高内	利作
辻	房吉		井上	富之助	水 6 土 10 (山川(安政四寛子)	奥山	良作	小山	善蔵		丸尾	勇之丞	外川	喜三郎
16 筒井	七郎		伊藤	与之助	水 2 土 14 (安政三寛子)	柏倉	庸之助	佐藤	大学		関川	民之丞	阿部	政吉
美馬	大蔵		高宮	熊次郎	水 7 土 17	山川五郎次郎		大山	貞治		福嶋	平蔵	堀米	主税

三、八幡宮奉納額について

奉納額は極めて大きなもので、拜殿外陣内東側に掲げられている。たて約一九七cm、よこ約三八〇cmである。上辺に奉納と横書がある。

前文 我無念流鈴木派之刀法盛於古而衰於今今則以江都之大

唱斯術者独不過一宮先生等數輩而已迨我 公大振文

武業斯派亦隨興予以庸材劣技謬辱劍師之任而予乃受訣

一宮先生善於是乎鈴木派再盛焉我 公之振厲文武日

新弗已如旭日之升則斯術之日盛亦將如風雲之勃興也因

録予受業弟子之姓名揭諸該祠之堂楣亦聊祈斯術之日盛

以庶幾乎報 君恩之万一焉耳 井上俊人敬書

私なりに読みとると、

我が無念流鈴木派は、以前は盛んであったが今は衰えている。今大江戸にあつても、この派を唱えるものは一宮琢磨先生はじめ数人に過ぎない。わが藩主忠邦公が文武を奨励するにおよんで、この術もまた興つた。私はあやまつて劍術師範にとりたてられた。一宮先生に訣れ師範の任についた。そのためか鈴木派がまた盛になった。

我が君忠邦・忠精公が文武を振厲（ふるい）さむ・あるいは厲は勵カ）すること日に新たに旭日ののぼるようによむことがない。それで斯術も日に盛んになり、風雲がわきおこるようである。そこで私に業を受ける弟子の名を録して、祠堂ののきに掲げ、斯術の日に盛んになることを祈り、また君恩の万分の一に報いんとするものである。

こんな意味であろうか。井上俊人は水野藩士で江戸勤めが主である。明治三年権大参事になつてゐる。井上は書を頼まれただけであ

く、田嶋の江戸時代の弟子かと考え数の中にいれた。

まず、四六七名（井上俊人を含む）という膨大な人数に驚かされる。水野藩の剣術は前記のように流派がいくつもあり、自藩自体全員というぐあいにならない。「勤書」によつて上山藩に出稽古していることがわかつており、自宅では神官・町人・農民にも教えたとも予想されるが、具体的には把握できない。今回『撃劍英名録』によつて佐倉藩分領にも弟子のいることがわかり、氏名をつかむことができた。分領であり人数も少く、上山藩と一緒に稽古したものか自宅で稽古をつけたものか判明していない。三月十五日の演武教場は柏倉陣屋のような感じであり、三月十八日の上山藩の場合は場所が書いてなく、同日の佐倉藩も同所に於てということではつきりしない。

後掲のように、安政二年三月というびつたりの分限帳は見当らない。また昔の人はよく改名をするし、二男以下は養子にでもいけば分限帳に出たりもするが、役職につかない限り名を拾いにくい。姓からみてこの藩かなと思われれるものもあるが、推測は推測に過ぎない。発表することによつて多くの方に教えて頂きたいものと思う。また同姓同名もあり子孫の方から田嶋の弟子である書証でも示されない限り、やはり可能性の問題かも知れない。例えば54行の柴田勝右衛門は、佐倉・山形両藩に出てくるが、山形藩のは文久二年の改名後の名であり、今のところ佐倉藩と考えざるを得ない。

以下 田嶋門弟の名を掲げる前に、

○ 一番上の数字は行数をあらわす。但し、煩わしいので五行おきにし、『撃劍英名録』などとの関連づけを考えた。

一 毎月二七之日、経誼館内稽古場ニ而、諸流共寄合剣術稽古仕候
 一 御沙汰ニ付、当時松平中務少輔様御藩中江、剣術為稽古毎月五・十
 之日罷越申候

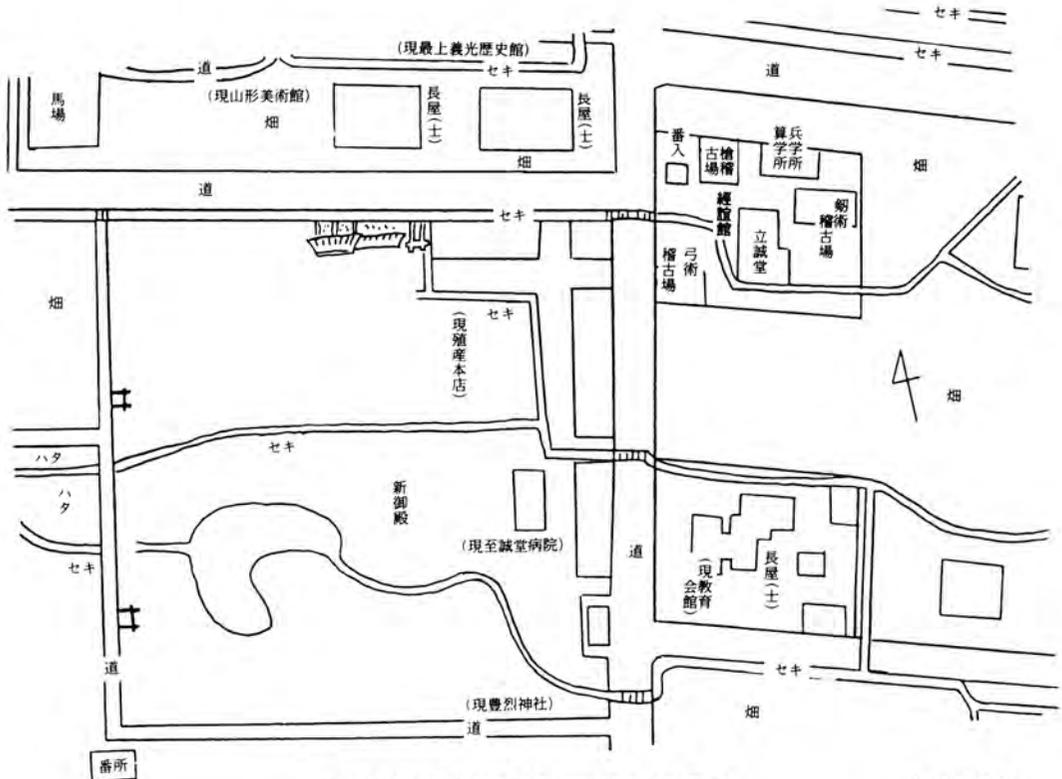
一 変儀之節者、新御殿江相詰申候

右之通御座候 以上

嘉永三年戊十月

田嶋 岩尾

この「勤書」は嘉永三年十月に出された、大目付以下諸役人の勤役内容を書上げたものである(東京都立大学附属図書館蔵)。これによれば、一つは自宅で毎日家中の士、足軽等に指南している。また毎月二・七のつく日六日間は、藩校経誼館の中の剣術稽古場(図)で諸流派と一緒に稽古をする。つぎに、藩主の命で上山藩中に、毎月五と十の日(月六日)出稽古をしている。それに、他の役にも共通しているが、火事などの非常の場合は新御殿(藩主邸宅と藩庁)現殖産本店・至誠堂・豊烈神社・興立病院)に詰めること(立誠堂へは儒者が詰める)になっているという内容である。従って六棧八幡奉納額(以下掲額と略す)の氏名には、水野藩の士・足軽と上山藩士がでてくることは予想できた。



『水野時代城下絵図』部分(武田喜八郎氏蔵)

(川瀬模写)



勤書

三より金三百疋、文久二年壬戌三月四日出府、精勤を以上下、九日
 普天与改、十二月十二日薬師河原茶店^三而、新井田治右衛門一席^二而
 酒食いたし、治右衛門酌酩之上手荒之所行候ハ、取斗方可有之
 処、無念之旨を命す、三年癸亥十二月廿五日増三〇

晴正は秋山家(一五〇石)の次男であつたから、他家に養子にいく
 か、一生を厄介として送るかであつたろうが、藩主水野忠邦は青雲
 の要路と称した大坂城代を経て、京都所司代から西丸老中になつた
 のは文政十一(一八二八)年であり、本丸老中は天保五(一八三四)年
 三月であつた。忠邦は綱紀の肅正とともに文武の奨励を行つた。時
 期などはつきりしないが、晴正が忠邦の前で試合をし優秀であつた
 ので取立てられたと伝わっている。庶士伝に「劍術熟練するを以つ
 て、士分並で劍術師範、十二口(二口は一日米五合、二口で一升、一年
 三五〇日で三石五斗、十二口で二十二石)であつた。

神道無念流(『日本史総覧』により抜率)

福井兵右衛門嘉平―戸ヶ崎熊太郎暉芳―松村源六郎士鳳―秋山要助正武
 初川上善太夫 号知道軒



つぎに「勤書」をみると

勤書(劍術師範役)

一御家中士輕門人共日々宅^二而劍術稽古仕候

- 一刀流原 ^(昇カ) 登門人
 原 ^(準カ) 逸雄 加藤小源太 加藤 寛三 ^(造カ) 川部雄次郎
 東武 心形刀流伊庭軍兵衛門人 阿州藩松岡 操
 5/2 庄内藩 (鶴岡市)
 納 健治門人一人、酒井七五三之助門人一七人
 5/25 村 (上) 藩 (新潟県村上市)
 杉田新右衛門 門人 三人、青山国太郎門人 三人
 5/27-28 新発田藩 (新潟県新発田市)
 男谷派直心影流師範窪田隼三郎 世話役三人 六六人
 ^ノ出席七一人
 同藩直心流 世話役三人、五三人 ^ノ出席五八人
 6/12-7/12 佐渡 相川 (幕領 代官所 | 相川)
 北辰一刀流千葉周作門人 五四人
 武術仮道場相川四丁目驛誓寺ニ於試合 当時取立 二人
 7/22 三根山藩 (新潟県西蒲原郡巻町)
 鏡新明智流 七人
 直心影流 川口平蔵門人 七人
 7/24 長岡藩 (新潟県長岡市)
 神道無念流 吉田何右衛門・篠原路九郎門人 五七人
 於精兵館試合
 9/26 安中藩 (群馬県安中市)
 荒木流根岸和太郎・同 忠蔵門人 二五人 内弟子四人
 於造士館試合

9/27 七日市藩 (群馬県高岡市) 九人 於成器館試合
 以上であるが、前出『清川八郎』によると、六月十一日に江戸に到着、お玉ヶ池に「経学・文章・書・剣指南」の看板をかけた道場を設ける準備に入ったことになっている。右では佐渡滞在中の日ということで、長岡藩と安中藩の間が二ヶ月もあり、ここは出なおしたことも考えられるが、今回のねらいとは直接関係がないので、とくに調べなかった。

二、田嶋岩尾晴正について(1)

『懐堂日曆』⁵ 天保九年十一月二十九日の項に、○田島武助、浜松家中、齋藤一郎、十二人扶持、二人ともに剣客、とある。田島は十一月十日に、齋藤は十一日に取立てられている。ただ、この齋藤は嘉永五年四月に中扈従になり、安政三年十月六日に死んでいる。後述の齋藤源吾は別の家で、安政四年閏五月六日に剣術師役になっている。

注 松崎懐堂(一七七一〜一八四四)江戸末期の儒者、蚕社の獄では門人の渡辺華山の赦免に尽力、水野藩では塩谷岩陰等が師事。

ここで、『庶士伝後篇』によって田嶋晴正について概観しておく。

田嶋 岩尾 晴正

一 秋山晴時二子、初武輔、天保九年戊戌十一月十日、剣術熟練するを以、給人列ニ而剣術師役、十二口、十年己亥三月十一日岩尾与改、十三年壬寅四月廿九日取次兼、衣料金四両、肩衣免、十四年癸卯十二月廿七日取次兼止、弘化三年丙午九月七日山形ニ移、安政元年甲寅九月廿五日諸事心懸宜、且実母仕方行届、門弟引立方宜

山口栄吉義勝	柴田藏次郎一政	吉野経次郎恭朋
津田平吉為勝	戸所大介芳一	山田友助正虎
志村金太郎政行	坂本百六則寿	山田仙太郎正隆
塩谷軍蔵周幸	藤野貞治近二	名木橋徳治幸光
島 三八郎広則	戸所兼吉芳虎	鈴木友治吉久
吉田桂次郎正安	山田右輔義昭 <small>英</small>	渡辺蔵太郎綱行
塩谷国三郎周光 <small>英</small>	塩谷専蔵秀明	日下幸三郎幸貴
塩谷銀治隆郡	塩谷慶三郎周吉	桑原源輔正重
遠藤重蔵胤広	鈴木長兵衛祐利	
島 小吉広義 <small>(共通)</small>	桑原雷之進正義 <small>(千戦の源枝郎カ) 英</small>	
世話 小河與八郎寛則 <small>(共通)</small>	渡辺良右衛門正恭 <small>(共通)</small>	
石川熾五郎盛虎 <small>(共通)</small>		
安政五年歲次戊午七月吉日		
奉約 秋元但馬守内		
大久保鼎一貫門人		
劍術千戦自鶏鳴到于黄昏		
安政三辰十一月 四日	八百六拾五戦勝	森 精一郎弘義
同 十二月十三日	八百三拾七戦勝	布施重五郎恭隆
同 同	八百式拾七戦勝	島崎茂一郎貞一
同 同	八百式拾七戦勝	吉田新七郎義茂 <small>英</small>
同 十一月 廿日	八百拾八戦勝	山田安助高義 <small>英</small>
同	八百 七戦勝	尾花源四郎貫通

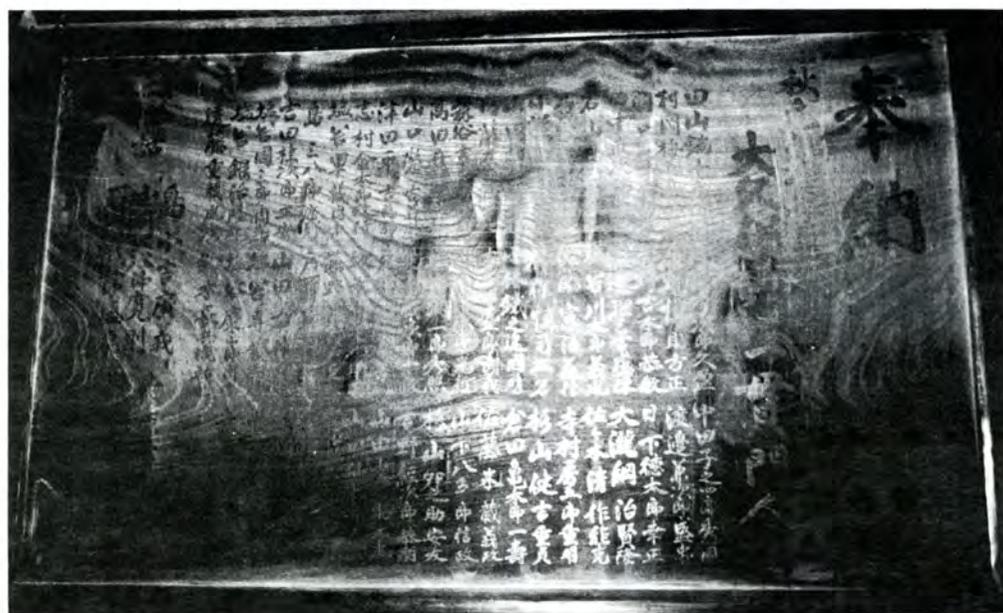
同	同	八百 四戦勝	鈴木恒次郎正寿
同	同	七百七拾戦勝	小林銀次郎言従
同	十二月十三日	七百六拾壹戦勝	井上亀作政龍
同	同	七百五拾八戦勝	橋本廣治武昆
同	同	七百四拾九戦勝	桑原源枝郎正義
同	十一月 廿日	七百三拾三戦勝	高木鉦一郎定政 <small>英</small>
同	安政四巳十二月廿一日	七百三拾三戦勝	峯岸重次郎昌成
同	同	七百三拾三戦勝	小林鍊之助言義 <small>英</small>
同	十二月十三日	六百八拾式戦勝	森 助七郎弘義
同	十二月廿一日	六百八拾戦勝	柘野熊之助忠明
同	同	六百七拾七戦勝	岩井金七貞義 <small>英カ</small>
同	十二月十三日	六百五拾九戦勝	鈴木恒次郎正寿 <small>(前出)</small>
同	同	六百五拾戦勝	布施重三郎恭隆 <small>(前出)</small>
同	十二月廿一日	六百三拾六戦勝	野邑廣治武昆
同	同	六百 八戦勝	小河與八郎寛則
同	同七百戦自鶏鳴到于黄昏		
安政五年 三月廿八日	四百八拾六戦勝	小林銀次郎言従 <small>(千戦に出)</small>	
同 同	四百四拾三戦勝	嶋崎茂一郎貞一 <small>(千戦に出)</small>	
同 同	參百六拾四戦勝	佐藤林三郎重信	
世話 島 小 吉広義		小河與八郎寛則 <small>(千戦に出)</small>	
石川熾五郎盛虎		渡辺良右衛門正恭	
安政五年歲次戊午七月吉日			
さて、ふたたび『英名録』にもどって			
3/26 天童藩(天童市)			

八戦勝の小河与八郎まで二一名と、同五年三月二八日七百戦自鷄鳴
 到于黄昏の四八六から三六四戦勝の三名(二部重複)がのつている。
 大久保鼎は清川と同じ北辰一刀流千葉周作の相弟子である。塩谷良
 翰『回顧録』には、精悍能く撃剣の門弟子を督励、時々他藩へ試合
 にまわり、大に武名を震^(振)いたりとある。『英名録』に出てこないのは
 館林詰にでもなったのであろうか。氏名の下に門人としたのは、鼎
 門人額にある意であり、年月日と何戦勝の方は千戦の方の額にのつ
 ていることを示す。両額同士では世話人以外重複はない(額別掲)。
 わずか一年たらずの違いであるが名前があわない。転動ばかりで
 なく、改名・養子なども考えられる。額をうつすと
 奉納

秋元但馬守内別邑高榊陣内

大久保 鼎 一貫 門人(氏名下の英は『英名録』にてくる)

田山 鍋十郎 通明 英	片桐 弓次郎 久盈 英	中田 子之四郎 秀国
村岡 梅五郎 正兼 英	永野 慎助 方正	渡辺 兼次郎 盛忠
関口 鋭吉 親世	吉野 吉太郎 恭敏 英	日下 徳太郎 幸正
田中 直次郎 義明 英	渡辺 理之吉 盛陣	大滝 綱治 賢隆 英
石山 六郎 正一	塩谷 川太郎 義胤	佐々木 清作 能克
森谷 左一郎 信忠 英	佐藤 寅治 義信 英	寺村 房五郎 重明
小沢 駒之丞 永綏	神保 慎司 正名	杉山 健吉 重貞
山田 金助 正輝	小林 鉄之進 国晴	倉田 亀太郎 一寿
内藤 甚一郎 幸知	喜多 村虎五郎 武義	佐藤 米藏 義政
森谷 吉三郎 親義 英	外丸 清次郎 光行	山下 八五郎 信政
高田 彦松 之信 英	塩谷 弥一郎 秀照	杉山 卯之助 安友



秋元藩奉納額

為沢(高津カ) 甚内(鹿カ) 安政4・正・11 歩士 六兩二口
安政4・正・11 歩士 六兩二口
安政6・正・11 歩士 六兩二口
安政6・正・11 歩士 六兩二口

矢島 維丞 安政6・正・11 歩士 六兩二口
安政6・正・11 歩士 六兩二口

水野 豊之進 安政6・正・11 歩士 六兩二口
安政6・正・11 歩士 六兩二口

伊藤 沖之丞 安政4・正・11 歩士 六兩二口
安政4・正・11 歩士 六兩二口

伊藤 蔭之助 安政5・正・11 中應從八兩三口
安政5・正・11 中應從八兩三口

根崎 哲之助 安政6・12月杉原へ糞子カ
安政6・12月杉原へ糞子カ

水野 治部 近習 二〇〇石
安政5・正・11 後三郎右工門元直
元直元; 3・23家老

岡野 半多衛 小普請八兩三口
安政5・10・24 八〇石

水野 藤五 應從 八兩三口
安政3・4・9 二五〇石

京極 卓爾 中應從八兩三口
安政2・正・11 一五〇石

山中 司馬 騎士 八兩三口
安政3・5・16 二二〇石

小林 栄 中應從八兩三口
中應從八兩三口 一〇〇石

木島 朱之助 大場助左工門廻
木島米之助カ 文久2・4・24暇

志賀 幸内 中應從八兩三口
中應從八兩三口 二〇〇石

右著 田島岩尾於稽古場試合 一八人 32 浅右工門子

3/15 佐倉藩 (堀田分領、山形市柏倉に代官所あり)

大立身流 佐治清吉門人62注 以下氏名下の数字は八幡掲額の氏名行数

大瀧與四郎 大滝勇三郎 山口新八郎 白井直太郎

佐治 勇吉 大宮 源治 奥山吉太郎 平田 熊蔵

三浦 恒吾 渡辺 富治2 柴田 定治1 箕輪分治郎

佐藤彌三郎5カ 赤尾国三郎73 佐治敏三郎76 安達 直介66

佐藤 寅蔵65 宮本 仙彌56

於演武教場試合

柳剛流岡田十内門人 仙台藩泉保 前日於演武場試合

3/18 上山藩 (山形県上市市)

羽州山形藩田島岩尾門人

小野 素平 中村半之進76 菊池 大六77 門奈岩五郎65

師岡孫三郎64 天野伝三郎75 鈴木 直平56 成瀬 直記12

岩井 助八 大岡 二郎2 玉造六之助3 船橋勘兵衛

佐倉藩 立身流佐治清吉門人 館脇峯次郎69 小関 本治6 石井富次郎77

右同日於同所試合 (一五日不都合だった人であろうか。)

3/23 館林藩 (秋元分領・山形市漆山に代官所、郷校は天董市高橋)

師範 杉江鉄助 取立桑原雷之進(掲額) 於漆山演武場試合

田山鍋十郎(田山花袋カ) 田中直二郎門人 山田 安助(安政3・11・70)

森谷吉三郎門人 高田 産松門人 小林鍊之助(安政4・12・21)

森谷左一郎門人 片桐弓次郎門人 遠藤喜七郎

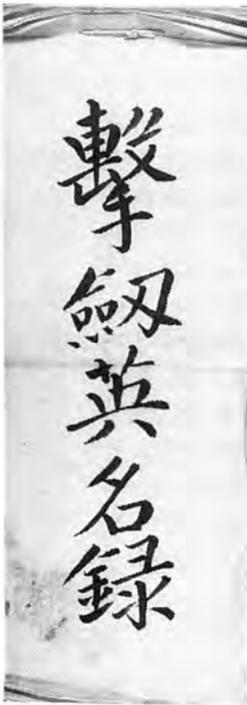
吉田新七郎(安政3・11・13) 大瀧 綱治門人 塩谷国三郎門人

島崎鉦之介 町田 金佐 小沢助七郎

岩井 金八(七カ) 高木鉦一郎(安政3・11・20) 佐藤 寅治門人

吉野吉太郎門人 山田左右輔(備前) 村岡梅五郎門人

直接には関係はないが、六権八幡宮社殿に、田嶋の額とは別に、安政五年七月奉納の額が二面ある。一は秋元但馬守内大久保鼎一貫門人六四名の氏名、一は剣術千戦自鷄鳴到于黄昏とあって、安政三年一月四日八六五戦勝の森精一郎から、同四年二月二日六〇



撃劔英名録

安政四年二八歳、四月、お蓮と弟熊三郎を連れ江戸に出る。八月淡路坂に開塾、千葉から近いうちに中目録免許(道場をもつことを許される)の内示があつたので、そうすれば文武両道教授の看板をかけるが、それには道場の増築を必要とする。安政六(一八五九)年三〇歳、父に塾増築相談のため、門人小栗篤三郎(註1)をつれ、途々劔術試合をしながら清川に向う。この時の記録が『撃劔英名録』である。

注1 尾州藩領生まれ。千葉周作門、後八郎につく。維新後新政府に仕え兵部省札問司になる。『八州武術姓名記』にのり、北辰武二刀流を創始したのと。

注2 以上小松山勝一郎氏『清河八郎』による。

以下『撃劔英名録』の内容を紹介する。ただ山形周辺以外は試合人名は省略したい。(一)内筆者

2月/17日 関宿藩(千葉県東葛飾郡関宿町)

大久保金左衛門 門人一三人 他に九人

2/19 古河藩(茨城県古河市)

片山勇次郎 門人三〇人 於教武場

2/21 宇都宮藩(栃木県宇都宮市)

西川半六・和田新介・渡辺量平 門人二四人、下館藩二人(茨城県)

2/26 大田原藩(栃木県大田原市)

小野派一刀流児玉荒二郎 門人七人 於清水道場

2/28 白河藩(福島県白河市)

小野派一刀流森元與大夫 門人一六人、田宮流二人

3/8 仙台藩(宮城県仙台市)

桜田良佐(北辰二刀流) 門人一〇人 於済美館

3/14 山形藩(山形県山形市)

注 姓名の下は筆者が補う。

氏名傍の(一)内は『庶士伝後編』による筆者の推定

〔1〕試合当時の役職名と給料、その役についた年月日

〔2〕家禄 〔3〕試合当時の年令

〔1〕、当時の役職など 〔2〕、家禄

一刀流

水野 求馬

者頭 5・2より

家禄二五〇石

心形刀流

志賀浅右衛門

嘉永6・12より使者役

〃 二〇〇石

神明念流

田島 岩尾

天保9・11・10より劔術師役

一 二〇石

一刀流

千葉 造西

安政3・12・4より騎士

一五〇石

浅山一伝流

呼子 貞人

安政元・8・25より小普請

家禄二〇〇石

一刀流・真影流・神道無念流の四派が書いてある。

右門人

〔1〕、当時の役職など 〔2〕、家禄 〔3〕、当時年令

花村 進

大工頭 普請奉行兼

二〇〇石

丸山 禎三郎

應徒 八両三口

二六〇石

真田 勇馬

中應徒 八両三口

一〇〇石

須賀井定之丞

中應徒 八両三口

一五〇石

23

山形水野藩剣術師範役

田嶋岩尾とその門弟について

嘱託 川瀬 同

平成四年度企画展の一つとして「山形の志士 清河八郎」展が開催され、そこに『撃劔英名録』(清河八郎記念館蔵)も展示された。私が

『撃劔英名録』を知ったのは、小山松勝一郎氏が山形新聞紙上に発表された「清河八郎と山形」¹⁾によってである。当時『庶士伝後編』²⁾(山形市史資料第71、73号)の執筆を終え、個々の水野藩士について深めようとしており、その一部として水野藩剣術師範役田嶋岩尾の奉納額³⁾に門弟四七名という多数の氏名(後掲)がのつており、その構成について調べているところであった。また、その頃田嶋の子孫の方の来形もあった。そこで小山松氏にお願いし、『英名録』の一部分の写真を送って頂いたが、今回は全体を閲覧する機会に恵まれたわけ、未だ不十分ではあるが中間発表の形で、六榎八幡宮掲額の氏名、すなわち田嶋の門弟と田嶋自身についてまとめたい。

注1 「山形新聞」平成元・11・21 「清河八郎と山形」Ⅱ「西遊草」のこと
右全 11・25 「統清河八郎と山形」Ⅱ「撃劔英名録」のこと

注2 嘉永二年、藩主忠精の命で『庶士伝考異』の後編として、関泰継(老)が総裁となつて、秋元吉順・佐藤正喬の協力を得て、宝暦五年以降の藩士個々の履歴の概要を編纂したもの。安政三年三月完成

注3 山形市八日町六榎八幡宮。所在は渡辺信三氏に教えて頂いた。小山松氏もこの額について前記でふれておられる。

一、『撃劔英名録』について

弘化四(一八四六)年五月十八歳で上京した清川八郎は、八月一日東条一堂に入門、翌五年第一回の西遊を試み、弟熊次郎の死によつて清川に帰る。嘉永三(一八五〇)年二月三日出立京都へ向う。大坂にも遊び名家を訪ね揮毫を求め、ついで九州遊歴を行い、九月二一日江戸に帰る。嘉永四年二二歳、正月一堂塾に再入塾、二月一日千葉周作門に入る。嘉永五(一八五二)年二三歳、二月一日安積良斎塾に転ずる。閏二月二十四日千葉周作から「初目録」を受ける。嘉永六年蝦夷地視察を計画し帰郷、五月一二日松前へ出立、八月下旬帰郷。嘉永七年二五歳、三度江戸へ、三月上旬昌平齋書生寮に入寮。一月五日三河町に「経学・文章指南 清河八郎」の看板を掲げ開塾したが類焼、安政二(一八五五)年二六歳、正月帰郷、三月二〇日母を伴つて西遊、塾再開のため七月二七日江戸着、葉研堀に売家を求め、八月二三日江戸出立、九月一〇日清川着、安政の大地震の報が一〇月一〇日頃清川に入る。一〇月一七日出立、一〇月二五日江戸着、買った家はこわれ売り拂つて帰郷、勉学に励む。安政三年四月弟熊三郎を仙台に伴い、桜田良佐、敬助(千葉周作門)に託す、九月一五日仙台に向う、糠倉町にお蓮と住む。

平成5年3月20日 印刷

平成5年3月20日 発行

山形県立博物館研究報告 第14号

編集・発行 山形県立博物館 ©

〒990 山形市霞城町1番8号

電話 (0236) 45-1111

印刷所 株式会社 田宮印刷所

